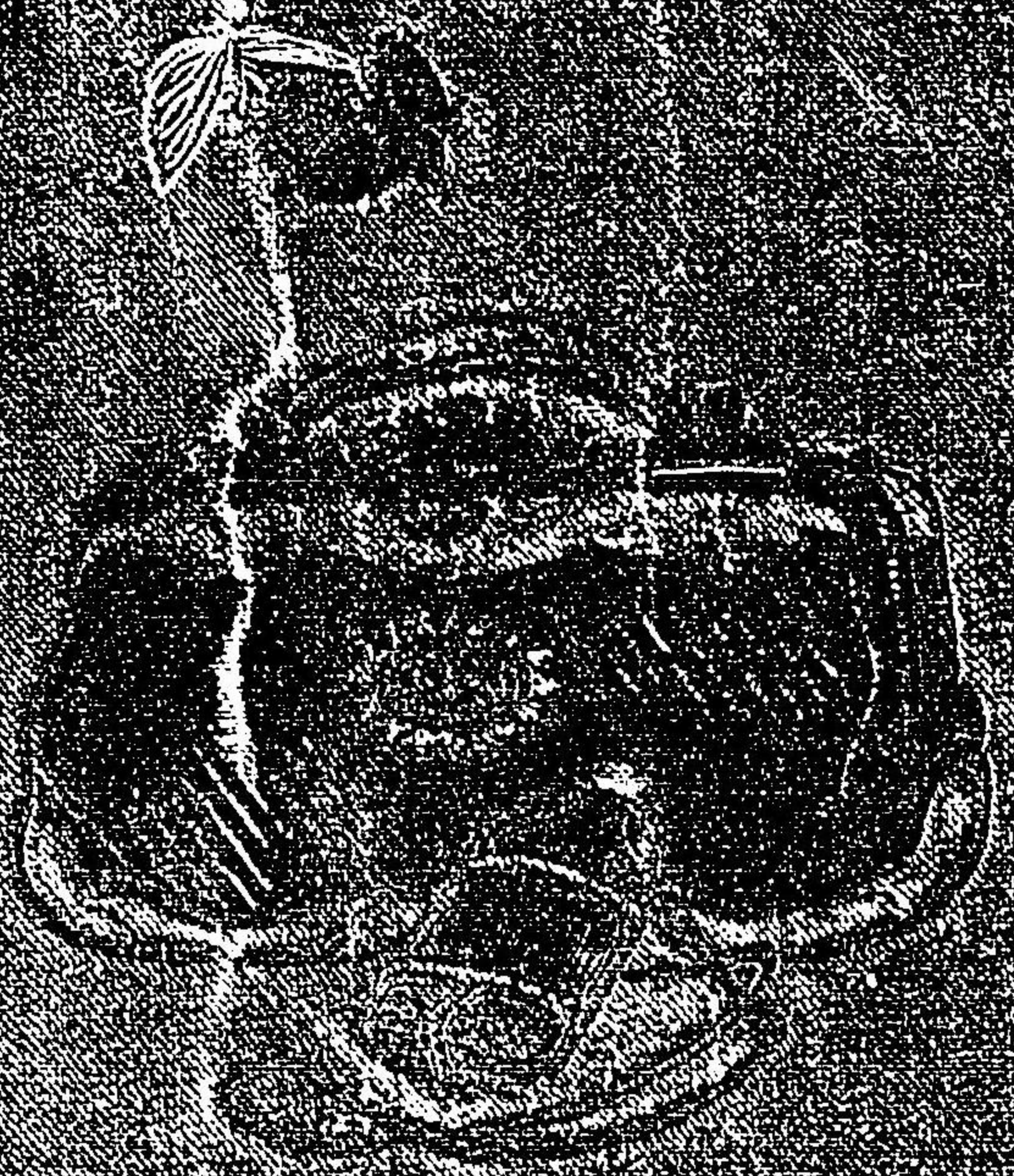
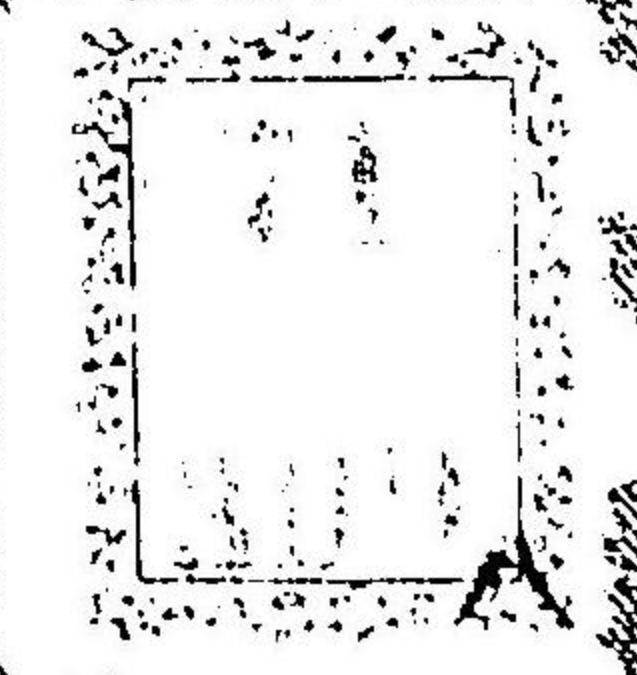


改正增補

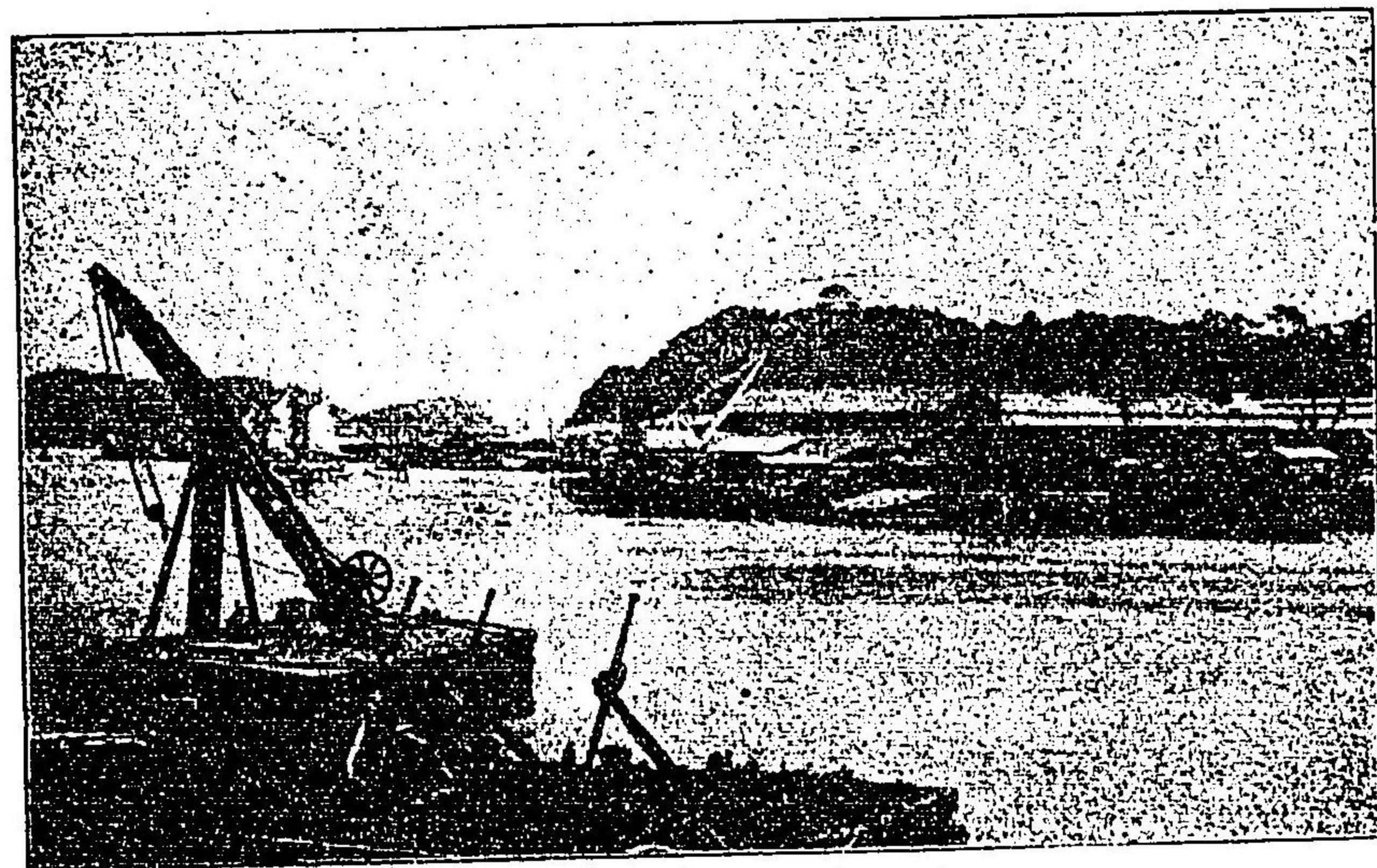
東海山東畿內山陽

漫遊案內

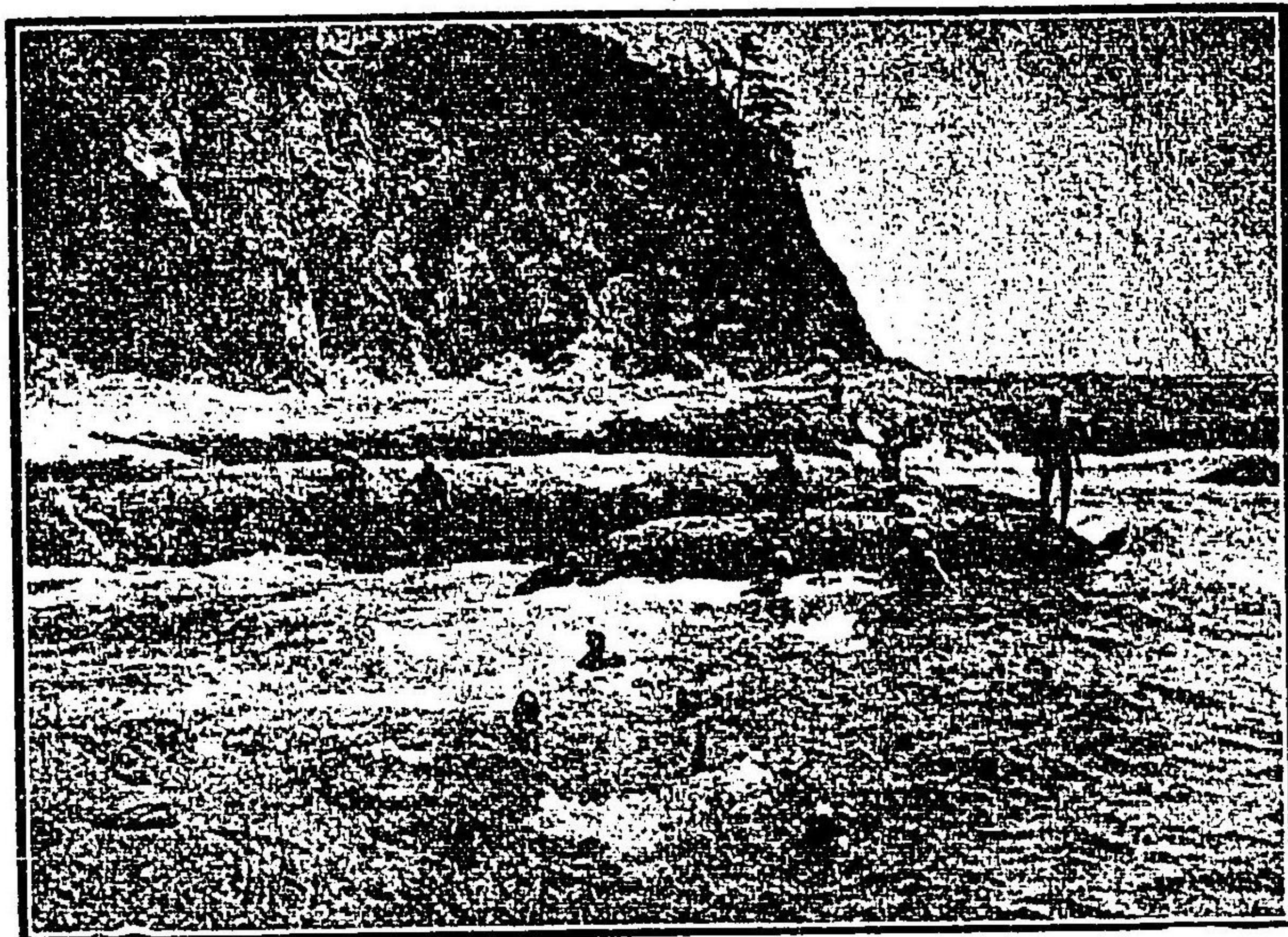




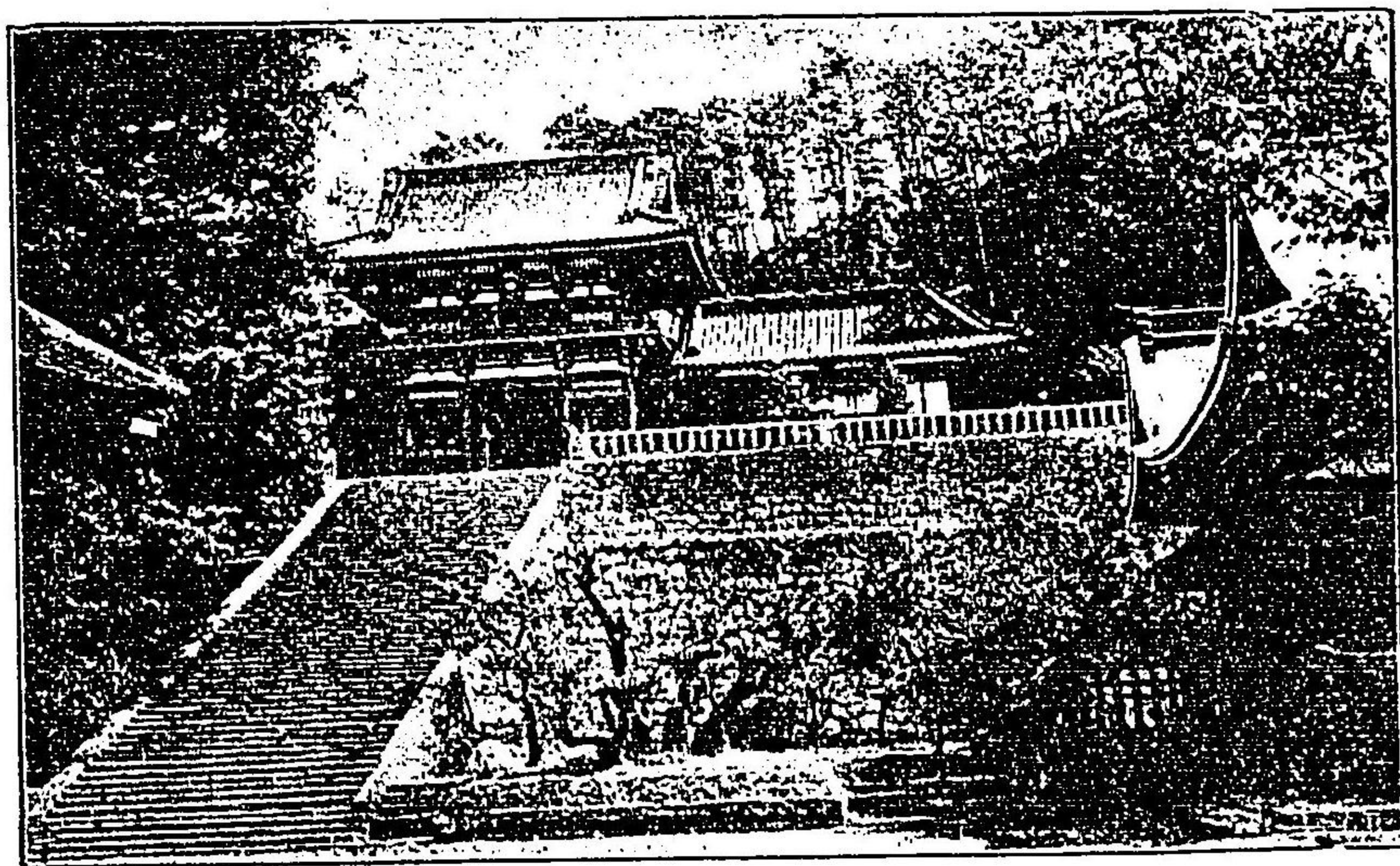
武藏金澤八景



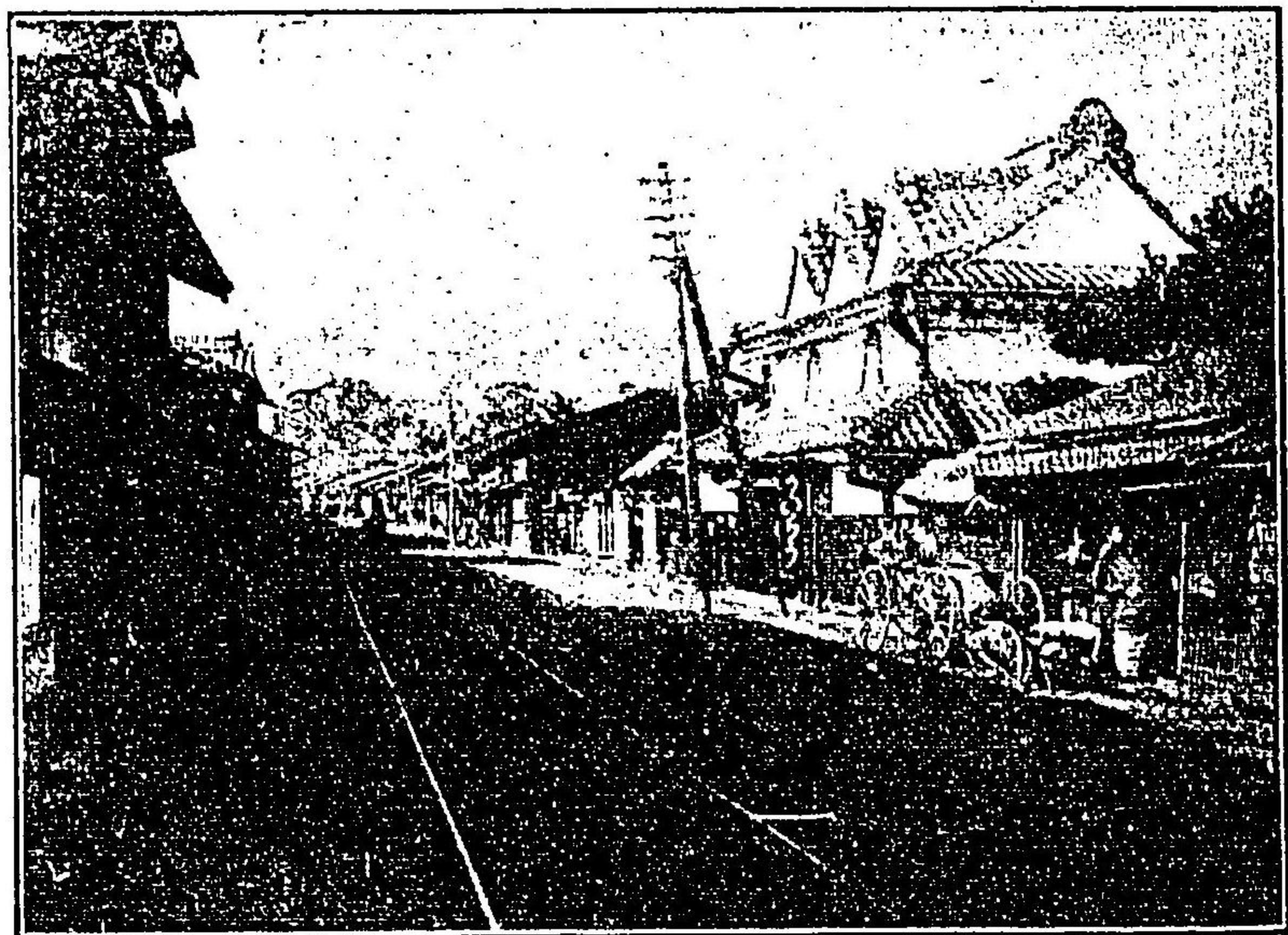
机州横須賀



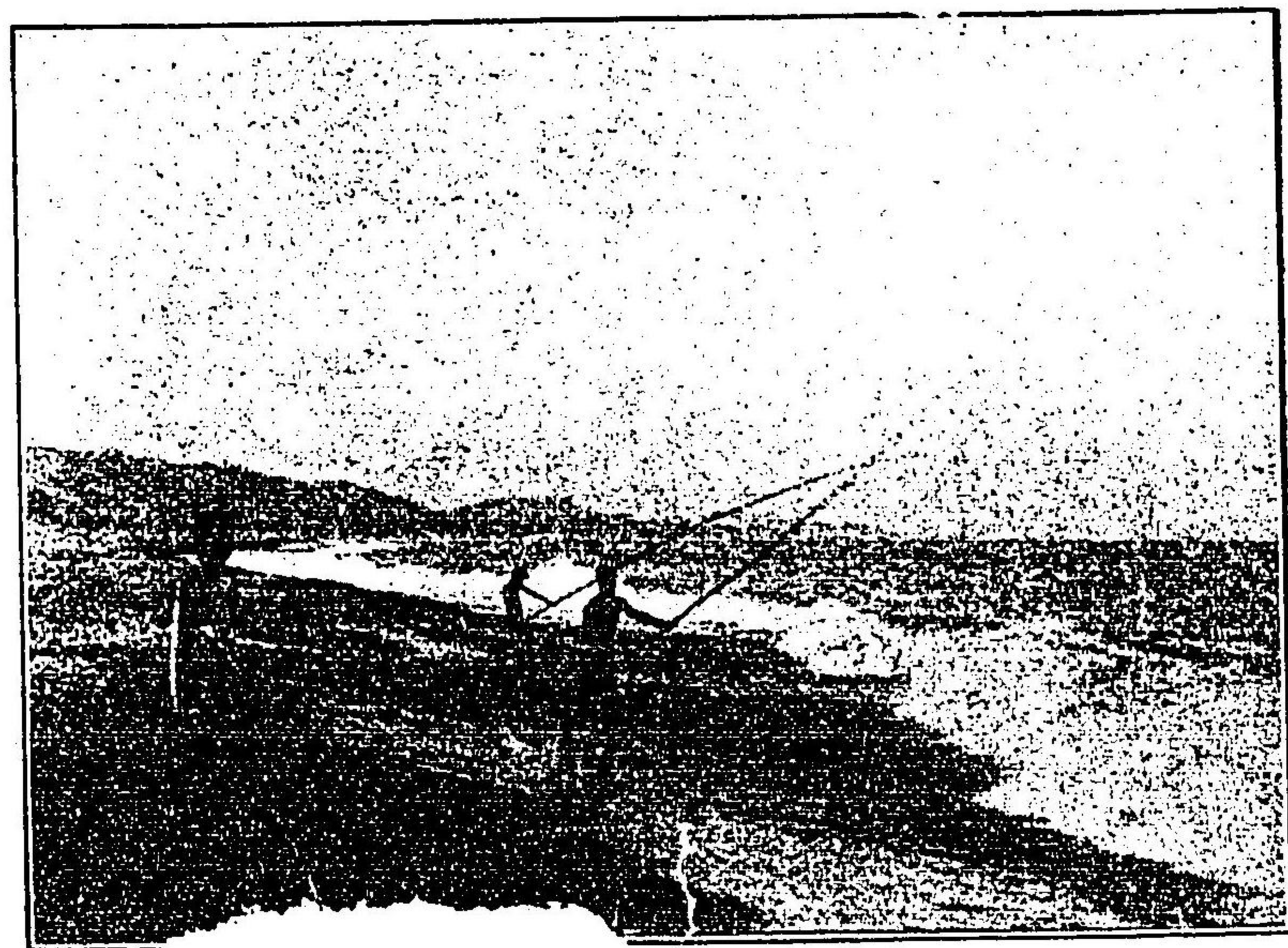
相州江の島



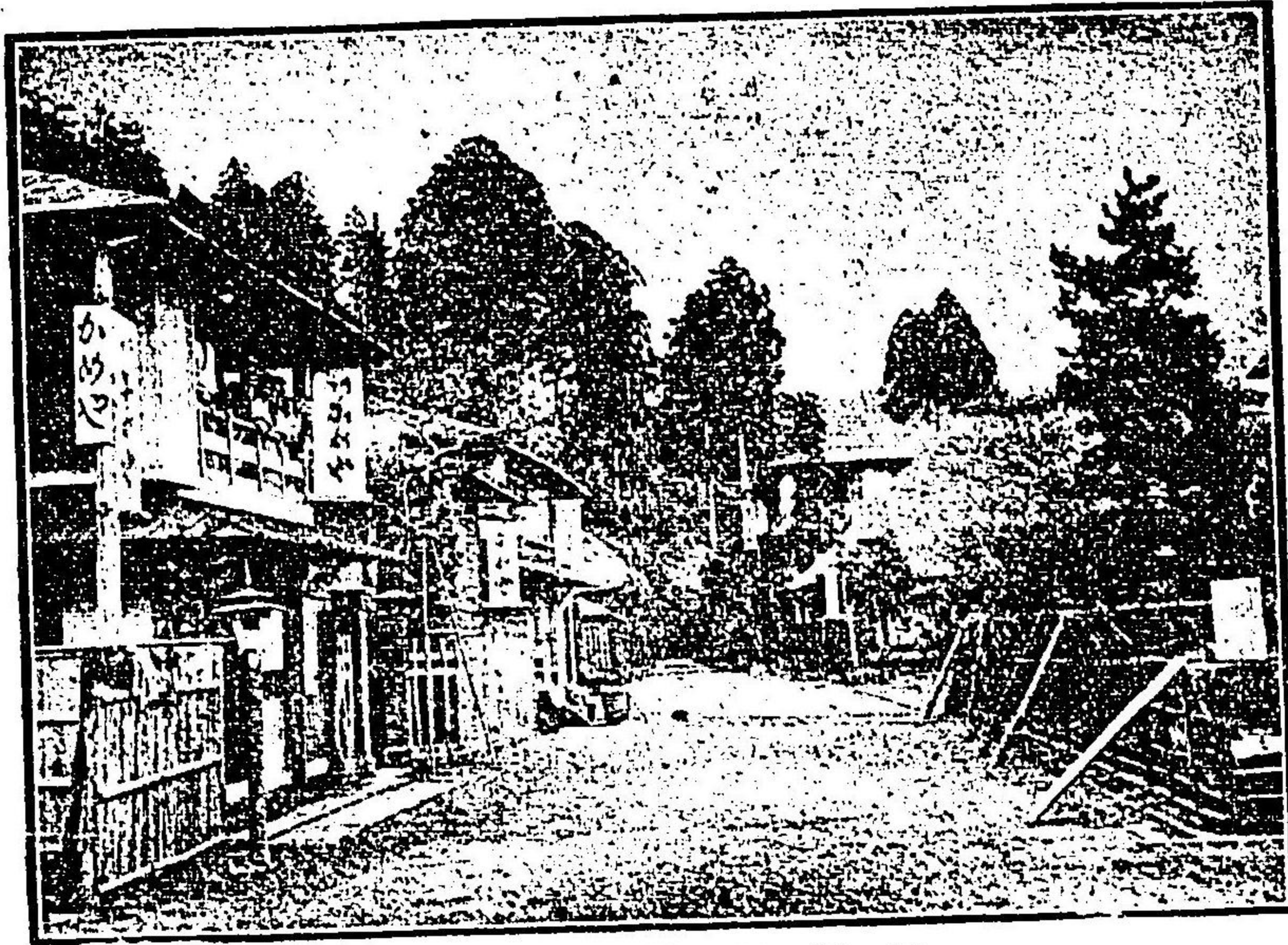
相模鎌倉鶴岡八幡宮



町原田小州相



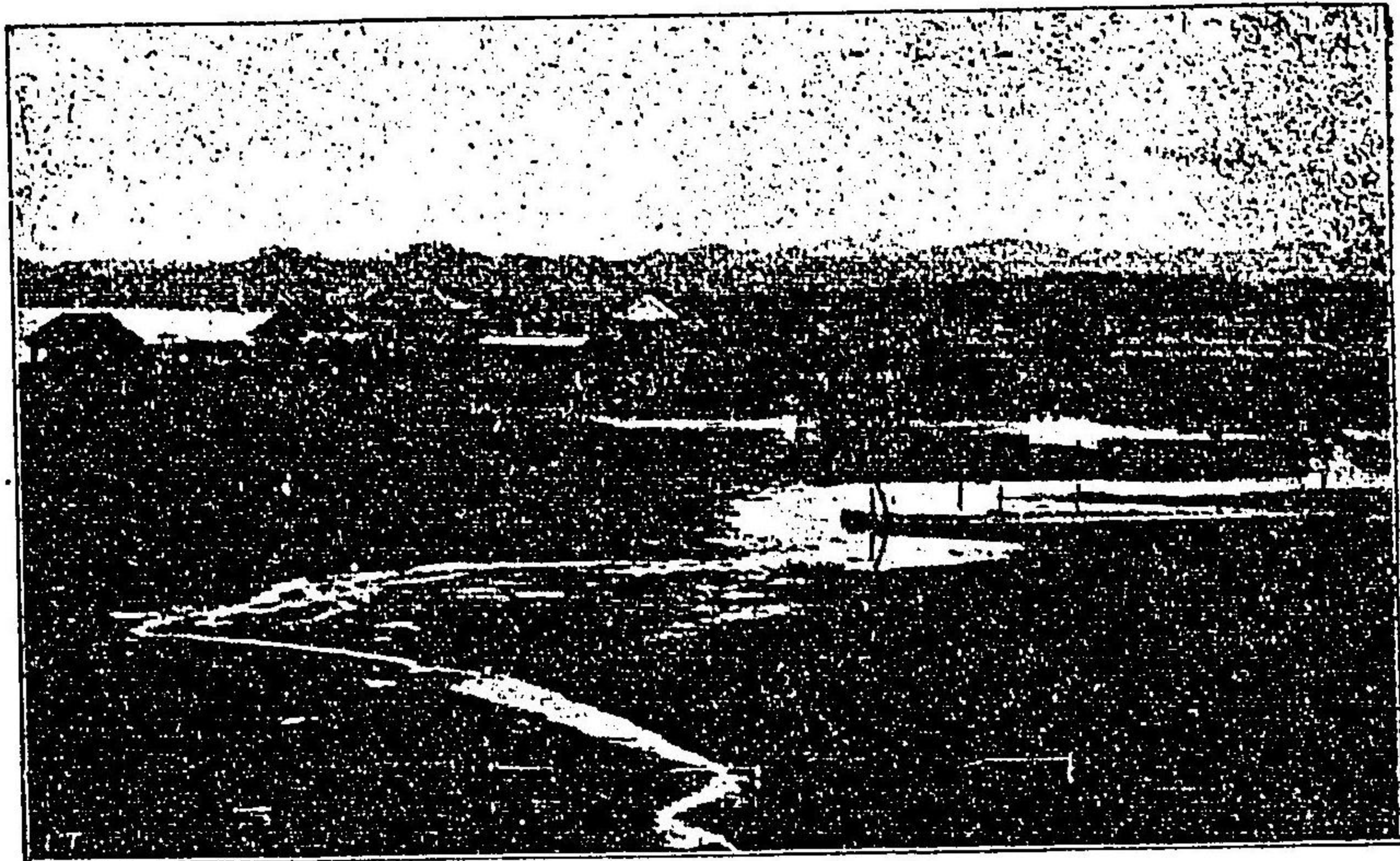
國州相



相州箱根の湯



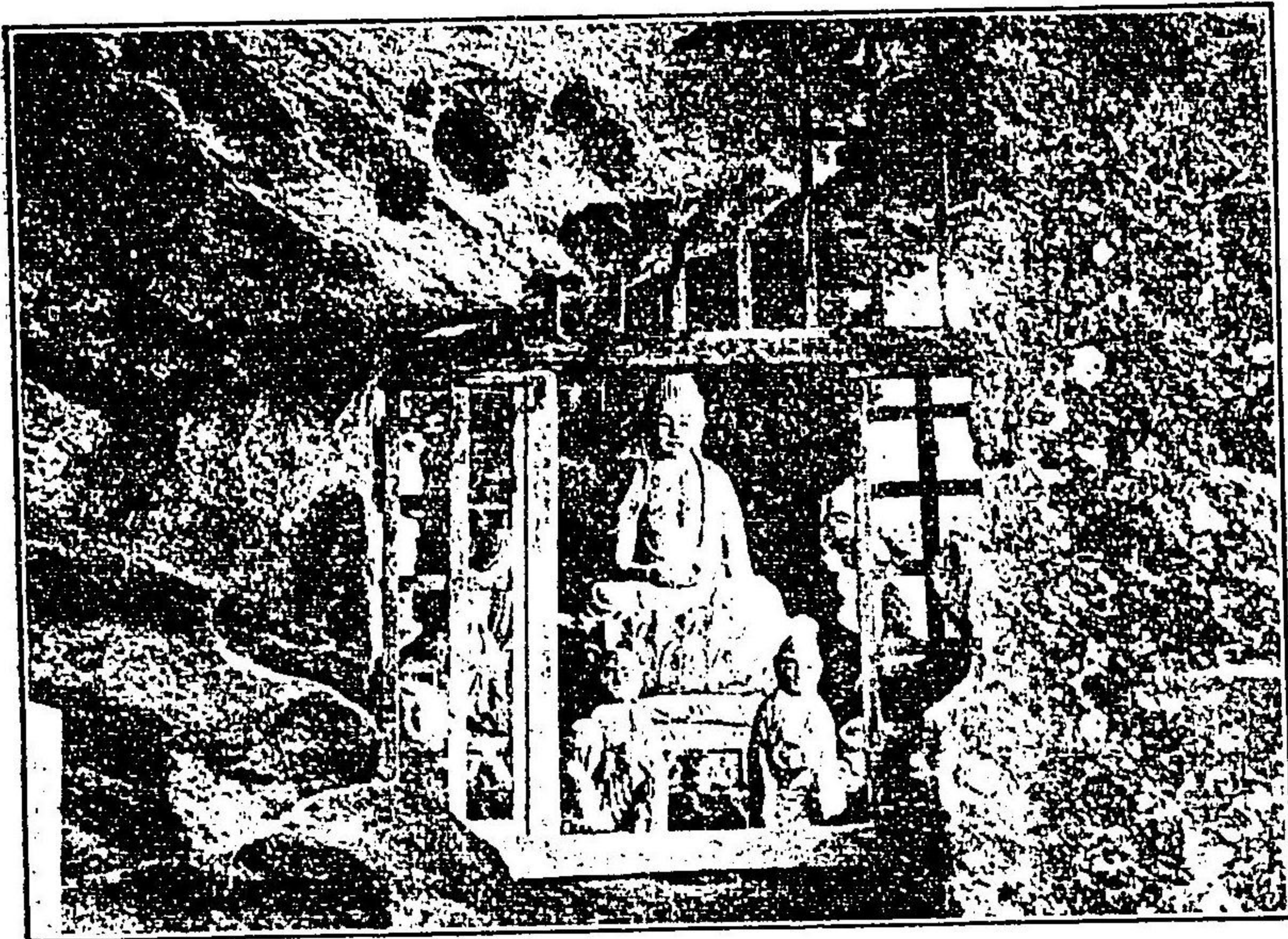
熱海海嘯氣館



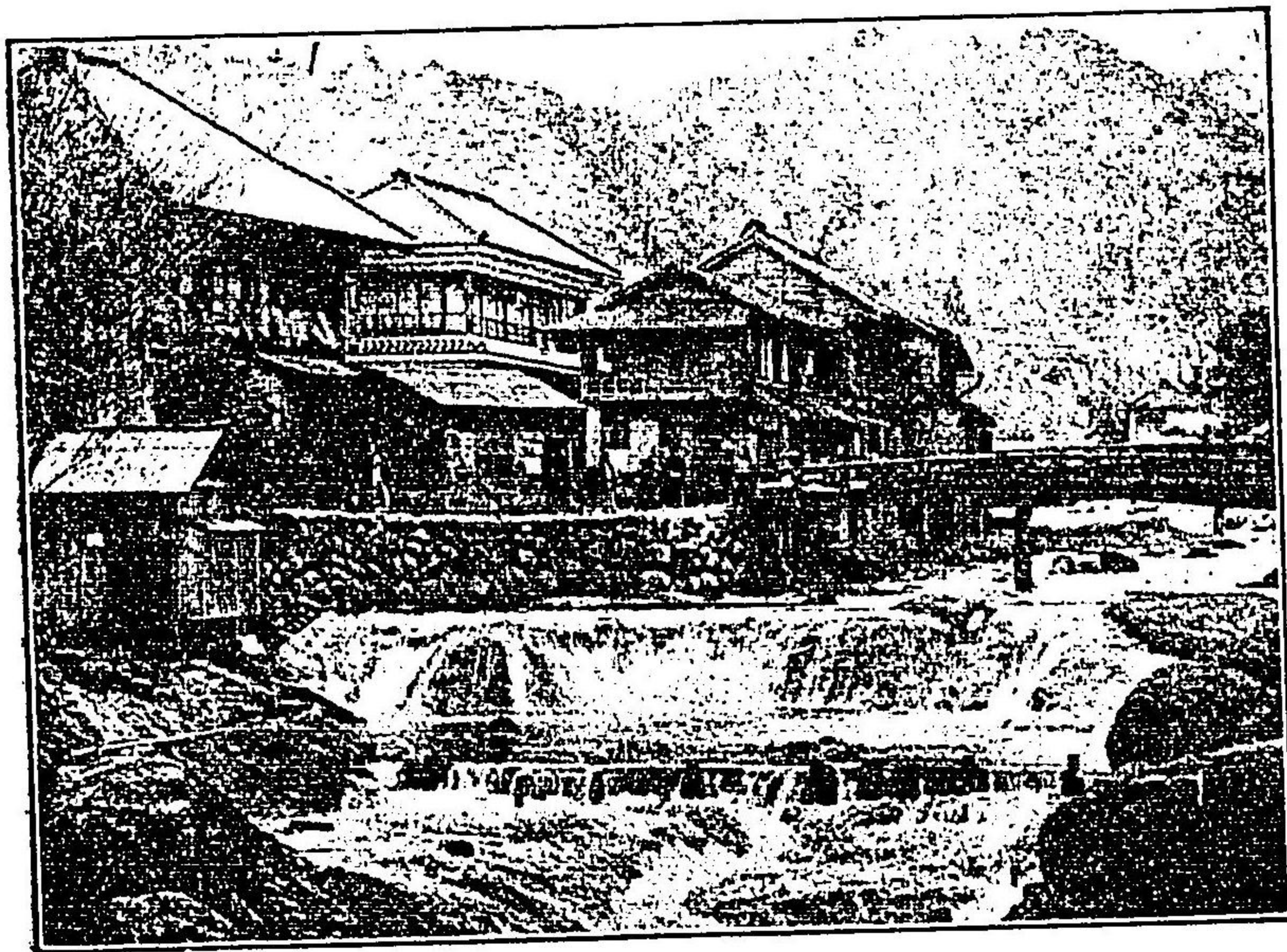
安房北條海岸



千葉縣小湊誕生寺

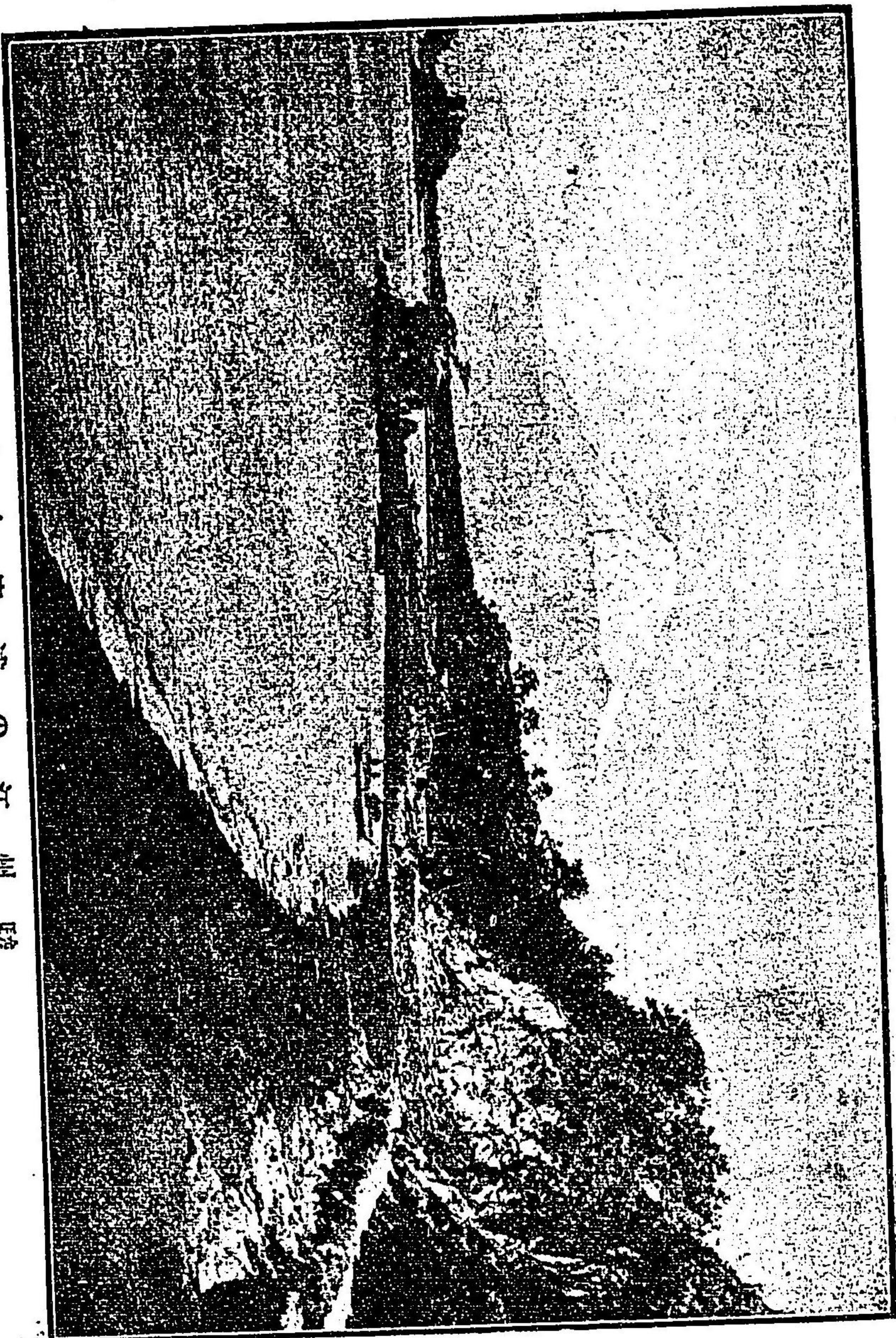


安房鋸山日本寺



伊豆修善寺

山士富浦の江州駿







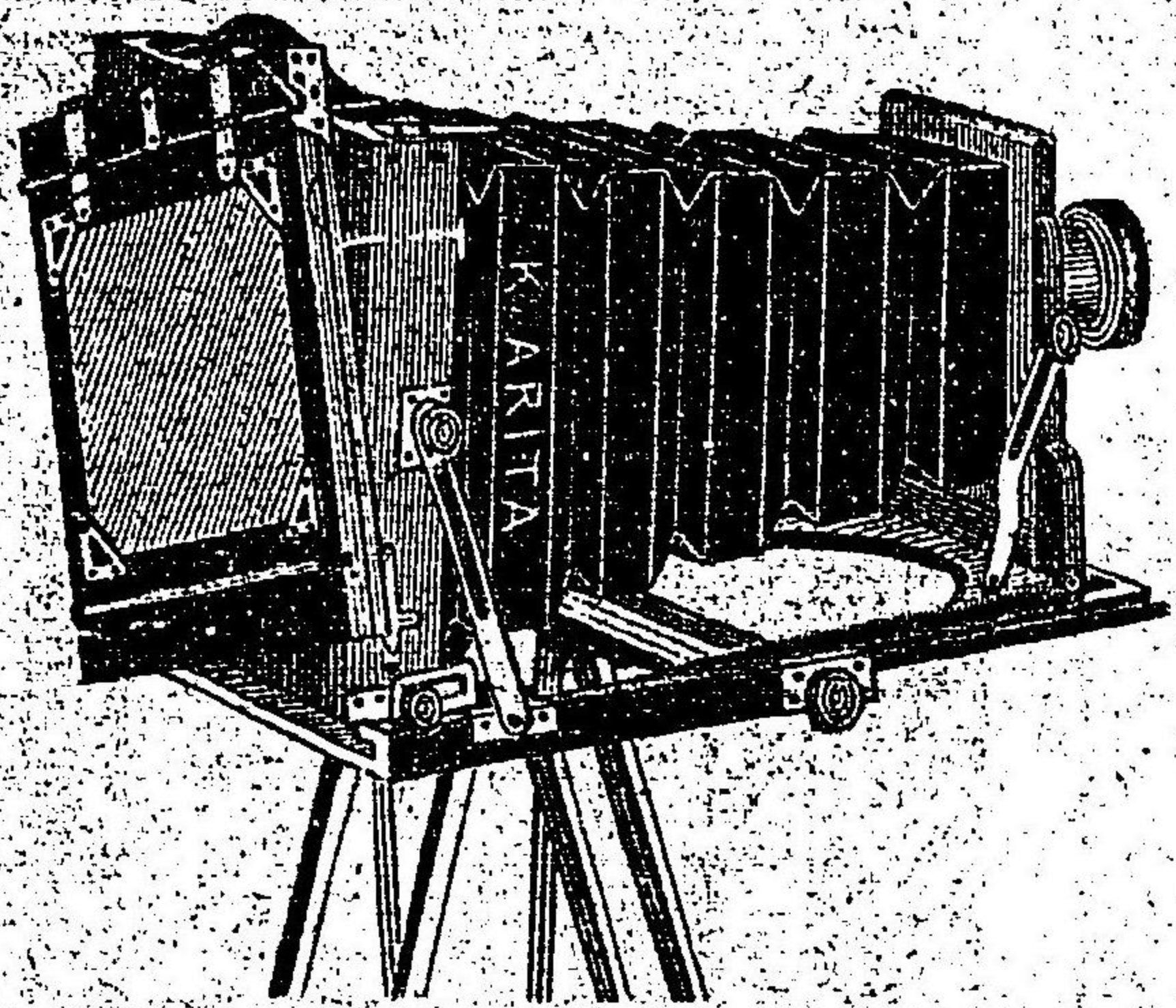
商 入 輸 直 草 煙 來 船 新 京 東  
 店 商 副 江 橋

(五〇九局本話電)

(52119)

素人の方にて易く撮る得し影

# 輕便寫真器



◎宮内省始海軍省台灣總督府御用品

## ●御使用向

●營業用 ●旅行携帶用 ●學校教授  
及學校參考用 ●慰樂用 ●其他用途  
種々

吾東京寫真館より發賣せる輕便寫  
眞器を使用せんとするには從來毫  
も寫眞術の事柄に經驗のなき全  
くの素人方々雖も人物、景色、美術  
工藝品及其他諸種の寫眞を自由自  
在に且迅速鮮明に撮影し得る至極  
愉快なる便法にして方今内外貴顯  
紳士及學生諸君に非常の好評を得  
したる高尚有益なる良器なり仰ぎ  
願くは大方の諸賢達かに一組を備  
へて寫眞術の眞味を試み賜はらん  
ことを謹みて廣告す

郵券一錢投じ玉は、定價明細書を送呈す

◎來館購求の方には弊館内寫眞場にて實地御教授致すべし

◎代價は撮影上必要なる各附屬品一式取揃へ一組金五圓、七圓、十圓、十五圓、廿圓、廿  
五圓、卅圓、卅五圓、四十五圓、五十七圓、六十五圓、八十五圓、九十八圓、百三十圓、  
百五十圓、百八十圓、二百十五圓以上種々貳百圓まで

## ◎遠國御注文

は着金次第適當品御見計ひの上小包郵便送料本館持にて運送す

## ◎寫眞術開業望

の方には營業上毫も差闕へなきマラ速成と懇篤に御教授す

●遠隔 諸君には方法の簡便なるものに一々圖解を加へ且非常の熱心と親切さを以て講話的に説明  
せし使用法書により御教授し萬一不明瞭の點あらは實問に應じ充分御教授の任を盡すべし

東京市神田區  
御成道旅籠町

# 東京寫眞館

避暑旅行

之好伴侶





親切ト勉強

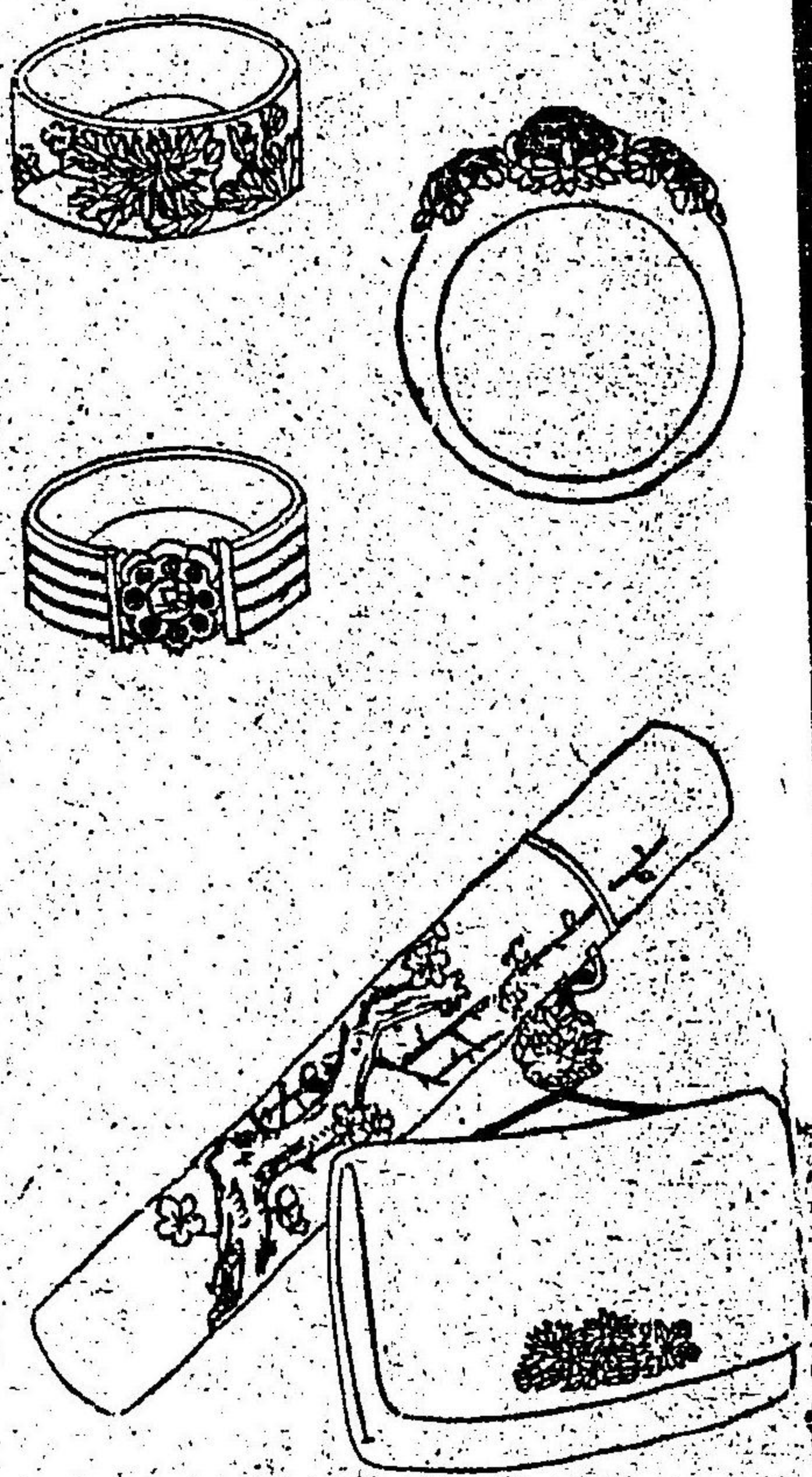
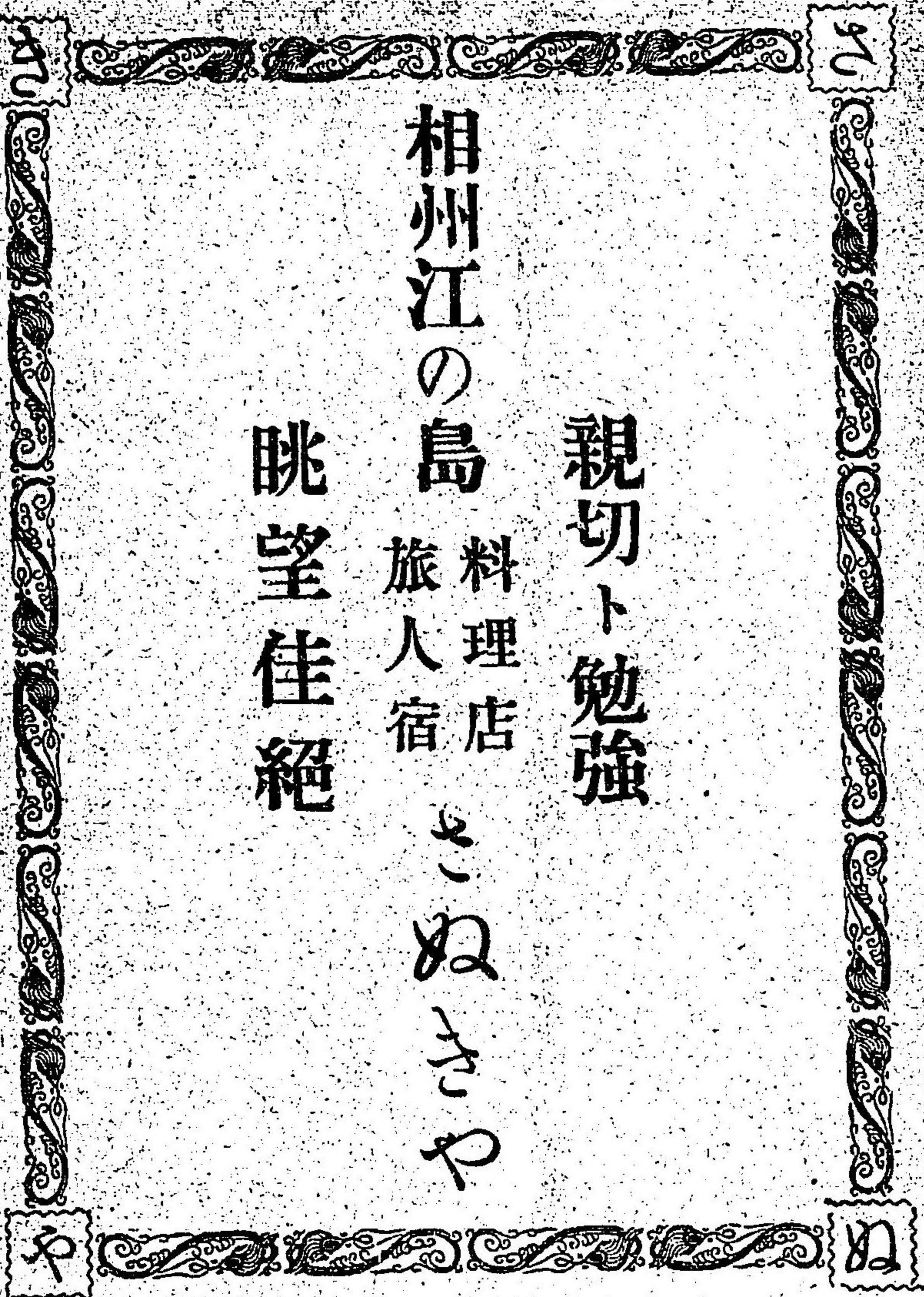
相州江の島

料理店  
旅人宿

とぬきや

眺望佳絶

(二八四)



専賣特許懷中香水吹 洋銀製、真鍮製其他御好次第

貴婦人方の根掛、鑲嵌留やら、信玄袋に名刺並に寫眞入。紳士用には金銀パイプ巻貫入、  
 價管緒メ前金具、寶玉石の彫刻は美術學校諸先生の意匠を重に則りて、堅牢無比を土  
 塞として調進仕へく候。堅固・優美・迅速・信用・勉強の五ツは弊店が蓄來  
 愛顧諸彦より賜りたる金鶏勳章なり

東京々橋區南傳馬町 袋物及香水吹商  
 三丁目十六番地 貴金屬裝飾品

丸屋商店

金子直吉

(一〇五)

御料理 喜多川

喜多川の二層樓

寸眸萬景の光を放つ。筑波の緑は千秋の色を凝し。富士の白  
 妙は霞の關も眺も廣き羽田沖。沖に漂ふ蟹小舟の行  
 たる霞の數も一衣。花鳥風月。春夏秋冬。さても四時  
 きる雲のぬに風光の。鮮麗の美味佳烈の芳馨。靜かに一酌  
 を此の園の給は。陶然我を忘れて眞に仙郷に悠遊する  
 のを想ふらん。

江戸前名うき御料理  
 戸と代なの

電話本局  
 四三二五番

北北北北北北  
 川川川川川川  
 はのののののの  
 業仕御三殊料京橋  
 會出多層に理區  
 の料數樓饀は海新  
 折理御は料渾橋の  
 詰は集眺理て衛の  
 殊迅會望を生に出  
 に速の佳以生に雲  
 勉な廣絶てに注町  
 強るき都下意に専  
 の最宴の仙に専ら  
 好評會席名あり  
 ありありありあり

味新に喜  
 橋客は  
 川多

桃太郎印煉乳

代理店 名古屋 愛松 下善四郎 店

發賣元 洋酒問屋 鈴木恒七郎  
 東京市日本橋區本町三丁目  
 (電話本局 千四百三十五番)



第四回博覽會ニ於テ褒狀  
 ナ本ヲ拜受セリ  
 ナ蒙品ハ陸軍御用品ノ名譽  
 (584)

旅行必携無類最上日本酒燻詰

# 雪月花



二合塚と四合塚の貳種あり

東京神田今川橋

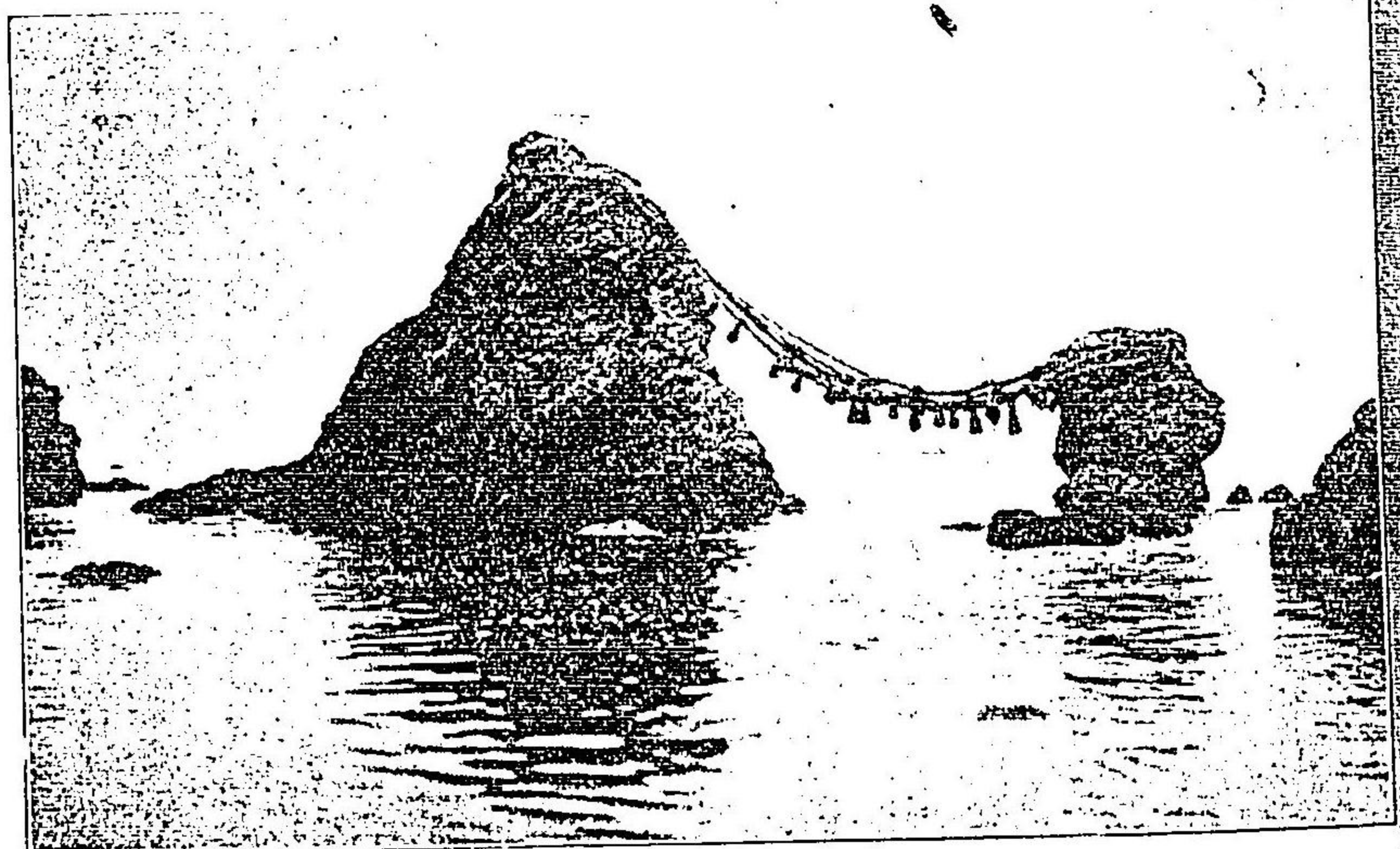
發賣元

西宮本店

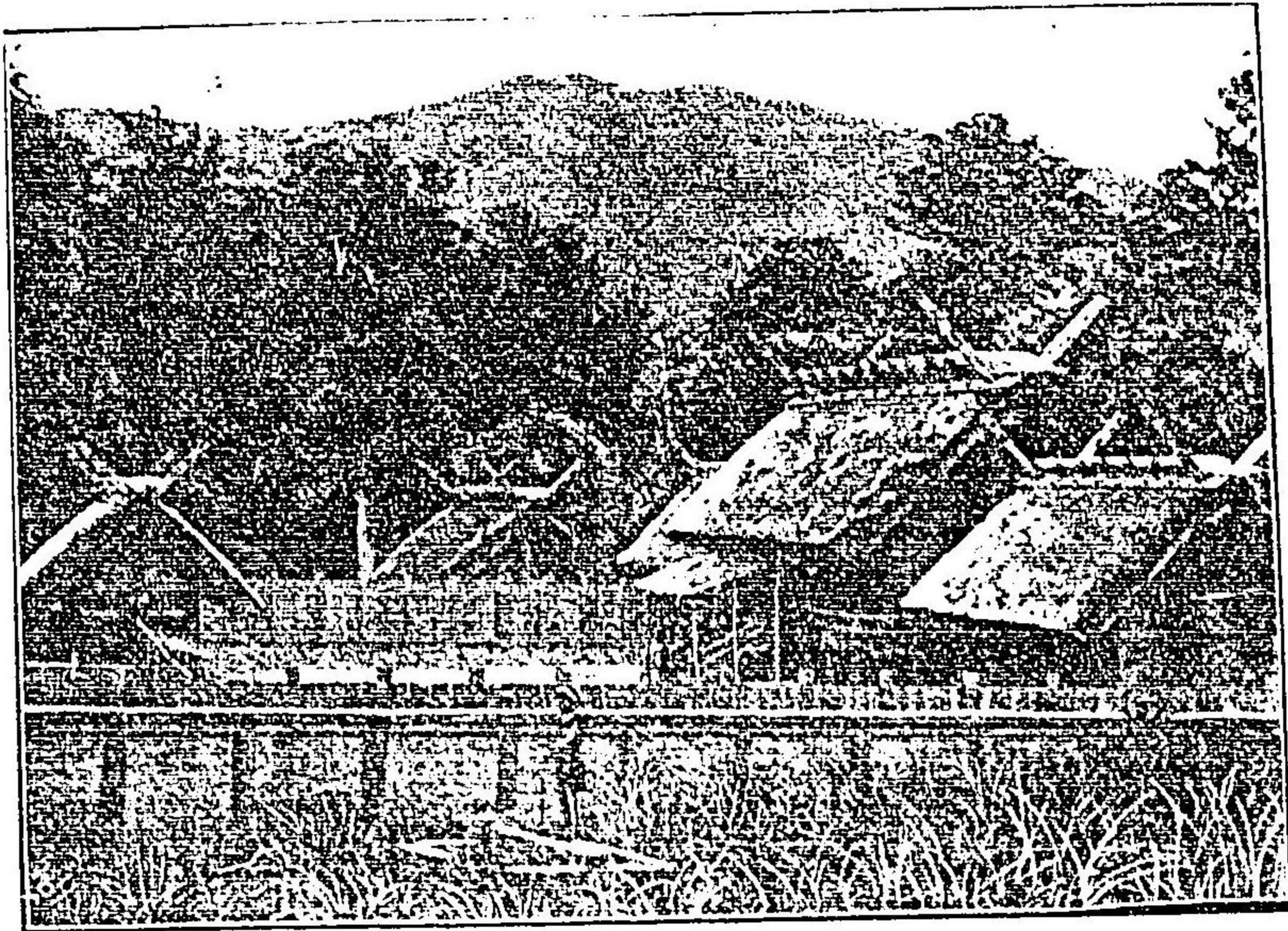
電話本局百七十番



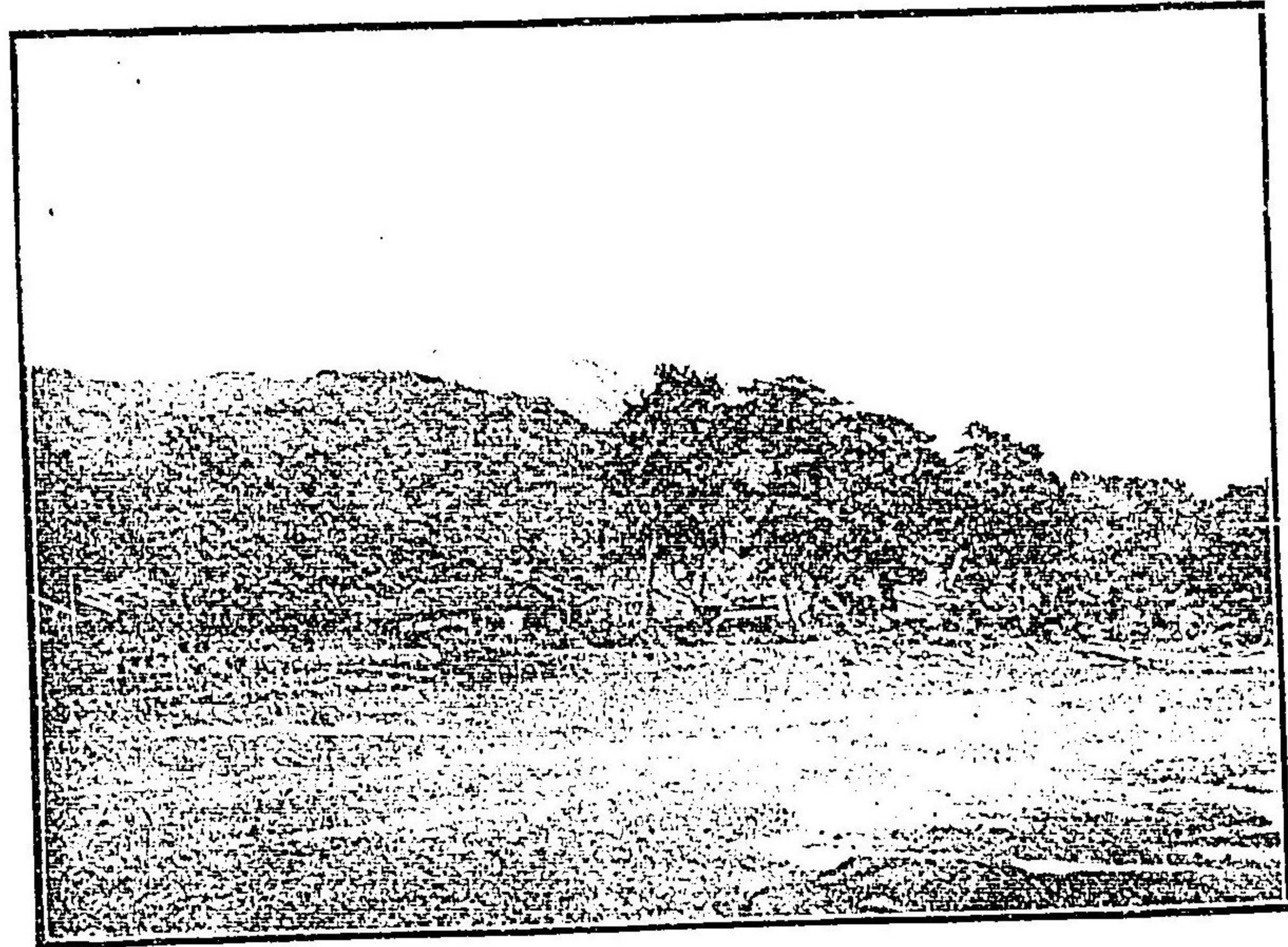
駿河富士絶頂劍ヶ峰



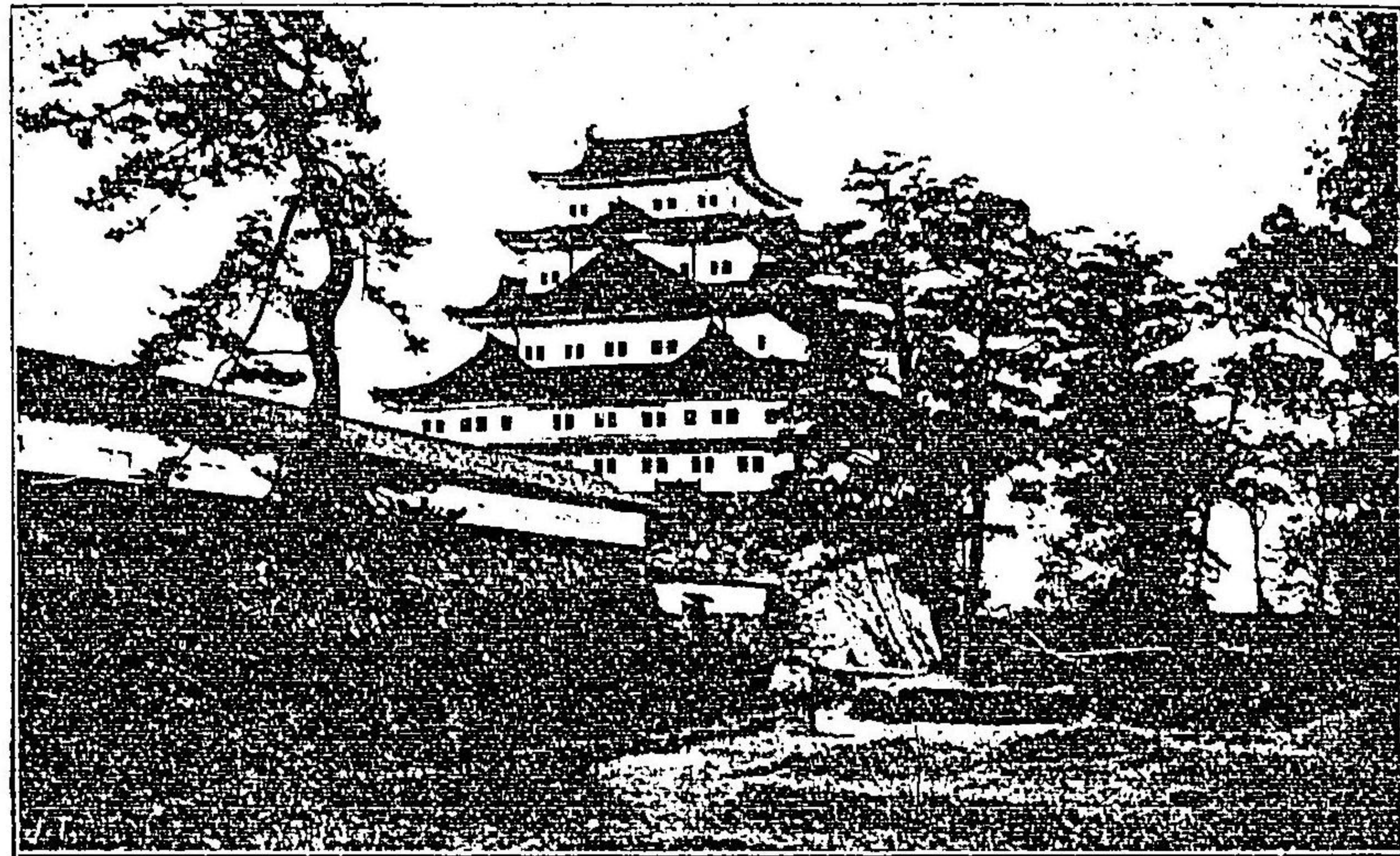
伊勢二見浦



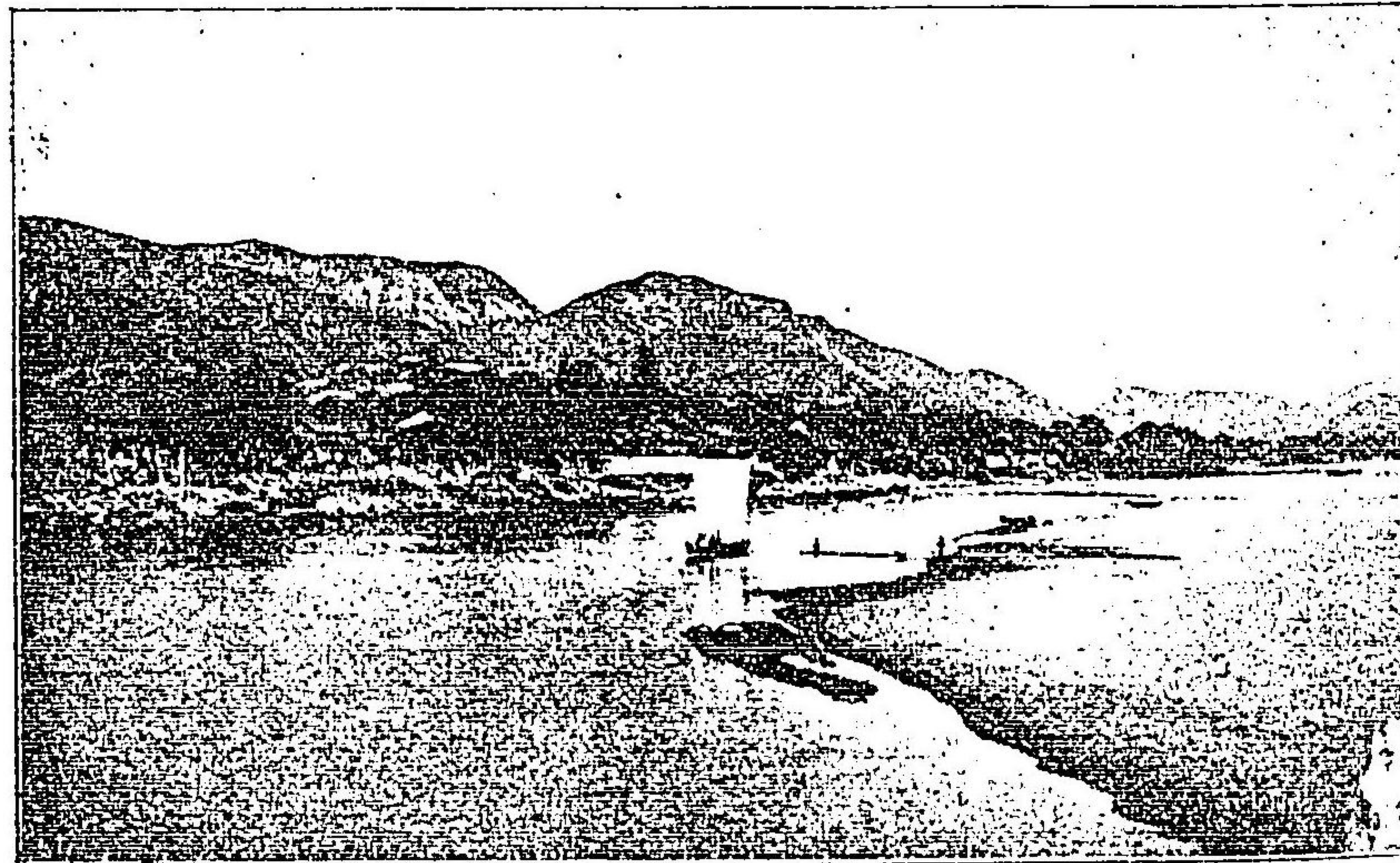
伊勢内宮



興津



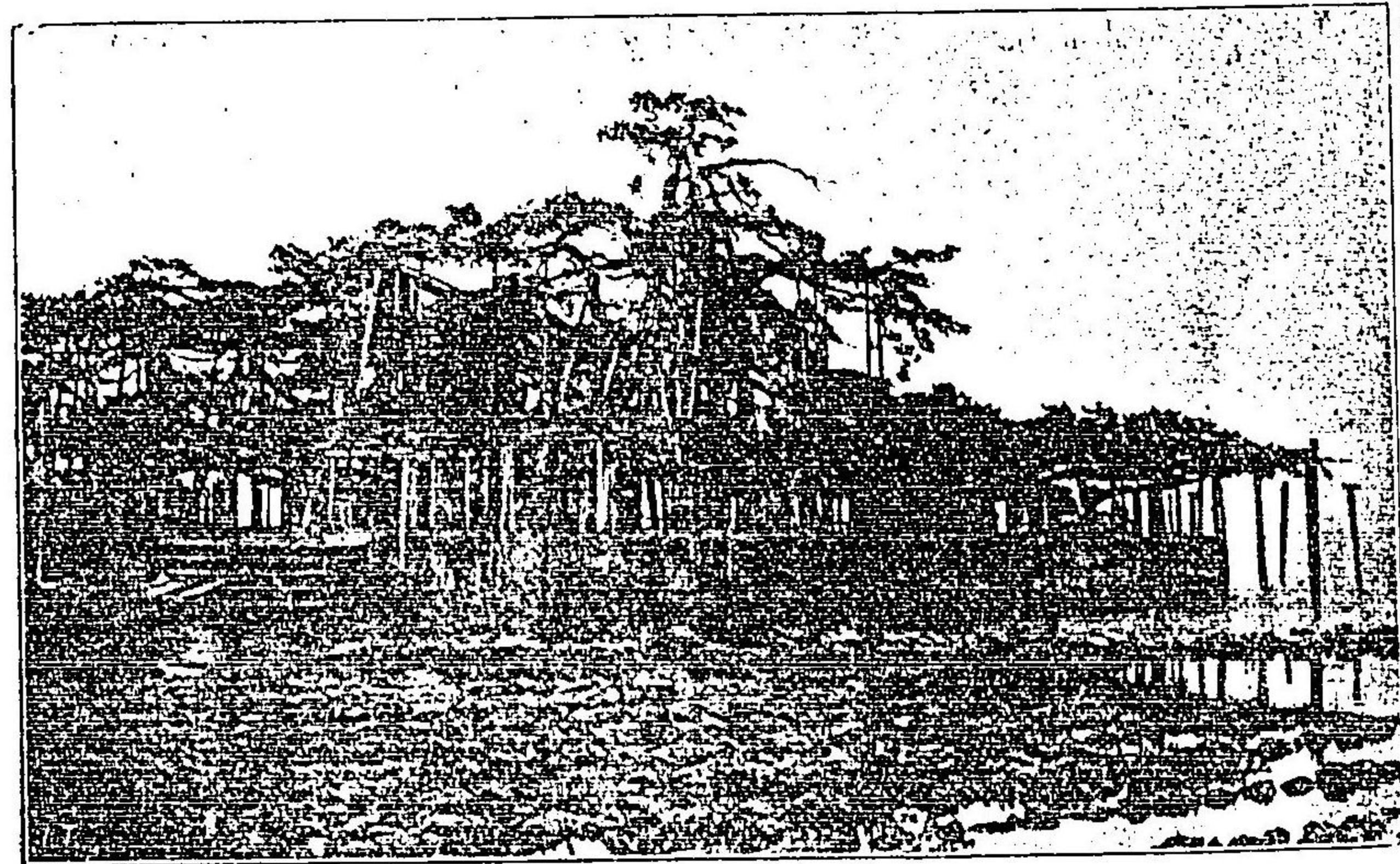
城屋古名張尾



川長濃美



近江石山寺

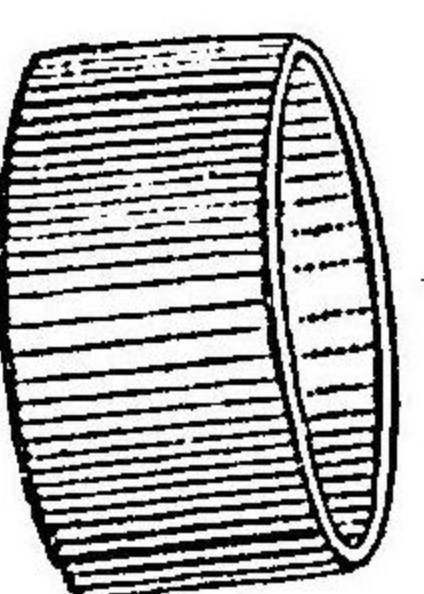
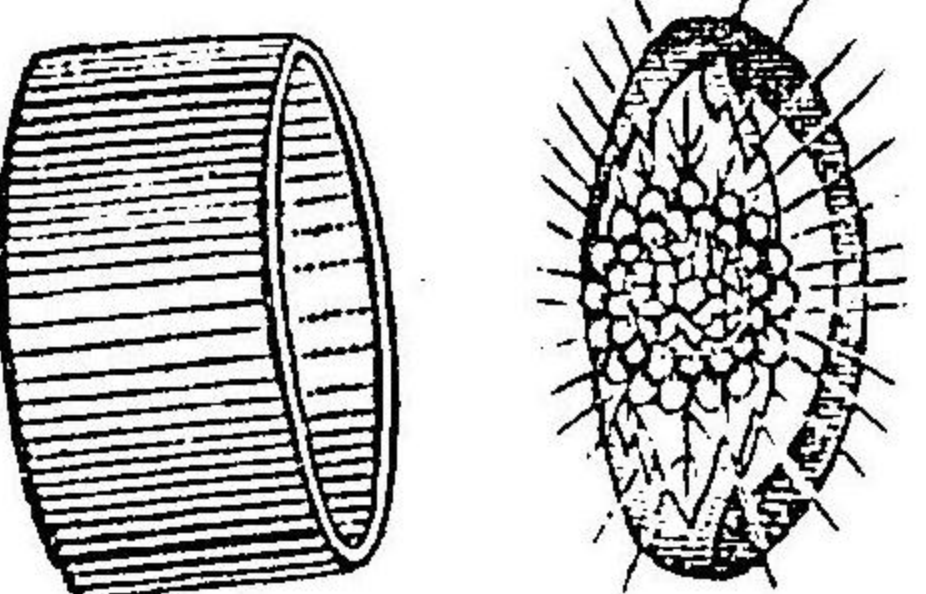


近江唐崎松



# 美術金製指環

一個五圓以上  
 定 餘は御好み  
 價 に應じ調製  
 仕るべく候



文明の風天が下に吹き渡りて、日々に開け行く今の世は男

女に論なく家の外の業務に忙しく遊蕪の交際樂し、され

ば何れも他に後れず時様を競ふ雅男婦女のその中に交り

て、輸けず劣らぬ容儀は、強ち奢侈の沙汰にはあらずし

て、誠や谷に玉なれば其水や美からず急なり、弊

堂年來斯の道に心を注ぎて、時様の源となりたるが多き

中に、爰に亦た新案の指環數種あり、意匠は都て大家の

苦心に基き、技巧は皆な名匠の丹誠に成り、金質の純

良はいふも更なり、寶石の精美に論するに及ばず、風韵

の高雅なるこそ世に類なし、謹んで時様に晚れたまはぬ淑

女紳士に告げ参らすと云爾

東京下谷池の端貴金屬美術袋物商 玉寶堂 白謹  
 伸町廿九番地  
 (電話本局九百六十五番) 飯塚伊兵衛

# 菊屋旅館謹告

各位益御健全奉賀候に於ては、先づ御座候に、  
 致居候處各位の御眷顧に、  
 奉存候殊更篤實なりと感銘仕候に、  
 客様方の御蔭なりと感銘仕候に、  
 弊店一事故の御蔭なりと感銘仕候に、  
 配置にひより前々御蔭なりと感銘仕候に、  
 の廻るありて春に桂川流に候に、  
 らかなる空の疾に、  
 被遊候方々の疾に、  
 眷顧の鴻恩に、  
 申上候間何卒陸續御來遊候に、  
 静岡縣田方郡修善寺村

## 御注意

## 旅館

## 菊屋

## 野田脩治

謹白

# 餡製煉乳

(あめせいこんでんすみるく)

牛乳の滋養品たるは世人の信する所  
 なり然るに普通の煉製牛乳の如きは  
 多量の砂糖を混和して製造したる者  
 なるが故に之を服用して腸胃の消化  
 機能を遅鈍ならしむるの憂ありとす  
 獨り此の餡製煉乳に至りては全く斯  
 の如きの虞なきを保證するに足る殊  
 に給は我邦の特産物にして最も消化  
 し易き滋養品なるは古來の經驗と近  
 時醫學上の試験に據りて明瞭なり故  
 に母乳に乏しき嬰兒に用ゐて腸胃に  
 停滞するもなく極めて速かに消化し  
 小兒をして健かに成長せしむると他  
 の砂糖製牛乳に勝ると萬々なりとす



## 發賣元

東京銀座  
 二丁目

樂善堂

岸田吟香藥房

●賣捌所は全國到る處藥舖賣藥店洋酒店にあり御最寄にて御購求を乞ふ

(ろノ三)

(ろノ二)

○弊地は東海道停車場三島驛(沼津佐野間)にて乗換本年五月新設の互相鐵道によらるれば居ながら半日の隙に東京より達せらるべし

○四圍の景色は谿深く鎖して桂川の流響不絶誠に幽邃閑雅と云ふべくもとより千餘年の勝地なれば古跡名地鮮からず

豆州修善寺温泉宿

養氣館 新井平八

○弊館は修善寺最高地にありて家居廣く樓屋相望む

○弊館構内の温泉は菖蒲の湯と稱して諸病に奇効多く清潔壁の如きを數ヶ所に分ち各更に數多の浴槽を設けたれば貸切仕切の便ゆたかなり

○弊館は桂川の流れをせき入れて縦横にめぐらし瀧となし淵となし浴室にも引たれば湯と水とを一時に得る事思のまゝにして殊に夏は河鹿の聲しげく菖蒲の色美はし

○弊館は飾りなく引むきたる如き懇切を以て出來得る限り御便利と低廉を期す

國民小説

自第一至第八 取揃應賃需  
定價第五卷貳拾錢他ハ拾五錢  
郵稅第二卷六錢他ハ四錢

德富健次郎著

青山白雲

定價貳拾五錢  
郵稅金四錢

讀實評 例の民友社流の筆法縦横寫し去つて厭味のある所即ち面白き所なり徒然を慰めんには恰好の讀み本なり

東京日々評 題して「青山白雲」と云ふ其文畫の如く其筆光彩あり神韻縹緲として殆ど天才の域に達するものあり大作にあらずと雖も皆佳作たるに負けず

福岡日日新聞評 數篇を集つて一書となしたるものにして氏の筆一種の妙趣に富み紙面興味の津々たるものあり

名家紀行文選  
今世名家文鈔

定價六卅錢  
定價四廿錢  
郵稅四錢

宮崎八百吉著

夏歸の家

定價十五錢  
定價四錢  
郵稅二十錢

發行所

東京市京橋區日吉町四番地

民友社

德富猪一郎著

天然と人

定價廿錢  
郵稅六錢

藤田思軒遺著 德富蘇峰山路愛山校定

賴山陽及其時代

山陽題字真蹟及思軒書簡寫真銅版刷入  
定價金壹圓 郵稅金八錢

塚越芳太郎著

熊澤蕃山

定價八十錢  
郵稅八錢

平田久著

十九世紀外交史

定價金五十錢  
郵稅金六錢

平田久著

露西亞帝國

定價金卅五錢  
郵稅金六錢

菊池謙讓著 柴四朗、德富蘇峰序

朝鮮王國

定價五十錢  
郵稅八錢

民友社編纂 (新刊)

支那及列國

定價二十錢  
郵稅四錢

民友社編纂

比律賓群島

定價十八錢  
郵稅四錢

# 温 泉

此書ノ記述ヨリモ實地  
ノ方格別ノ好位置ナリ  
ト御來遊諸君ノ賞讚ヲ  
得タル弊館ハ常ニ篤實  
ト廉直トヲ營業ノ根本  
ト相心掛ケ居候間倍舊  
御引立奉願上候  
東海鐵道三島停車場(津沼)  
東野間ヨリ豆相鐵道南條  
エ新設  
驛迄八哩夫ヨリ人車馬  
車ニテ當地迄三里

伊豆修善寺

疑雨來館

野田屋八郎平 全支店

全世界第一等有効請合品廣告

## 賣藥外部

豐錄 安眠精合獨産



ののみよけ

商標 人袴六宝あ

定價  
大罐入 金 廿 錢  
小罐入 金 拾 錢  
發明新器平罐入 金 五 錢  
平罐入 金 三 錢

●此藥は疊の敷合亦は寢床の上其他蚤の發生する場所に撒布し置くべし蚤倒れ死する事妙なり、蚊亦是蠅を除るには少量づゝ火にて焚其他如何なる毒虫と雖も忽退去事不思議なり  
●空氣のはいらぬ様亦火鉢の引出し或は火氣のある所へ入れをかね様注意が第一なり

東京市銀座三丁目四番地

大阪屋號

松澤八右衛門

(電話本局五百卅四番)

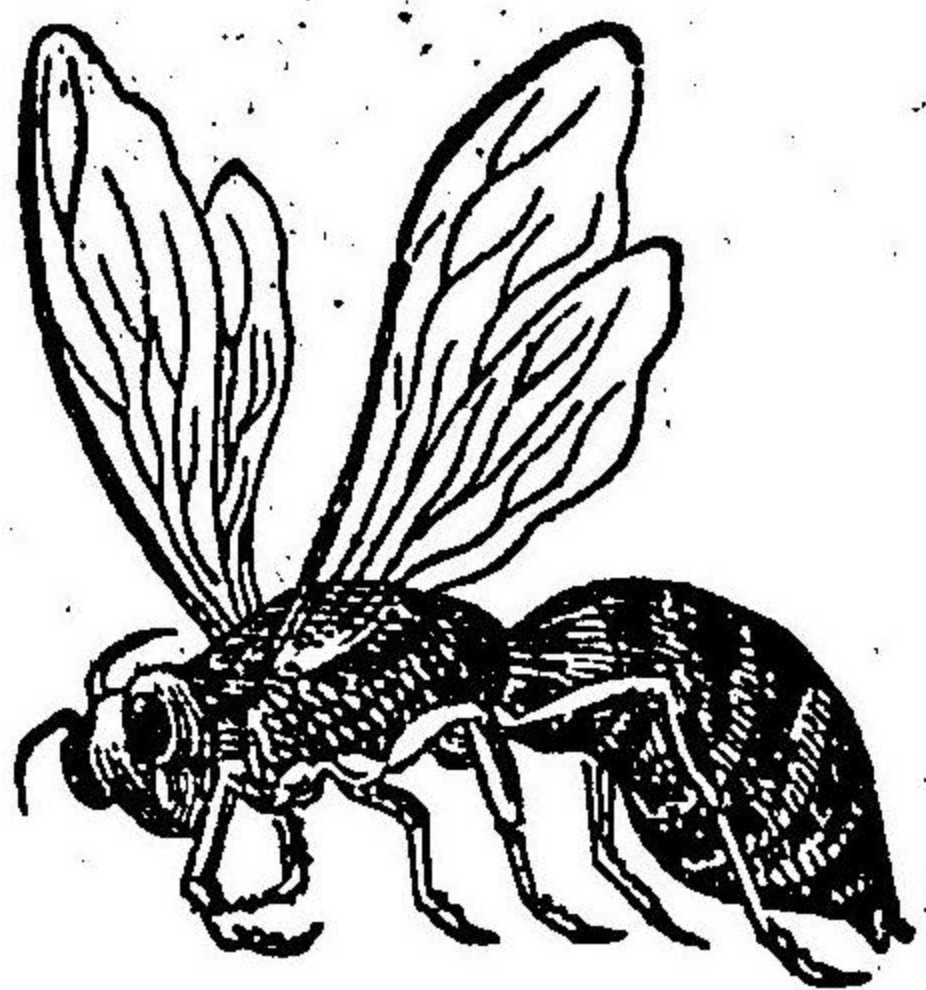
發賣本舖

神仙萬金丹 製造本舖



(ろく)

# 蜂印香竄葡萄酒



(るノ八)

- ◎本品は其質醇良にして最も榮養分に富み之れを日常の飲料とせば身體を強壯にし元氣を増し頗ぶる衛生に補益あり
- ◎本品は各國大博覽會より無上の名譽ある金賞牌拾貳個を受領し其販賣高本邦に於て第一位を占むる最良の葡萄酒なり
- ◎本品の躰裁に能く似たる偽物あり御購求の節は此蜂印商標と賣捌元近藤利兵衛の名義に篤と御注意を乞ふ

東京市日本橋區本町三丁目九番地(電話本局四四三番)

賣捌元

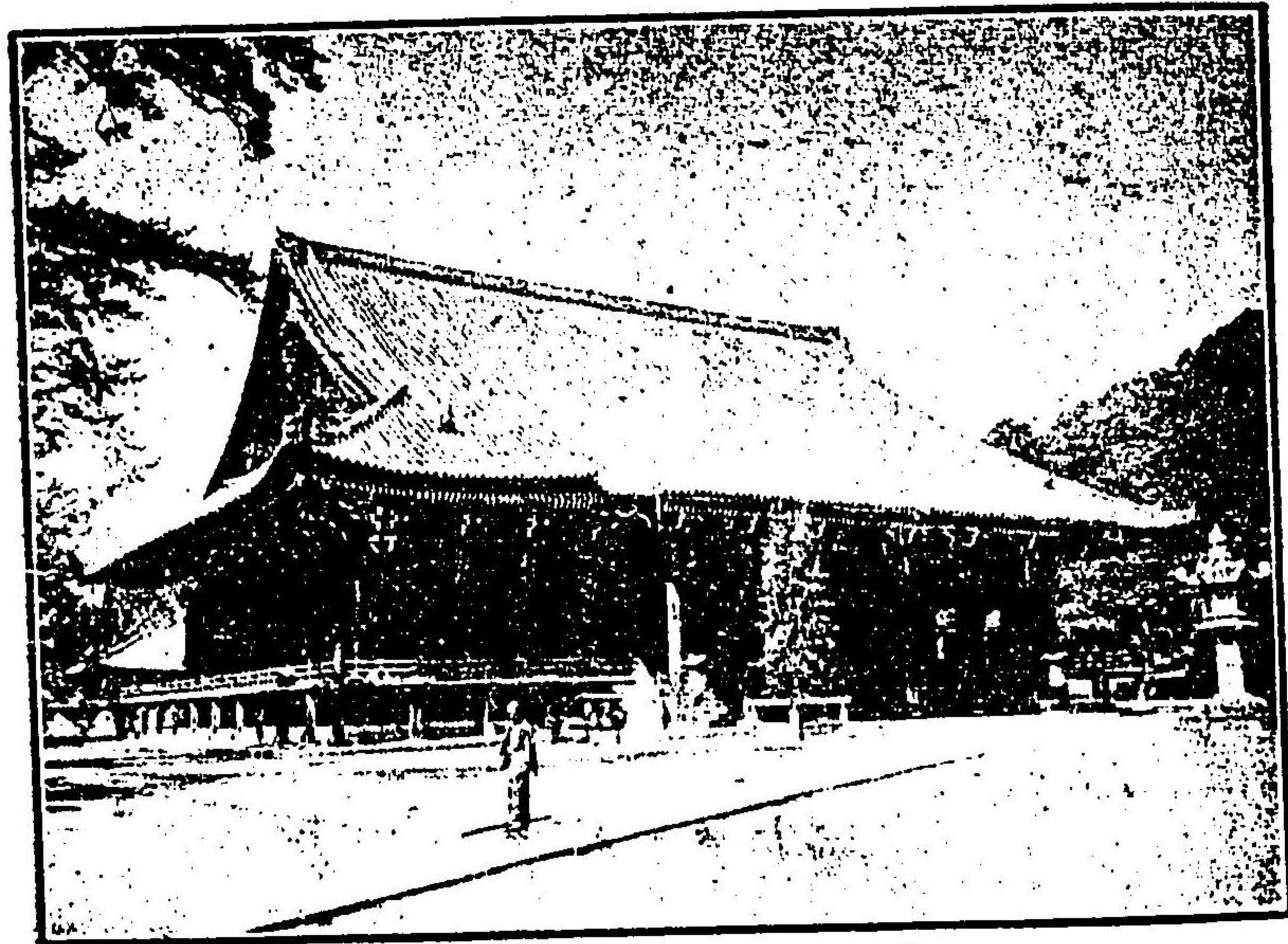
洋酒問屋

近藤利兵衛

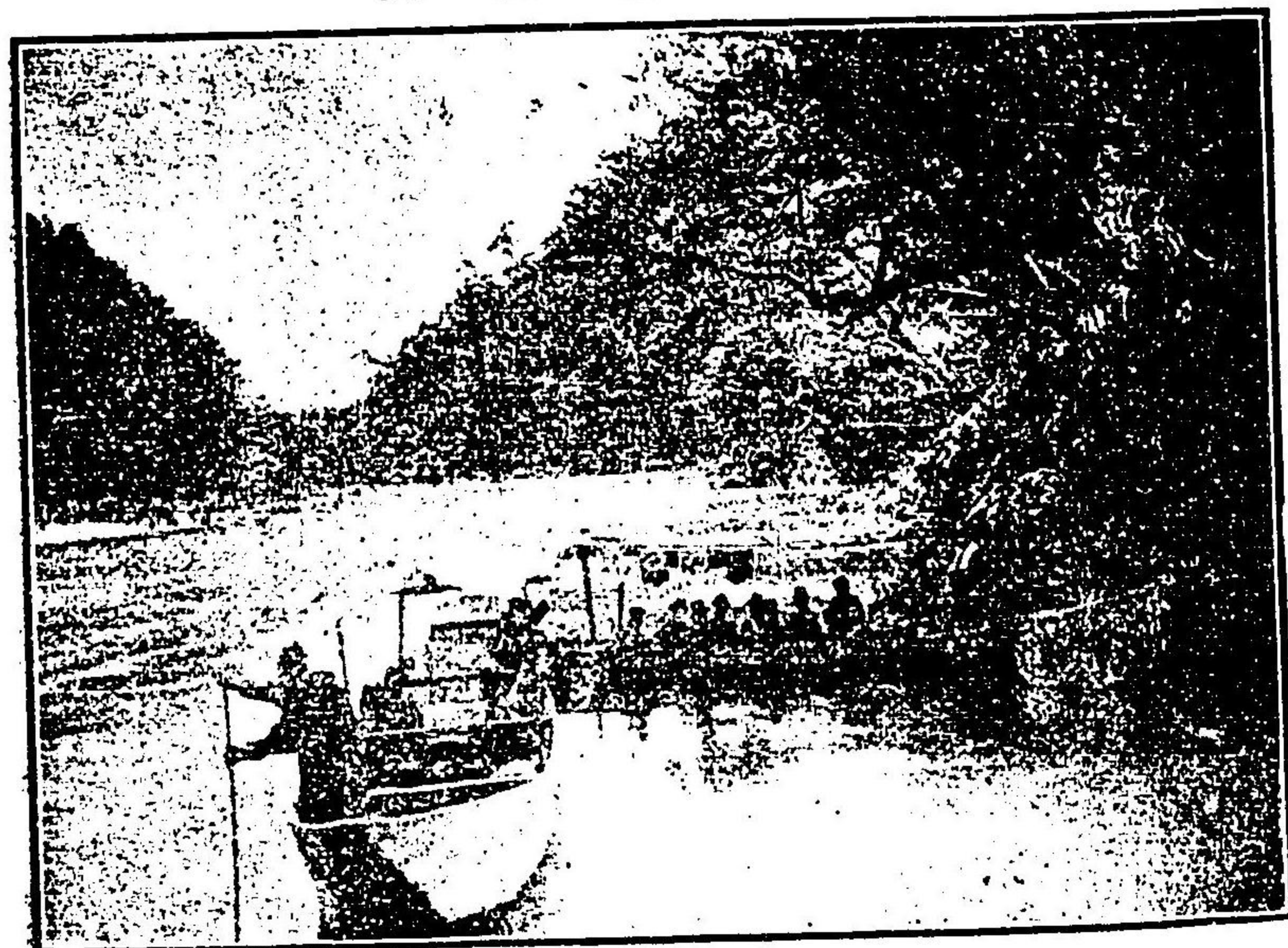
◎賣捌所は全國到る處にあり御最寄にて御購求を希ふ



洋酒問屋の島生竹湖鶴江近



京 都 智 恩 院



洛 西 嵐 山

京 都 嵐 山 の 三 軒 茶 屋



東京祇園の夜櫻





●金雞納酒の功効  
 金雞納酒は、  
 金雞納樹の皮を原料とし、  
 精製されたもので、  
 昔から知られており、  
 現在でもその功効が  
 知られており、  
 金雞納酒は、  
 金雞納樹の皮を原料とし、  
 精製されたもので、  
 昔から知られており、  
 現在でもその功効が  
 知られており、

芳香滋養金鷄葡萄酒



發賣元

東京市日本橋區  
 本町三丁目

守田重次郎

(印)

草津温泉ノ効能ハ滿天下ノ熟知スル處茲ニ自賛ヲ要セサルナリ啻ニ  
靈泉ノ効アルノミナラス避暑ノ地トシテモ亦實ニ内外貴賓ノ稱賛セ  
ラル、處ナリ若夫レ宿病ヲ洗滌シ三伏ノ煩熱ヲ静養セラレントセバ  
來テ此天與ノ樂園ニ遊ヘ

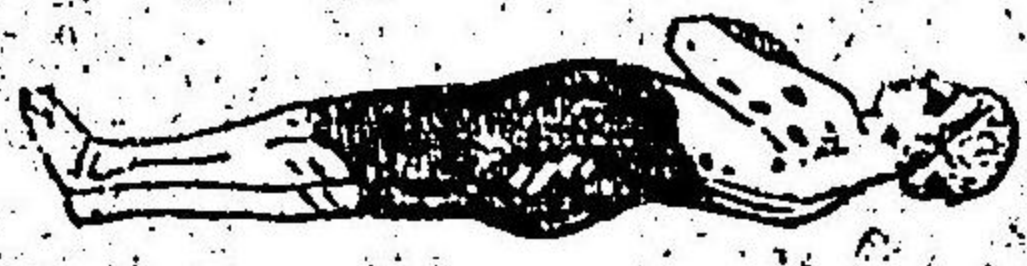
順路ハ東京上野發汽車ニ乗高崎ヲ經輕井澤ニテ下車同所ヨリ十一  
里腕車(三圓半)馬賃(一圓半)又高崎若シハ前橋ヨリ澁川迄鐵道馬  
車同所ヨリ川原温泉ヲ經テ十五里馬車又ハ腕車(凡三圓半)尙一ツ  
ハ澁川ヨリ中ノ條、澤渡ヲ經テ通スルモノアリ車馬賃合テ三圓位  
ナリ

注意 當地旅店中ニ沿道宿泊所及車夫馬丁等ト特約シ浴客ヲ欺キ自  
家ハ誘引セントスルモノアリ御注意ヲ乞フ  
弊舎ハ草津ノ中央ニシテ入浴至便ナリ且ツ内湯數槽アリ貸切ヲ  
ナス尙詳細ヲ知ラントセラル、方ハ端書ヲ投セラルレバ案内書  
ヲ呈ス

# 上州草津 旅舎 望雲館 黒岩忠四郎

本舖 東京牛込 藥劑師 尾澤豊太郎 製  
上宮比町

●効能 延びし水むしんさんにて此圖の如く竟に全身  
に蔓延したる重症も此藥にて能  
敷息したる重なり故に顔手足  
く全治の靈驗あり故に顔手足  
股下はら毛の中ゆび殊に絲取處女の水虫杯に至りては  
容易に全治し内攻轉發等の後害なき天下無比の良劑也



●むしんさん  
**金治水**  
小樽五錢中樽錢  
大樽銀極五錢

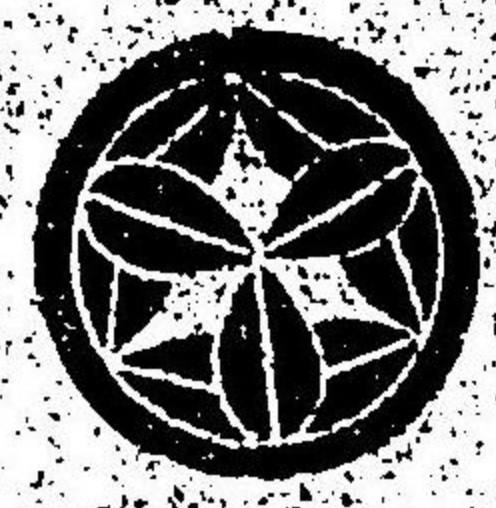
主治 ●神經腦病頭痛眩暈の特効藥なり故に腦頂部又は  
てめかみの部に限局して頭痛●てんかんにて屢々卒倒  
し或は發作前に當り強劇なる眩暈し●群居或は讀書執  
筆等久時に涉り前頭の頭痛脈を來し、氣分鬱鬱して  
既往將來を物案じ他人と談話を嫌ひ●腦充血偏頭痛半  
面痛半身不隨麻痺癱瘓其他かん症等に俾なる効驗あり

TRADE MARK  
**鎮精花**

定價  
三日分 金拾五錢  
七日分 金三拾錢  
廿一日分 金壹圓

(五八三)

芋井ノ素櫻、米子ノ瀧、姨捨ノ月、碓氷ノ紅葉ハ、以テ杖ヲ曳  
 シニ足リ  
 川中島古戰場、戸隠山靈地、別所ノ觀音ハ、以テ考古ノ材ニ宜  
 シク  
 澁、田中、山田、安代、野、赤倉ノ温泉ハ、以テ心神ヲ養フニ  
 足ル  
 須阪、松代、諏訪ノ商工業ハ、以テ商工者ノ材料ニ豐富ナリ  
 此名勝古跡商工地ノ中央ニハ善光寺ノ壯觀アリ  
 善光寺  
 所在地 長野市 犀北館 近山與五郎  
 本館ハ幽邃ニシテ眺望佳絶 皇族方ヲ始メ貴賓ノ御宿泊不尠  
 殊ニ宿料廉直御取扱鄭重御注意可仕候  
 長野ステーションヨリ善光寺トノ中間長野縣會議事院  
 位置  
 長野縣廳其他諸官衙附近



旅館 廣告

伊勢參宮

御旅館

御宿泊の各位へは最も丁寧にて御取扱仕候

伊勢古市 あぶらや

山田停車場前 油や支店

東京新橋日吉町十二番地

所主電話二三九二番

# 真川

## 優美高尚 小川製真版所

## 新築落成真開業

### 營業課目

- 普通寫真各種
- 不變色寫真各種
- 寫真版(二色)印刷
- 同彩色刷(三色)
- 寫真石版及印刷
- 寫真銅版及印刷
- 寫真銅版三色調和印刷
- 寫真版粘類各種(風俗)

(五ノ六)

各位益々御繁榮奉賀候毎々御引立ノ段厚ク御禮申上候從而弊店儀開  
 店當初ヨリ流行的保險書ヲ差シ上テ言テ用ヒズ(弊舖ハ御客様ニ對シ  
 巧言玩弄的ノ實直廉價ニ販賣致シ來リ候處幸ヒ各位ノ御意ニ叶ヒ彌  
 増シ御愛顧ニ預リ難有御物申上テ御要ノ程願上候也  
 尙左記ノ事ナク精實ノ御引立ノ程併而願入候也  
 仕候間多ク不御用向御引立ノ程併而願入候也

### 販賣品目

### 時計眼鏡指輪附屬品

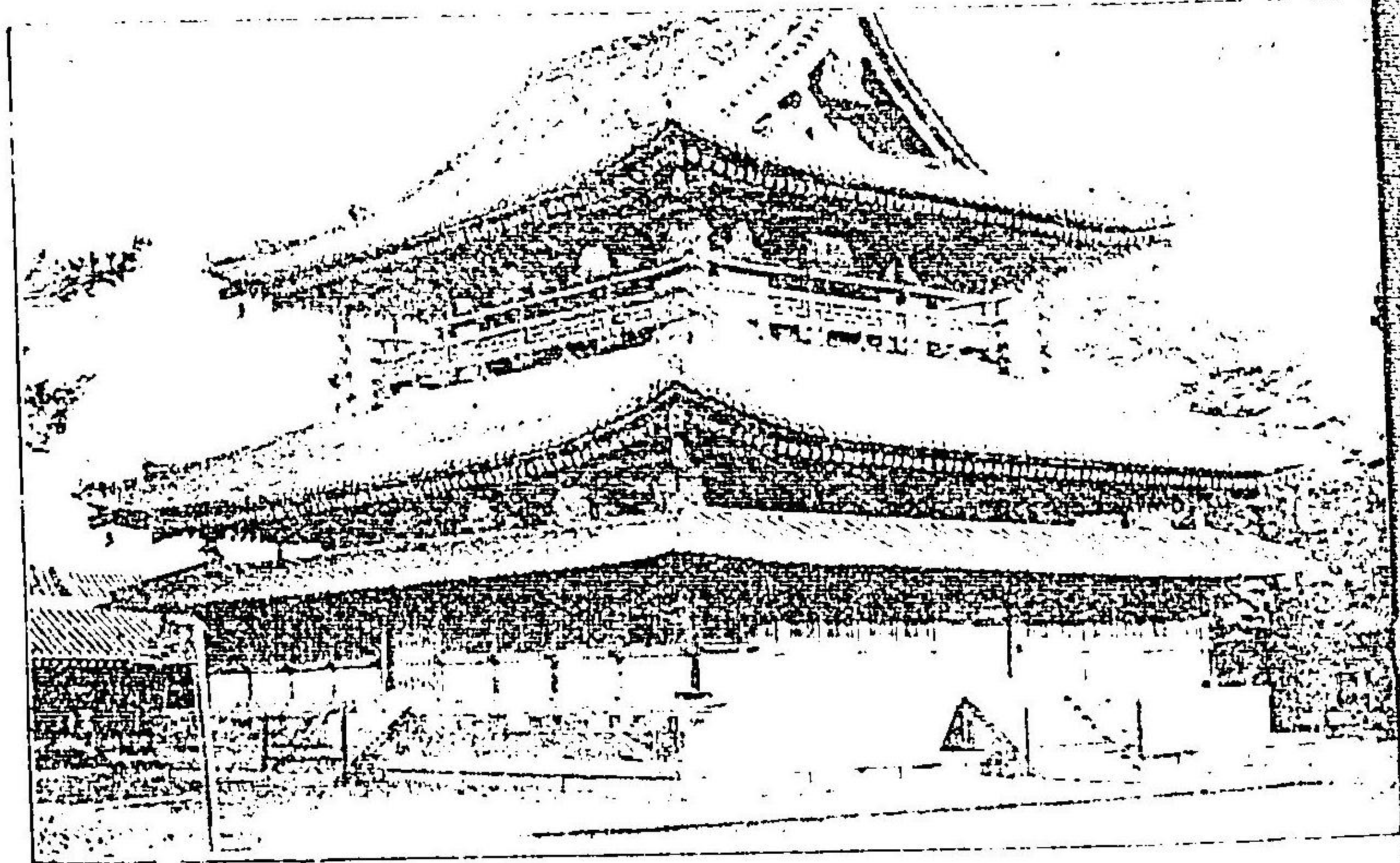
金側銀側鐵側白銅側金者側其他各種  
 白黒石置時計大小ホン(自覺時計類)  
 金銀各種眼鏡類陸海軍航海用旅行用劇場用  
 金指環各種其他影刻ヲ施シタル者  
 金銀各種金者類磁石寫真入印材各種  
 金銀各種金者類磁石寫真入印材各種

東京市日本橋區本町三丁目拾壹番地 (電話本局) 座銀 玉屋支店

(五ノ七)



大和奈真春日神社



大和法隆寺の金堂

眞正櫻正宗燻詰

釀法精鍊

香味兼美



本酒燻詰は優美高尚なれば御進物旅行携帶等には適當の佳品なり  
 本酒燻詰は酒質を撰擇し且弊店發明之貯藏法を加ふ依毫も腐敗の愁なし  
 本酒燻詰取次販賣御望の方は至急本店へ申込を乞ふ  
 奴利屋本店

燻詰元

東京市京橋區  
 松川町

中澤彦七

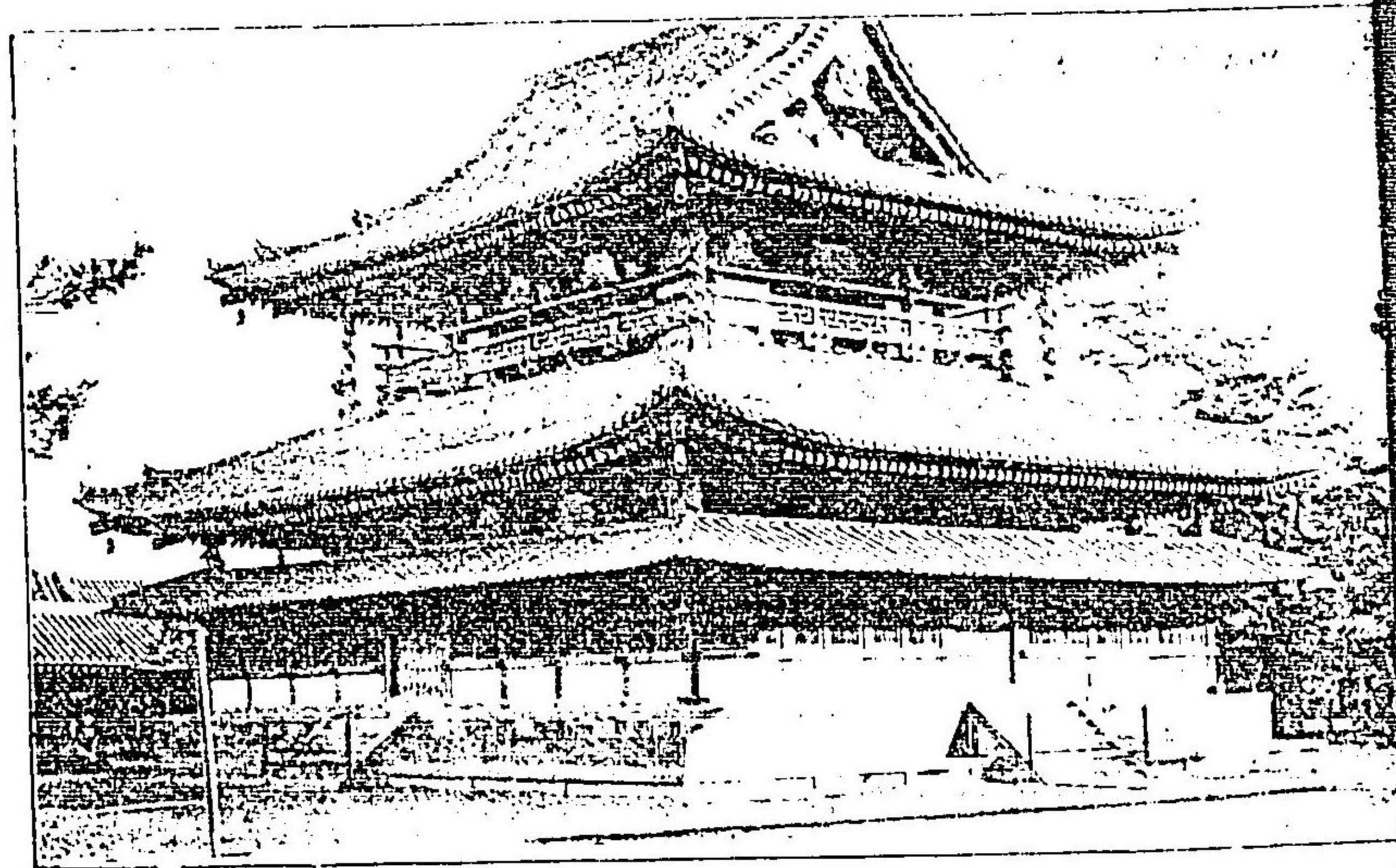
電話本局千七百九十七番

●注意

眞正櫻正宗燻詰御購求の節、弊店の登録商標  
 △印に篤と御注意を乞ふ



大和奈良春日神社



大和法隆寺の金堂

眞正櫻正宗燻詰

釀法精鍊

香味兼美



本酒燻詰は優美高尚なれば御進物旅行携帶等には適當の佳品なり  
 本酒燻詰は酒質を撰擇し且獎店發明之貯藏法を加ふ依毫腐敗の愁なし  
 本酒燻詰取次販賣御望の方は至急本店へ申込を乞ふ

奴利屋本店

燻詰元

東京市京橋區  
 松川町

中澤彦七

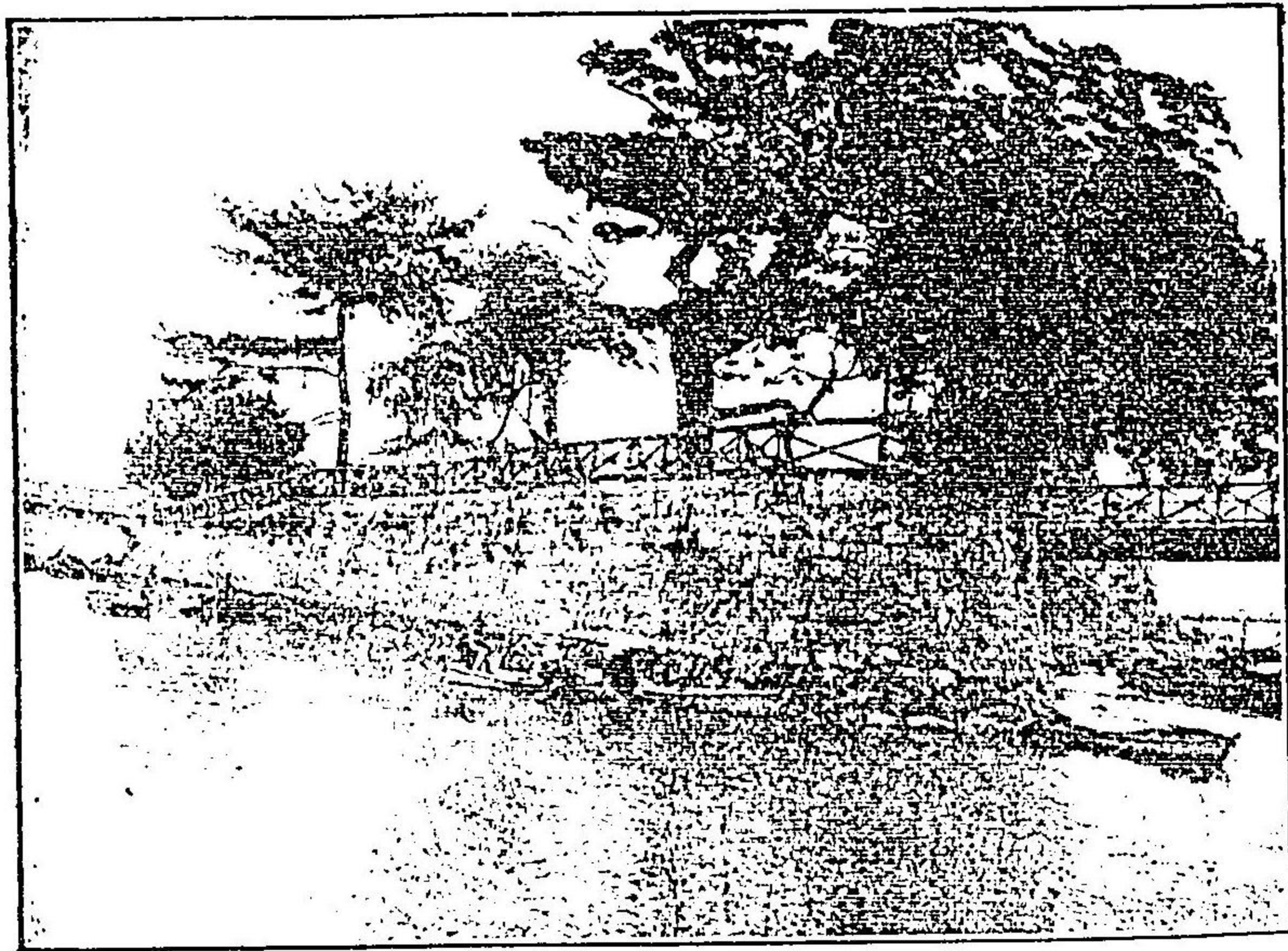
電話本局千七百九十七番

●注意

眞正櫻正宗燻詰御購求の節は獎店の登録商標  
 △印に篤と御注意を乞ふ



駿河興津清見寺



大坂中の嶋公園

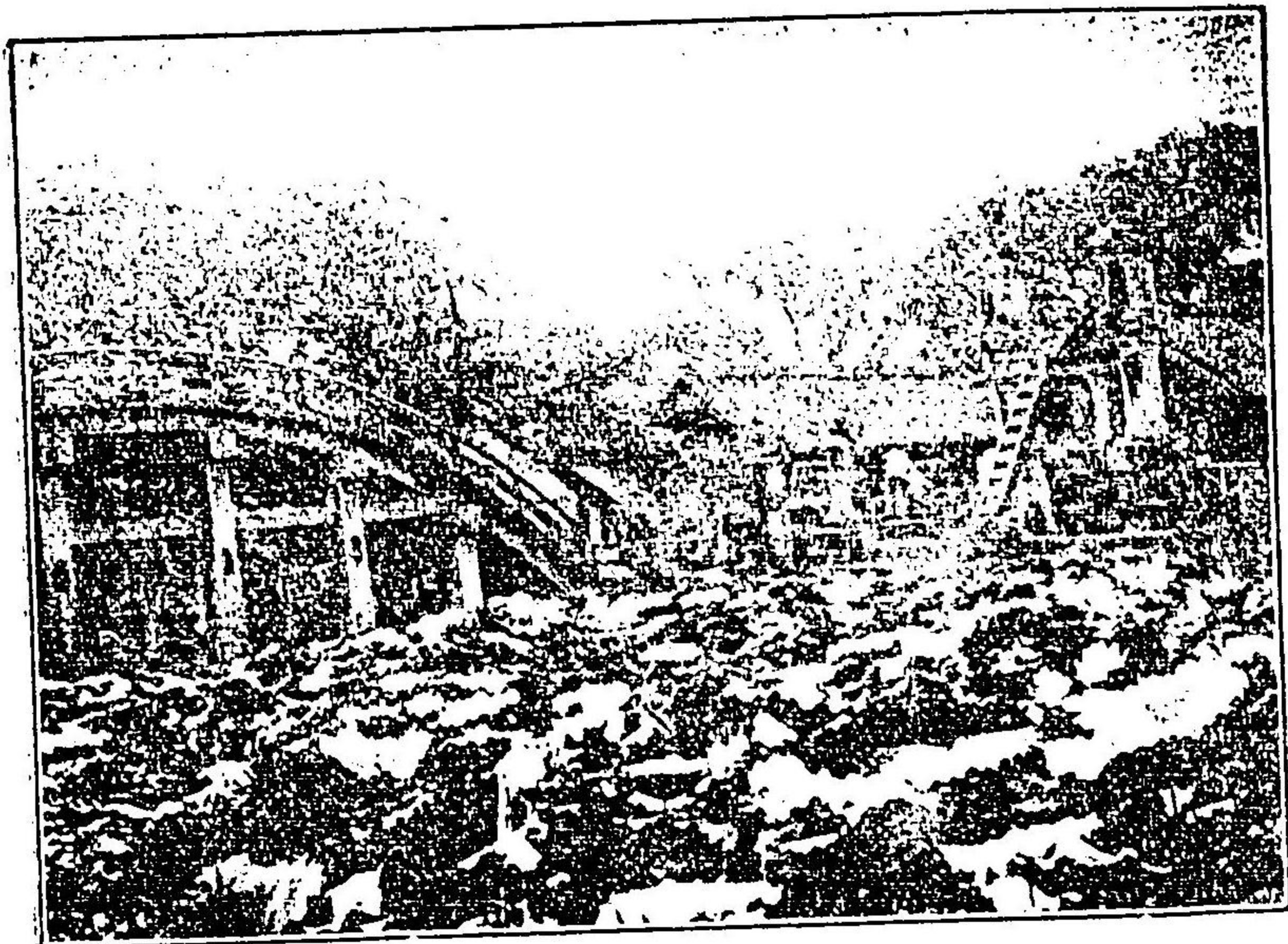


神 戸 布 引 の 瀧



舞 子 濱





攝州住吉神社

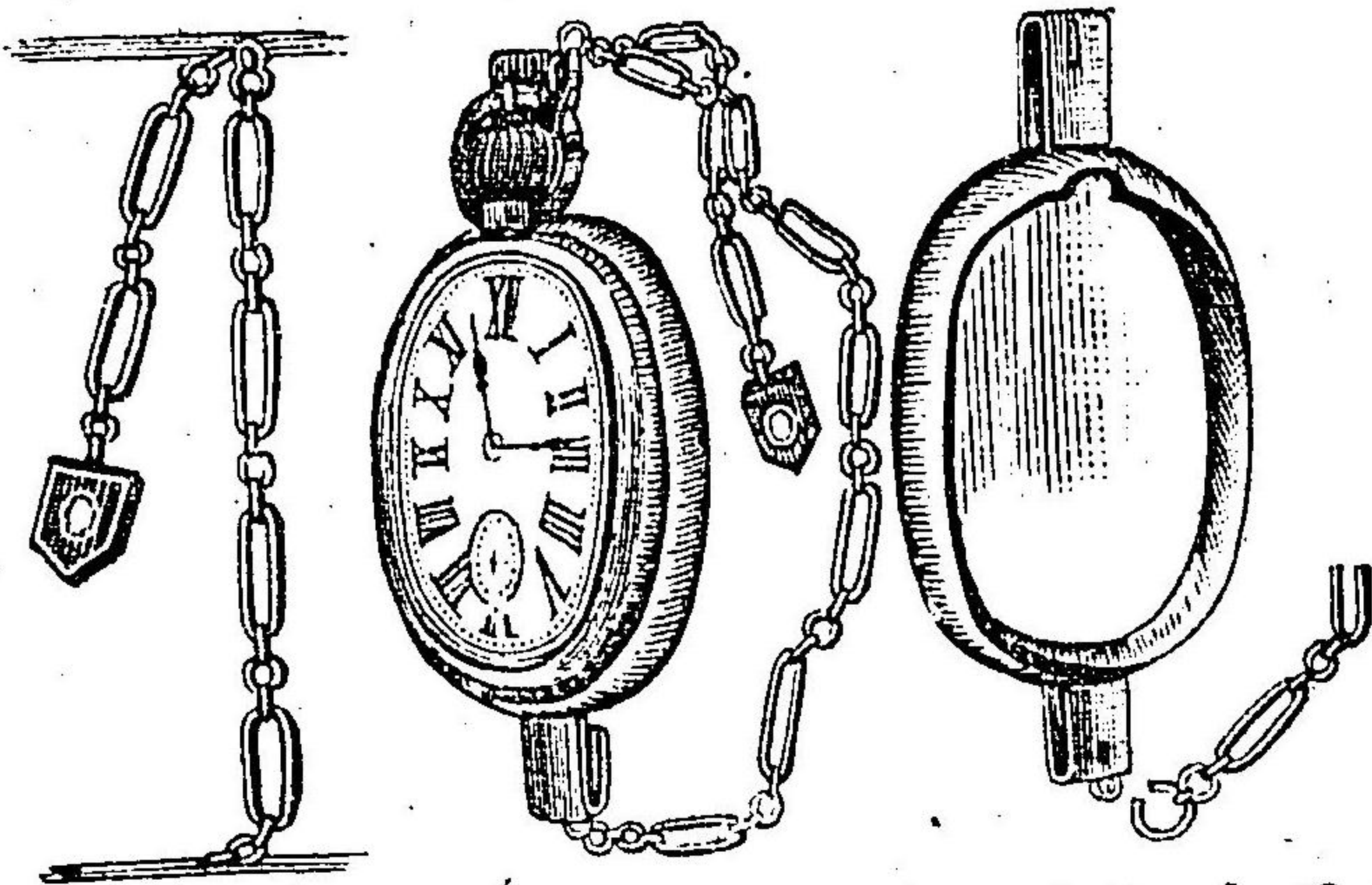


攝州明石の浦



專賣特許十五年願安全時計持

帶留の兼用



すりの大敵

時計は四状の録の中にはより龍頭の下は録のくぼみへはまりこむ故如何に上手のすりでも取る事出来ず又おとす心配更になし帯止として少しもゆるむ事なく又落失する事なし

**正價** 眞鍮製純金鍍金、四拾八錢○洋銀製銀鍍金、四拾五錢○四分一製貳圓貳拾錢○純銀、赤銅及人造金製參圓貳拾錢○代金は郵券代用不苦壹個の送料全國貳錢○取次販賣廣く約定す

**人造金品質見本** 九拾八錢五拾錢の組環を三十錢に特別割引呈送 ● 製作品標本番ハ郵券四錢ニテ金銀細工ニ必要ノ圖形七百餘圖入ノ美本ヲ呈ス

人造金本舗

東京日本橋通三丁目大通

金鳳堂本店

金鳳堂支店

大阪心齋橋通北久太郎町

(三ノ三)

SIMP LEX 無機速寫簡便 眞寫イニキ



定價小器卅錢中器半圓大器壹圓郵稅二錢づゝ ● 此イニキを塗り原紙を製す小器にて通常寫眞形五百枚中器一千枚大器二千五百枚を得 ● 用紙は和洋兩便 ● 塗方寫法明細書附 ● 寫映見本數種切手十錢で送 ● 爲替大阪本局宛切手一割増着金次第送品

本法はブラマイトの原理最簡至便の絶技にして只此イニキを塗りたに基き新たに發見したるを得る上殊に最も妙なるは原品の儘に速寫に又一點の他を要せず何人も社會萬象凡て人物景色に限らず如點の機械藥品の儘何百枚でも早速に寫し得るより蒟蒻版何なる版に勝る萬々尙其外効用種々眞に實用と娛樂を兼て便利珍重なり速寫版に勝る萬々尙其外効用種々眞に實用と娛樂を兼て便利珍重なり● 新形早取寫眞機 ● 甲號(中の半形)三圓 ● 同中形(大の半形)四圓 ● 輕便早取寫眞機 ● 乙號(大の半形)五圓 ● 同大形(端書形)五圓 ● 乙號(大の半形)五圓 ● 同大形(端書形)五圓 ● 此際乾版現象藥を無代價添ふ ● 使用説明書付 ● 始めての素人でも手易く寫せる

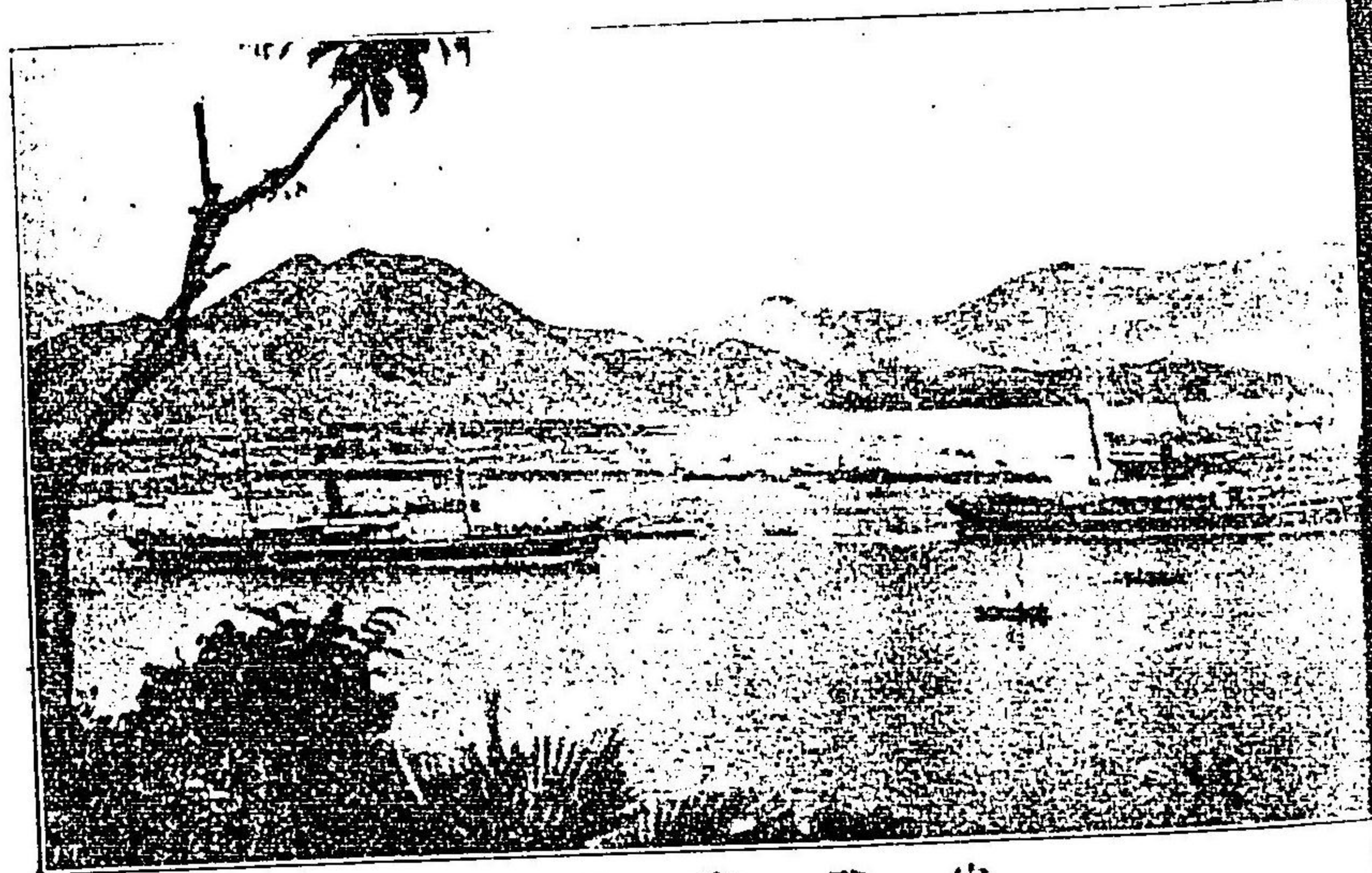
製造專賣所

大阪市北野梅ヶ枝卅九番地

大阪寫眞館



園樂後山岡前備



港品字發安

當適も最はに帶携行旅

菊正宗壘詰

◎釀造精ヲ極メ芳醇比ヒ無シ眞ニ高尙有益ナル



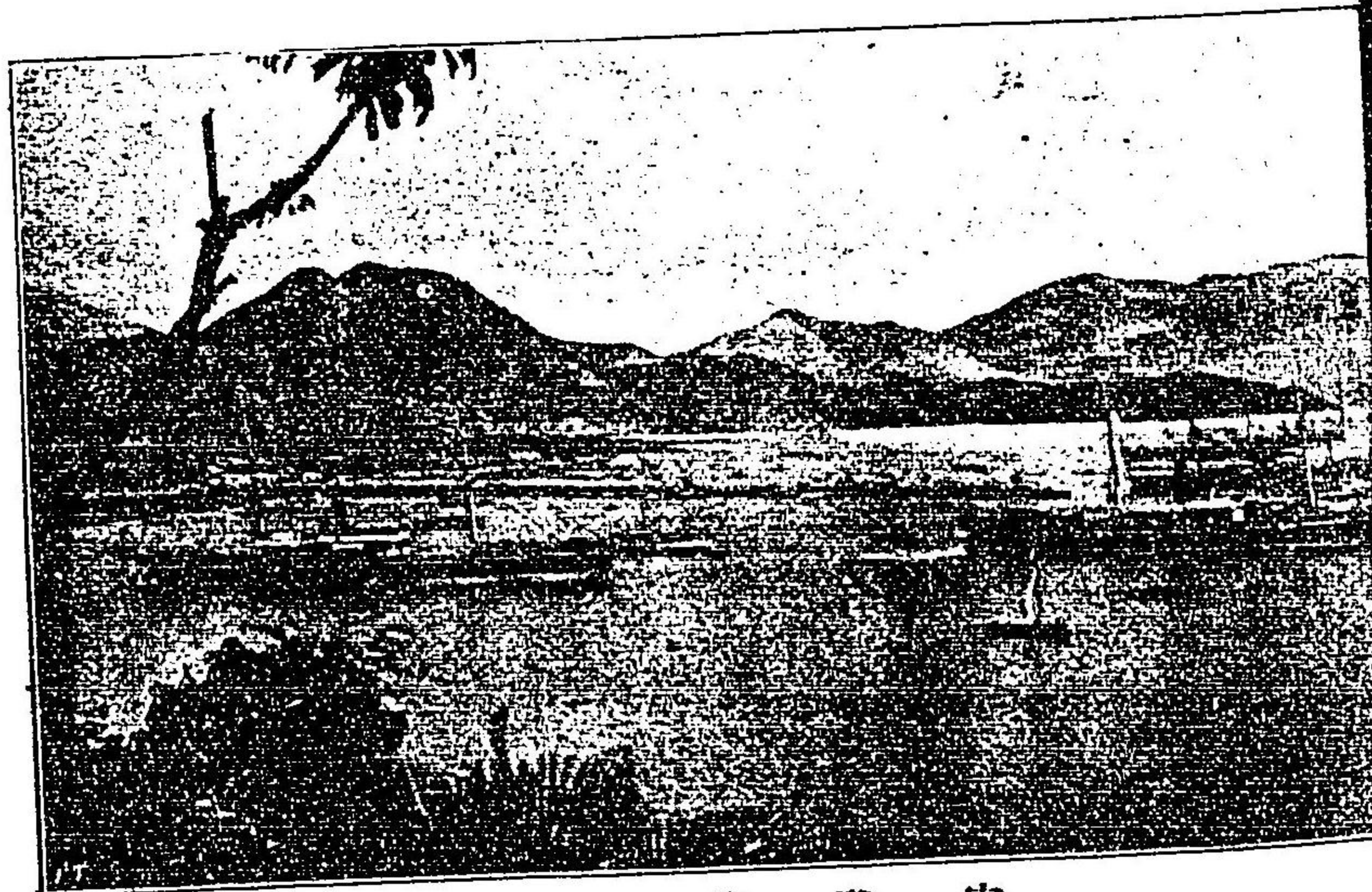
◎衛生ノ好飲料ニテ需用最モ多ク販路甚々廣シ

今般一手壘詰元大ニ擴張完備致候間

倍舊ノ御愛顧奉願候  
 釀造元 攝津灘御影町 嘉納本家  
 輸入元 東京市北新川 鹿嶋本家  
 壘詰元 同京橋西紺屋町 末永商店



備前岡山後樂園



安藝宇品港

旅行携帶に最も適当

菊正宗樓詰

◎釀造精ヲ極メ芳醇比ヒ無シ眞ニ高尙有益ナル

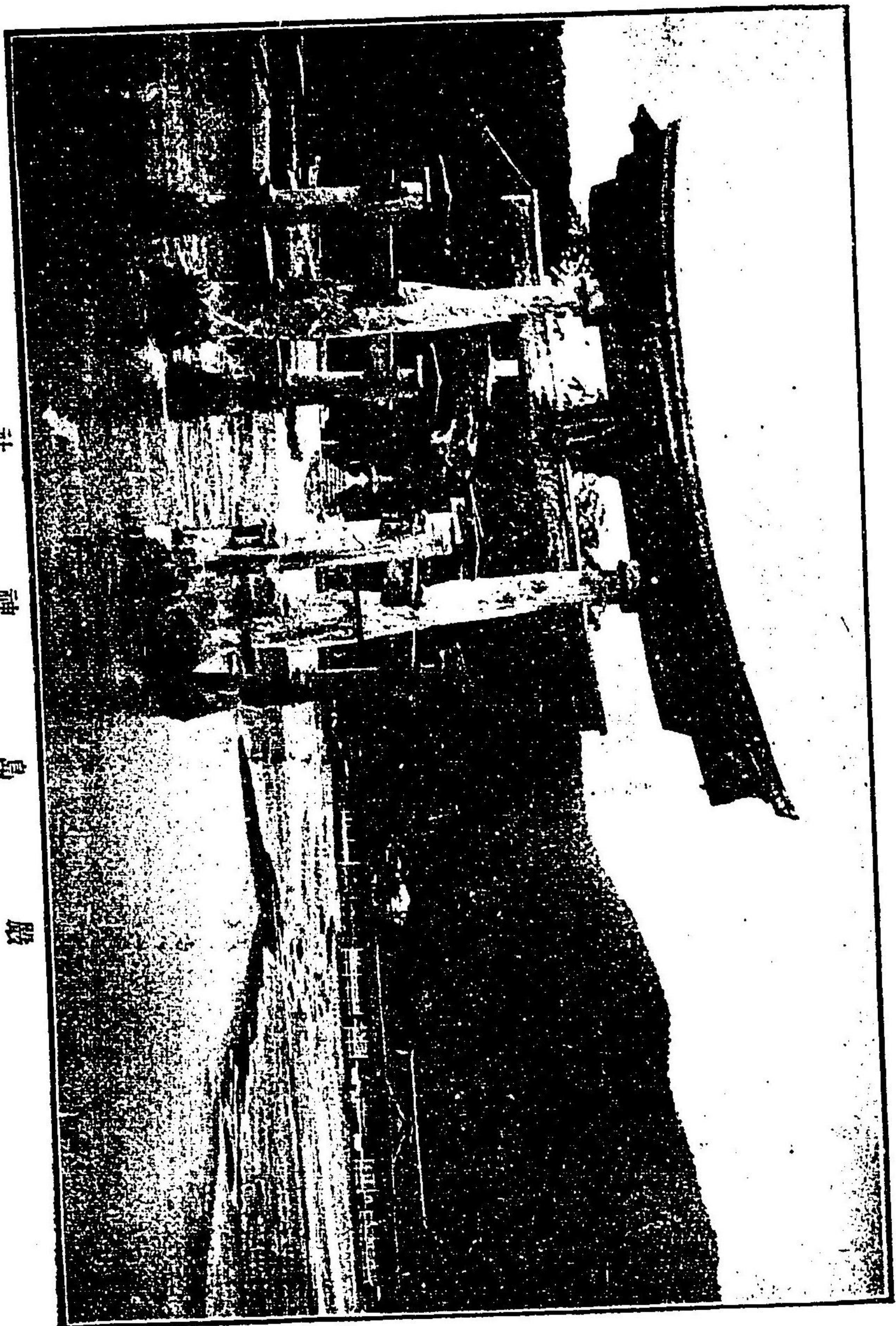


◎衛生ノ好飲料ニテ需用最多ク販路甚々廣シ  
今般一手樓詰元大ニ擴張元備致候間

倍舊ノ御愛顧奉願候

醸造元 盛津灘御影町 嘉納本家  
輸入元 東京市北新川 鹿嶋本家  
場詰元 同京橋西組屋町 末永商店

社 神 島 殿





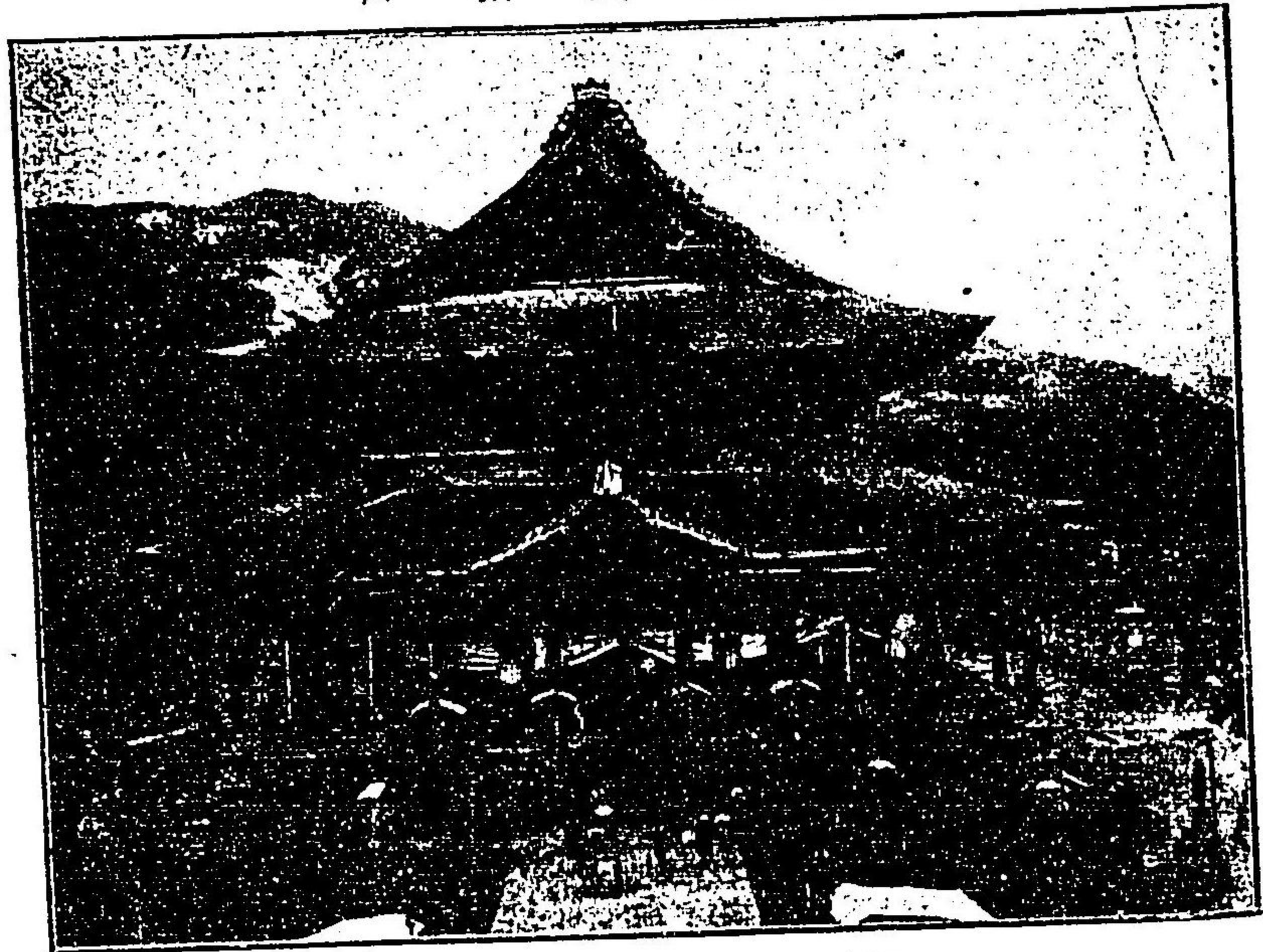
信濃戸隠神社



信濃國原川



信州姨捨山



信濃善光寺





當本店及別館ハ見爾接近ノ地ニシテ社廟拜覽諸名所御漫遊ニ最便利ナリ  
 就中別館ハ土地高燥眺望絶域ニシテ空氣清涼實ニ當地第一等ノ位置ヲ占  
 ム殊ニ客室其他ニ電燈ヲ利用シ室内ノ器具又清潔食物專ラ衛生ニ注意セ  
 リ御登見ノ節ハ倍舊御投宿アラシクテ希望仕候

同  
 日光神橋前 旅館 小西喜一郎 本店  
 日光ステーション前左角 小西喜一郎 別館  
 支店

●私設  
 電話本支店別館間

書籍及雜誌

弊堂の本領獨特の勉強  
 書籍と雜誌 取扱の誠實  
 卸賣と小賣 價格の低廉  
 業務の擴張 發送の機敏

諸雜誌書籍目錄無代價御入用の請

東京神田  
 表神保町  
 電話本局  
 二四八番

東京堂

看は郵税二錢送附あれ無代運星

英語通信教授の嚆矢  
 會員既に三萬餘人

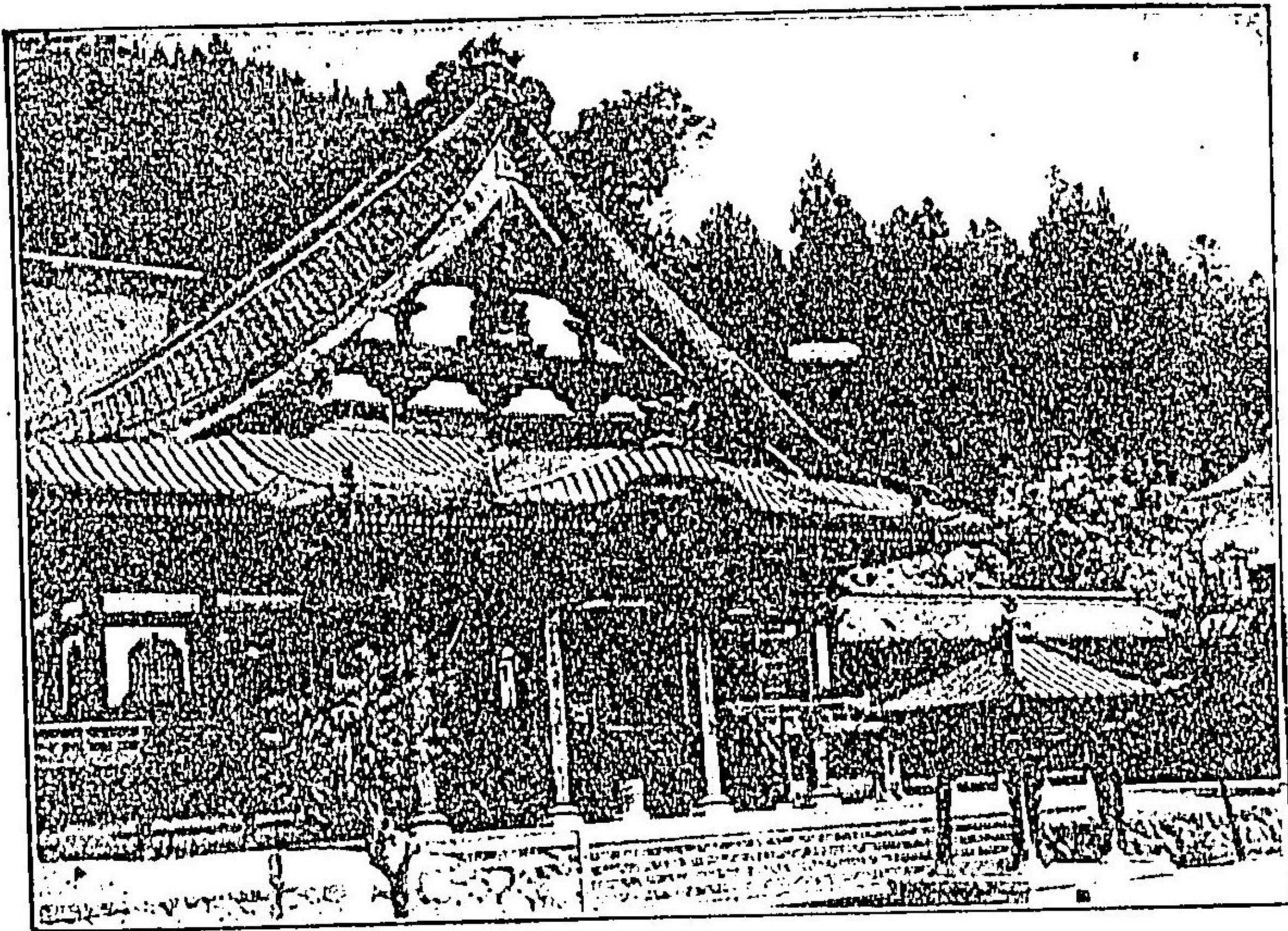
(教授書悉皆完成目下入會に便なり)

英語學宅獨修生募集

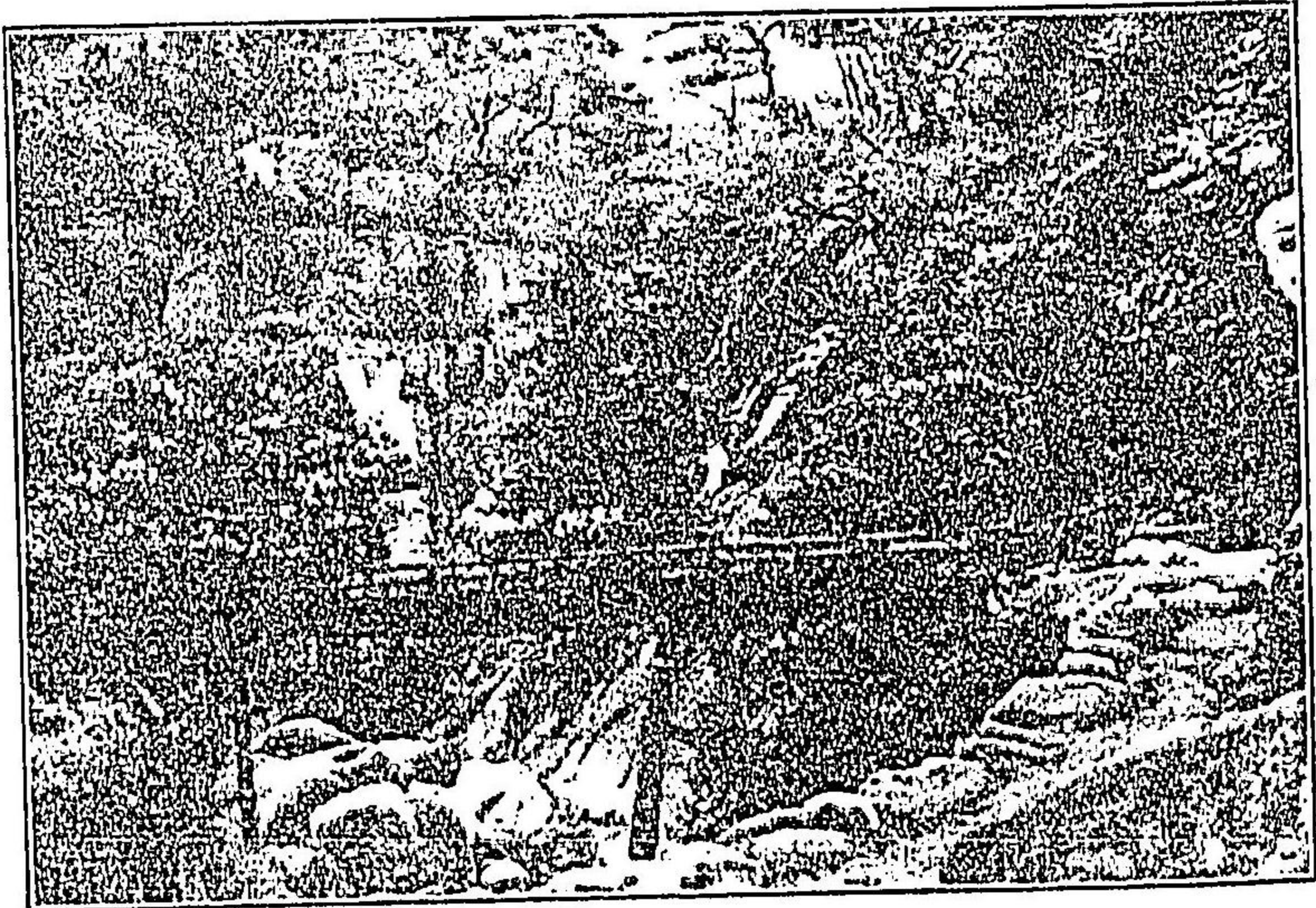
本會は自宅獨修に適切なる便法を以て地方遠  
 隔の地にありて英語學を修めんと欲する者  
 良師に乏しく又は業務に妨げられ修學する能  
 ざる者の爲に最短の日月と最少の學費とを以  
 て實用英語學を正確に教授せんことを親近して教  
 授を受くる感ある方著讀しむる最良方便の先導者也  
 科目は綴方音讀を以て實用英語學を卒業す  
 修學期は六月を以て實用英語學を卒業す  
 教授書は毎月二回(新編百州頁)以上宛發行  
 本會は何時にても試験の上卒業證書を授與す  
 本會員は隨意に質疑應答自在たる可し  
 規則書入用の者は郵券二錢を投せば送呈す

英語專門 東京英語學會  
 東京市神田區猿樂町二丁目六番地

(五ノ三)



甲州身延山



甲州御獄昇仙橋

中將湯の名譽

産科婦人科を以て名聲天下に轟きたる左の大醫諸君より最も名譽ある稱賛を添ふしたり

- 醫學博士慈惠病院長 高木兼寛先生 (東京)
- 産科婦人科専門醫學士櫻井病院長 櫻井郁治郎先生 (東京)
- 産科婦人科専門ドクトル 木村順吉先生 (東京)
- 英國エムアイシエス朝鮮國王侍醫 瀨脇壽雄先生 (朝鮮)
- 婦人科専門ドクトル 朝山義六先生 (横濱)
- 産科婦人科専門ドクトル 佐伯理一郎先生 (西京)
- 大阪總方病院婦人科部長ドクトル 緒方正清先生 (大阪)
- 産科婦人科専門ドクトル 小林山脚先生 (大阪)
- 愛知病院婦人科部長醫學士ドクトル 柴田耕一先生 (名古屋)

十年の血の道三週間にて全治す

子宮病血の道症

その効なく年久く御困の御方は必ず本劑を一度御試しあれ  
子宮病血の道産前産後の長き患下腹子宮腰足引  
つり痛み  
より足部へ冷  
達し手足しび  
れ浮腫月經  
不順  
急切  
不順  
急切  
不順  
急切



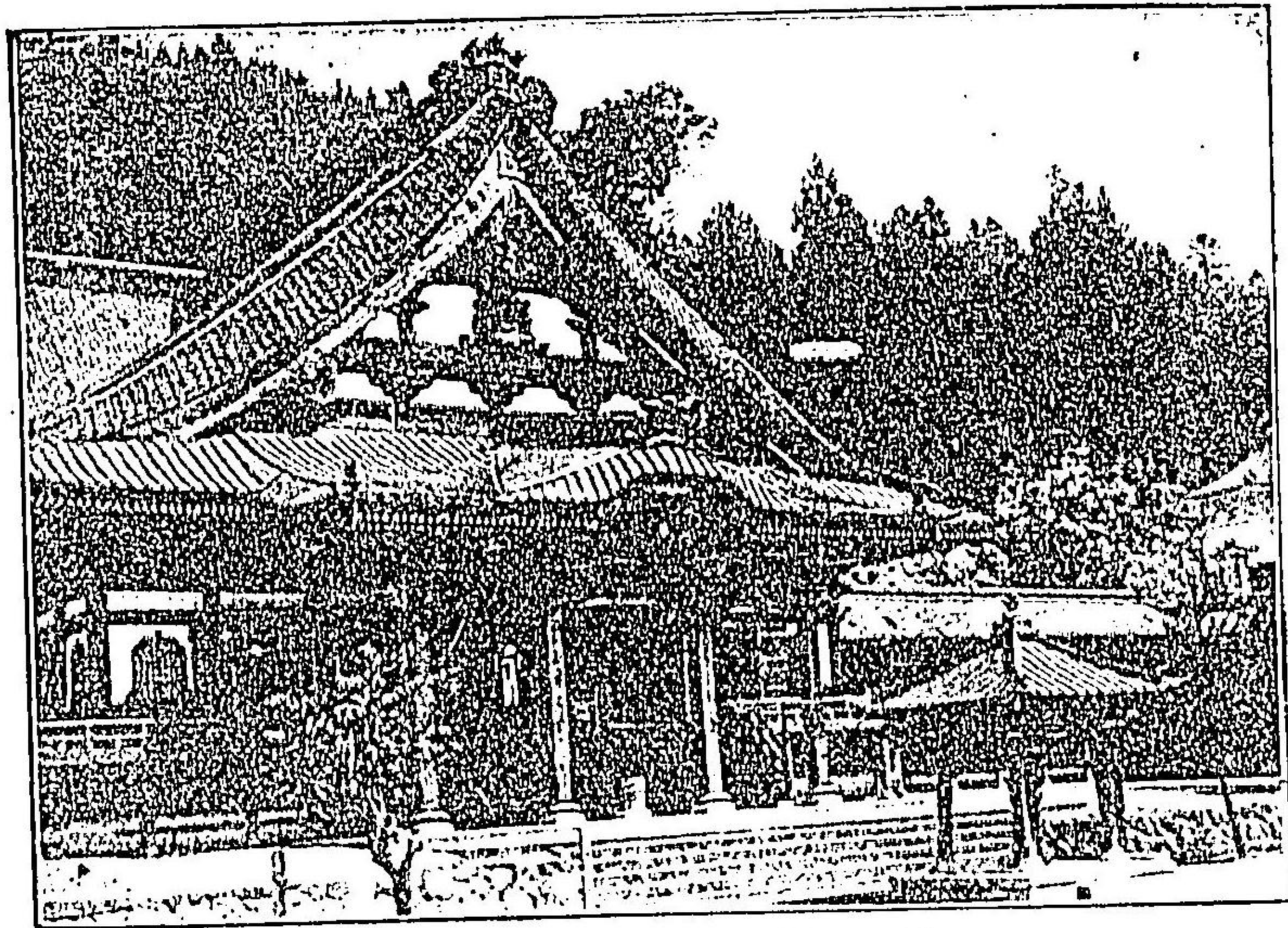
動脈強く、逆上頭痛眩暈吐きだしく、又物事を苦に、氣分  
悪く、特に子宮出血、白血、長血、帯下にて、久く患ら  
れ、衰弱せる重病にて、全治すると請合

中將湯

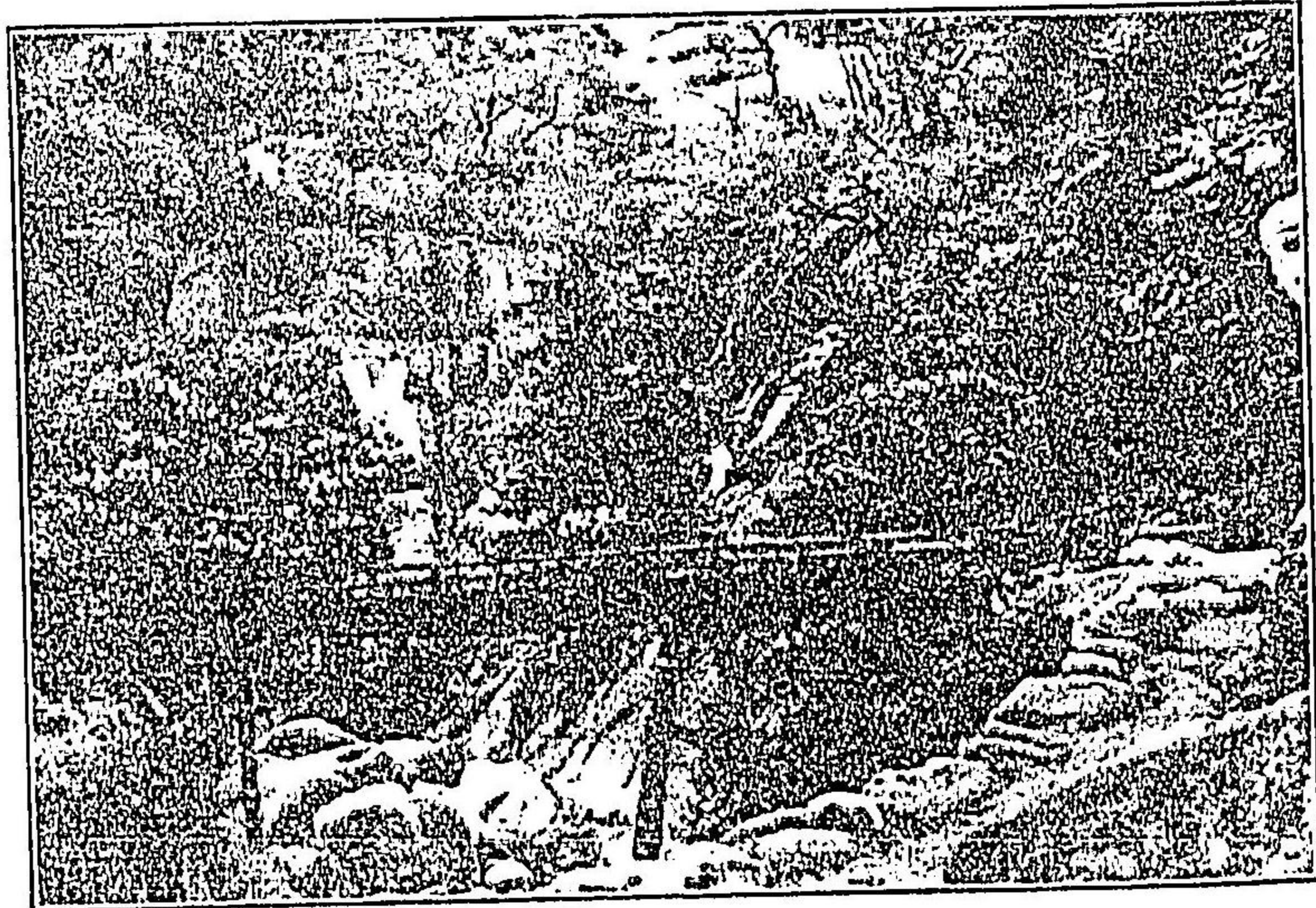
中將湯は各藥店にあり無くは本舖へ申込あれ爲管は東京本  
局・本舖へ御注文の御方は病人の存味詳敷御申込あれ

定	一圓	四十五錢	四錢
一	七錢五厘	二錢	八十五錢
二	三錢	三錢	一圓十五錢
三	二錢	三錢	十錢

支本舖 津村順天堂 支店 津村順天堂



山延身州甲



橋仙昇獄御州甲

中將湯の名譽

◎十年の血の道三週間にて全治す  
 産科婦人科を以て名聲天下に轟きたる左の大醫諸君より最も名譽ある稱賛を添ふしたり  
 醫學博士慈惠病院長  
 高木兼寛先生 (東京)  
 産科婦人科専門醫學士櫻井病院長  
 櫻井郁治郎先生 (東京)  
 産科婦人科専門ドクトル  
 木村順吉先生 (東京)  
 英國エムアイシエス朝鮮國王侍醫  
 瀨脇壽雄先生 (朝鮮)  
 婦人科専門ドクトル  
 朝山義六先生 (横濱)  
 産科婦人科専門ドクトル  
 佐伯理一郎先生 (西京)  
 大阪總方病院婦人科部長ドクトル  
 緒方正清先生 (大阪)  
 産科婦人科専門ドクトル  
 小林山脚先生 (大阪)  
 愛知病院婦人科部長醫學士ドクトル  
 柴田耕一先生 (名古屋)  
 右の外三十餘の大醫諸君の稱賛を添ふしたれども略す

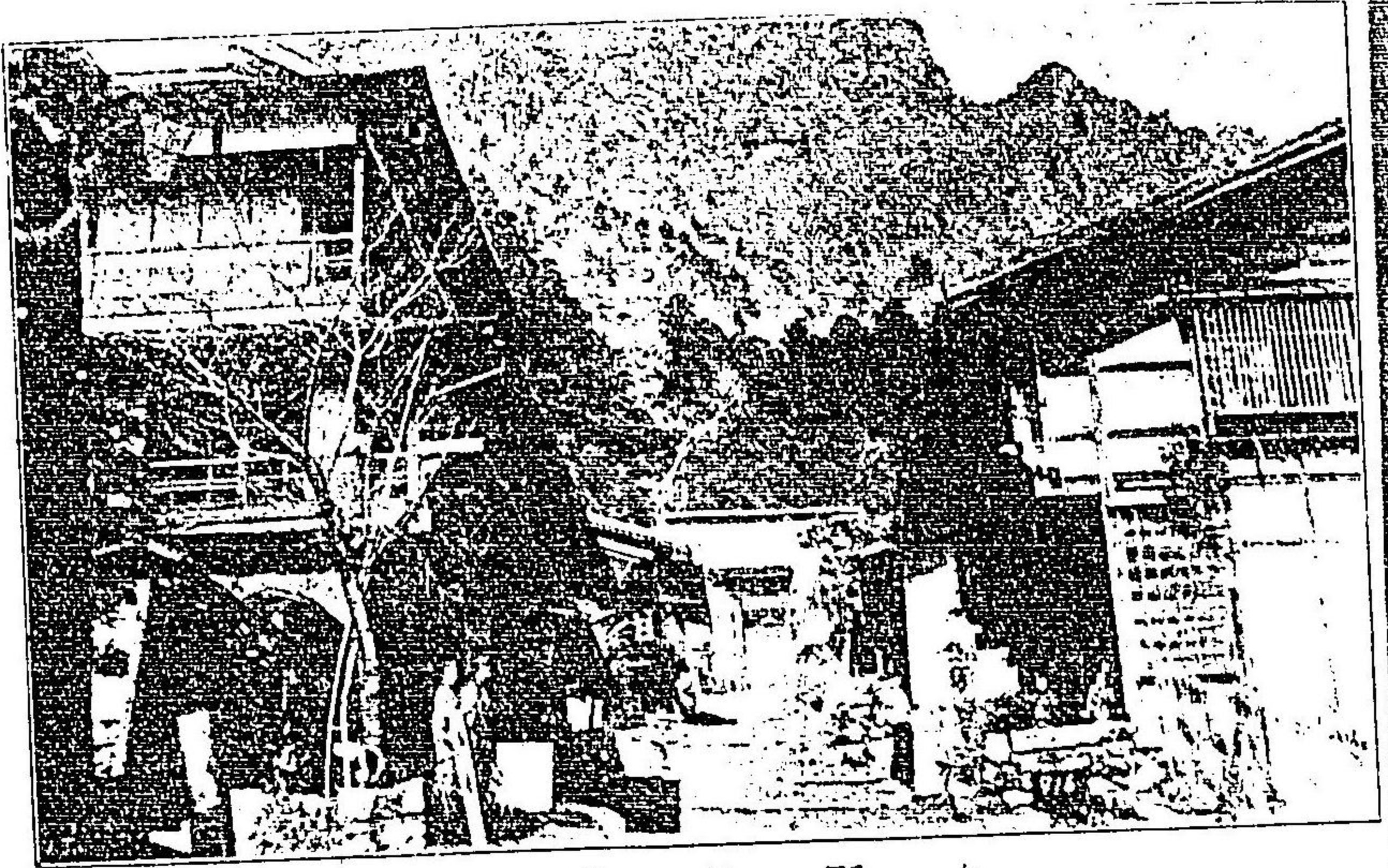
子宮病血の道症



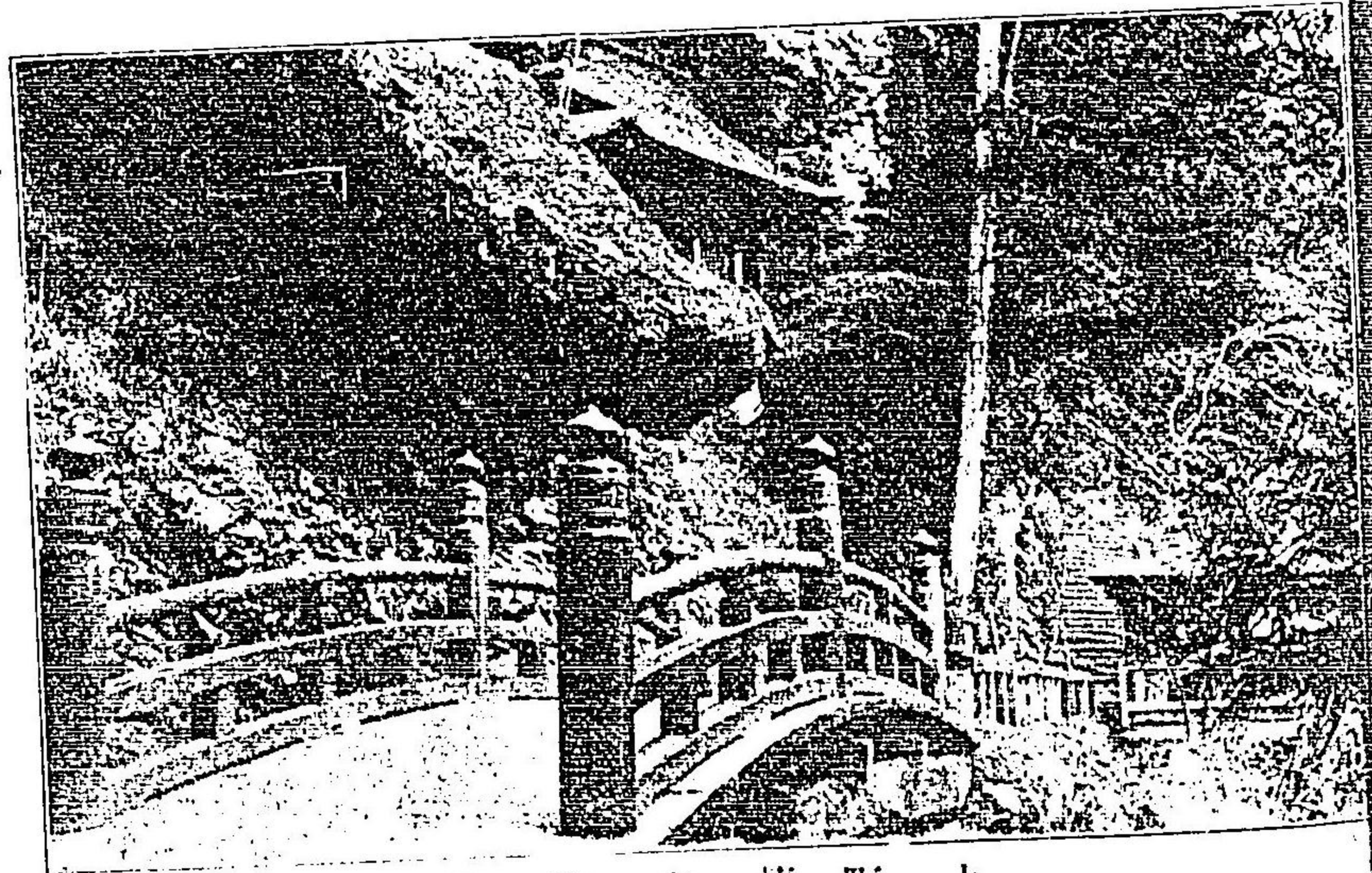
子宮病血の道症は、年久く御困の御方は必ず本劑を一度御試しあれ  
 其効なく年久く御困の御方は必ず本劑を一度御試しあれ  
 子宮病血の道症前後の長き患、下腹子宮腰足引  
 つり痛み、腰  
 より足部へ冷  
 込み、手足しび  
 達、手はしび  
 れ、浮腫、月經  
 不順、忌切、身  
 不順、忌切、身  
 不順、忌切、身  
 不順、忌切、身

中將湯

中將湯は各藥店にあり無くは本舖へ申込あれ爲管は東京本  
 局本舖へ御注文の御方は病人の存味群敷御申込あれ  
 支本舖 東京日本橋區  
 大目七番地  
 四丁目  
 津村順天堂  
 支店 大阪  
 二丁目  
 津村順天堂



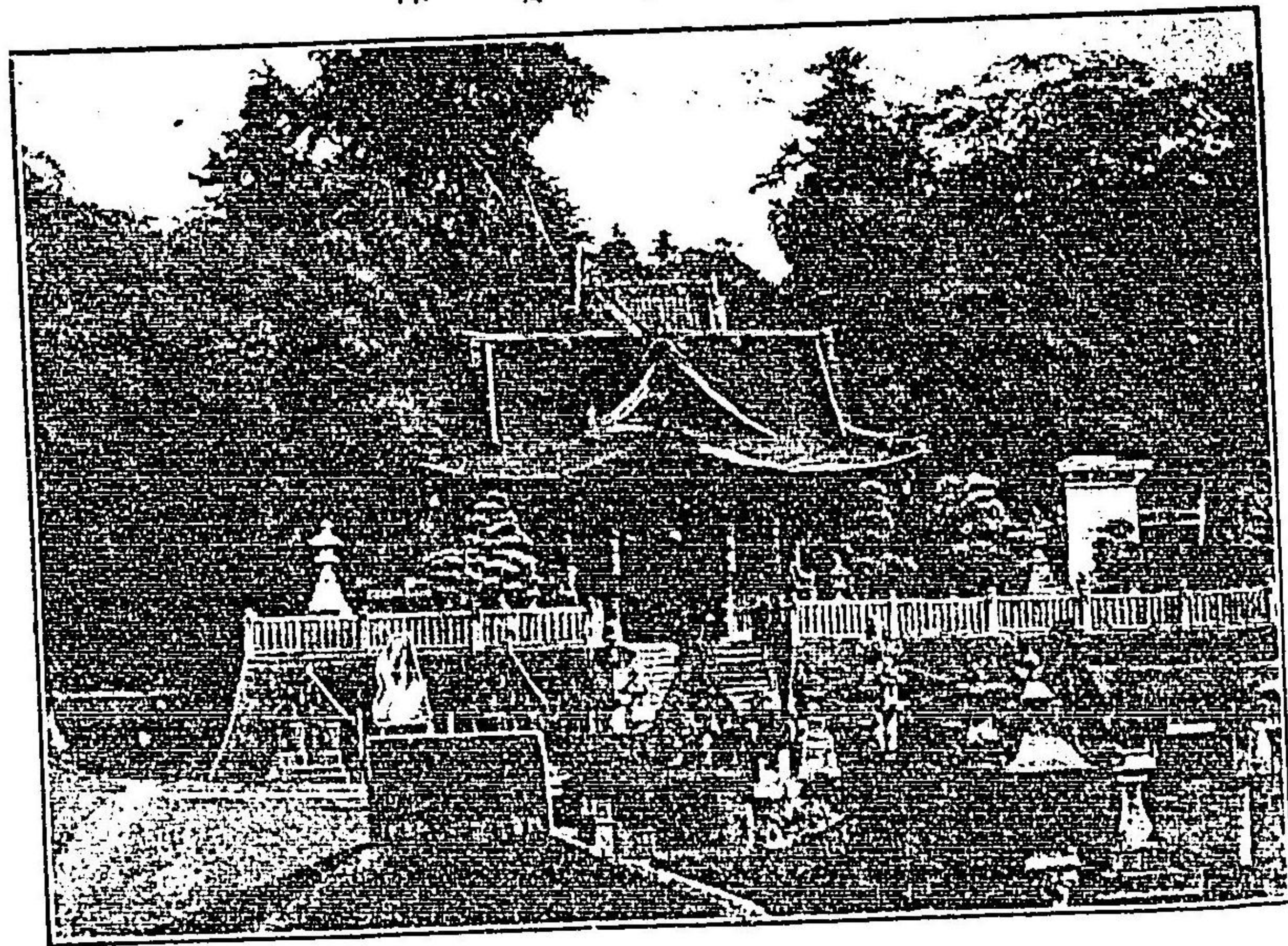
上野妙義山



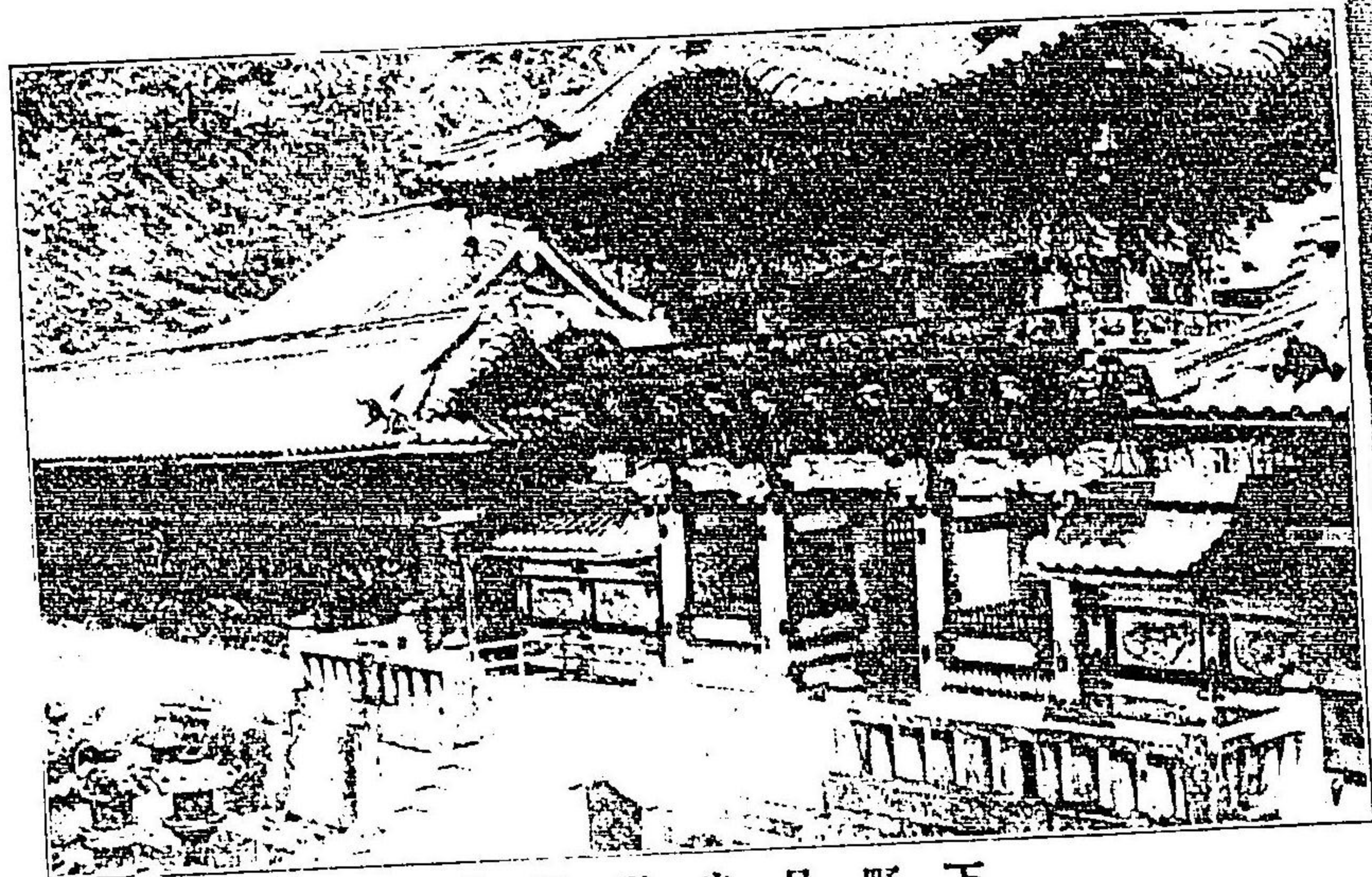
上野榛名神社



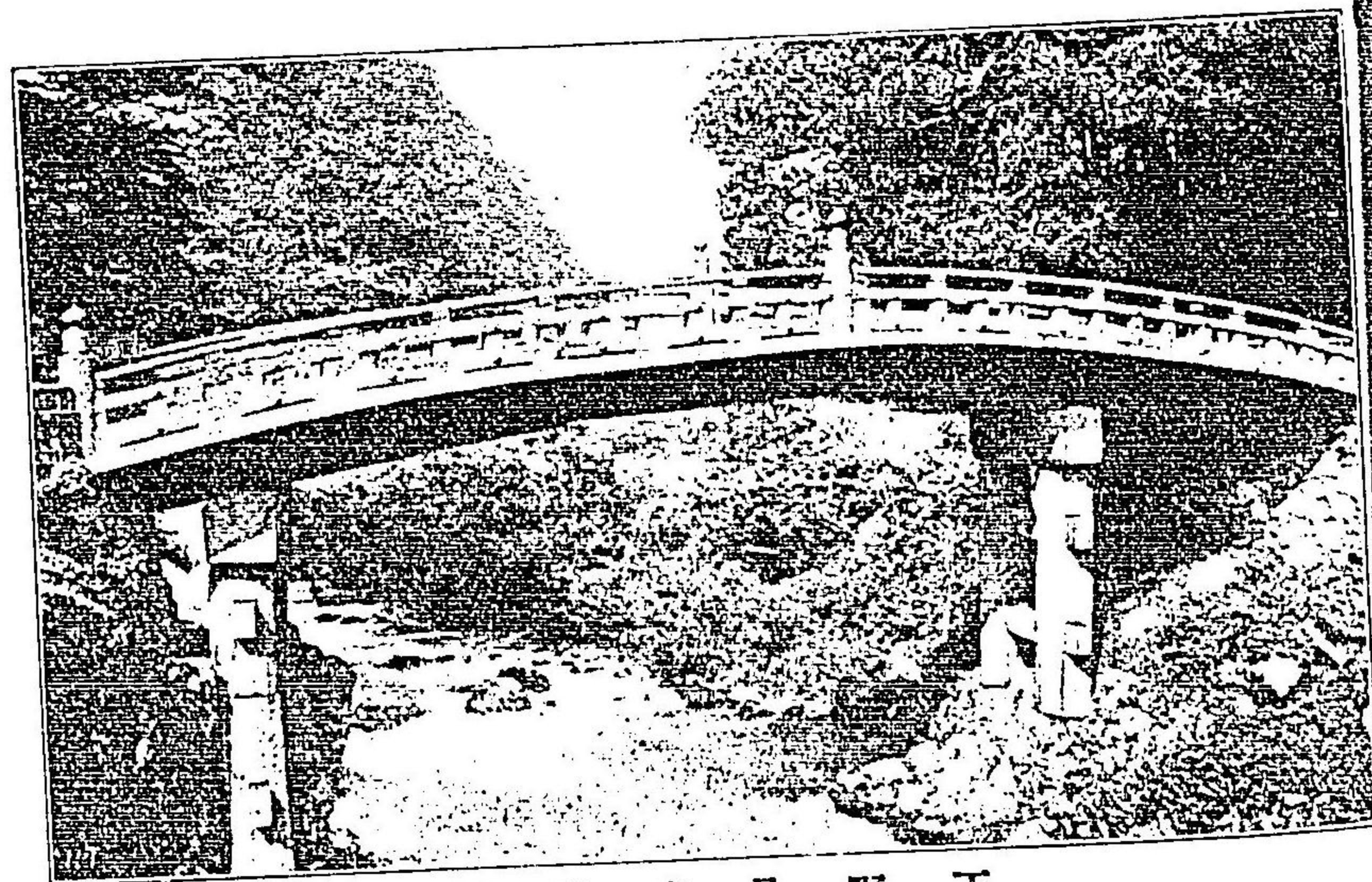
上州伊香保



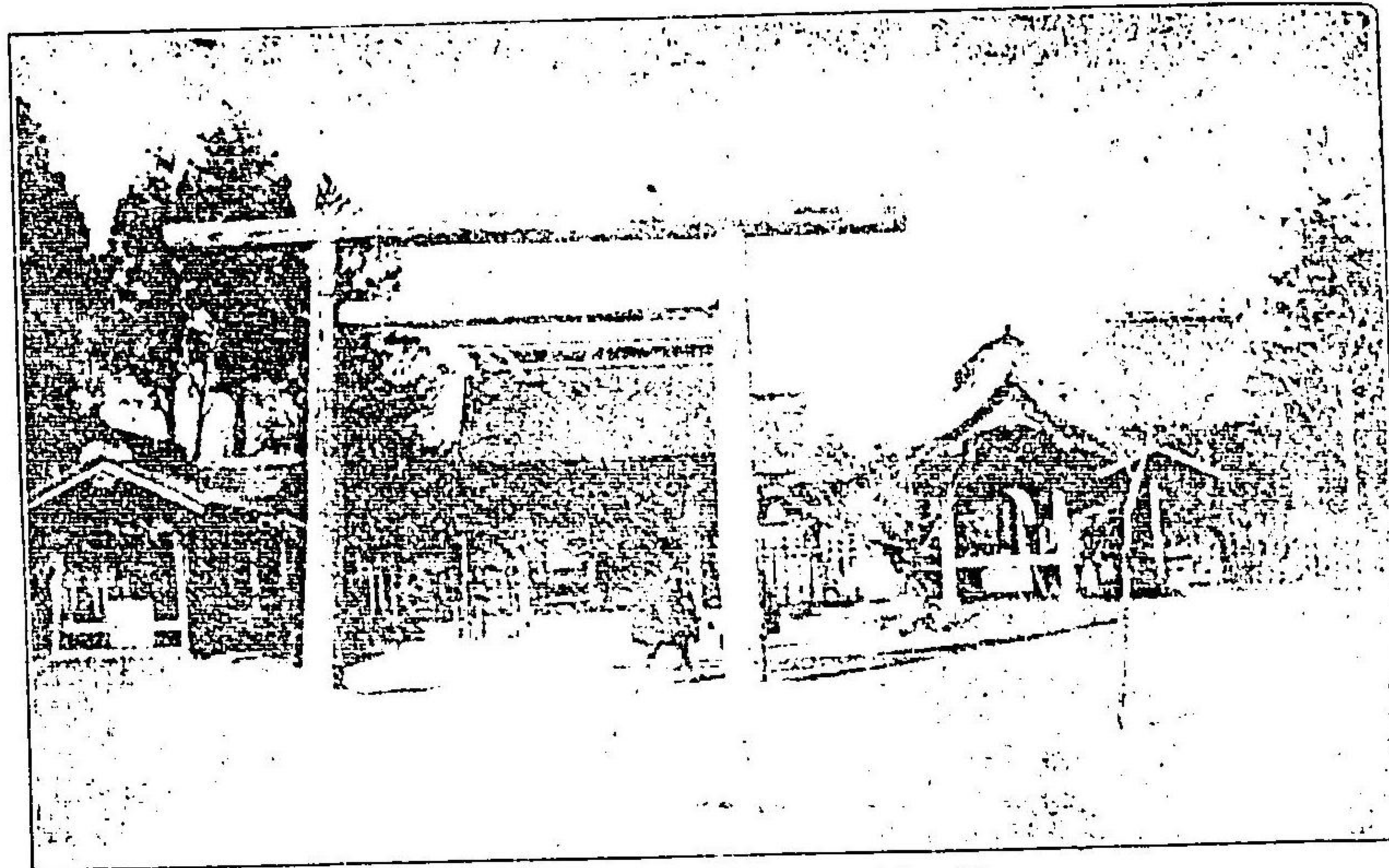
下總成田不動



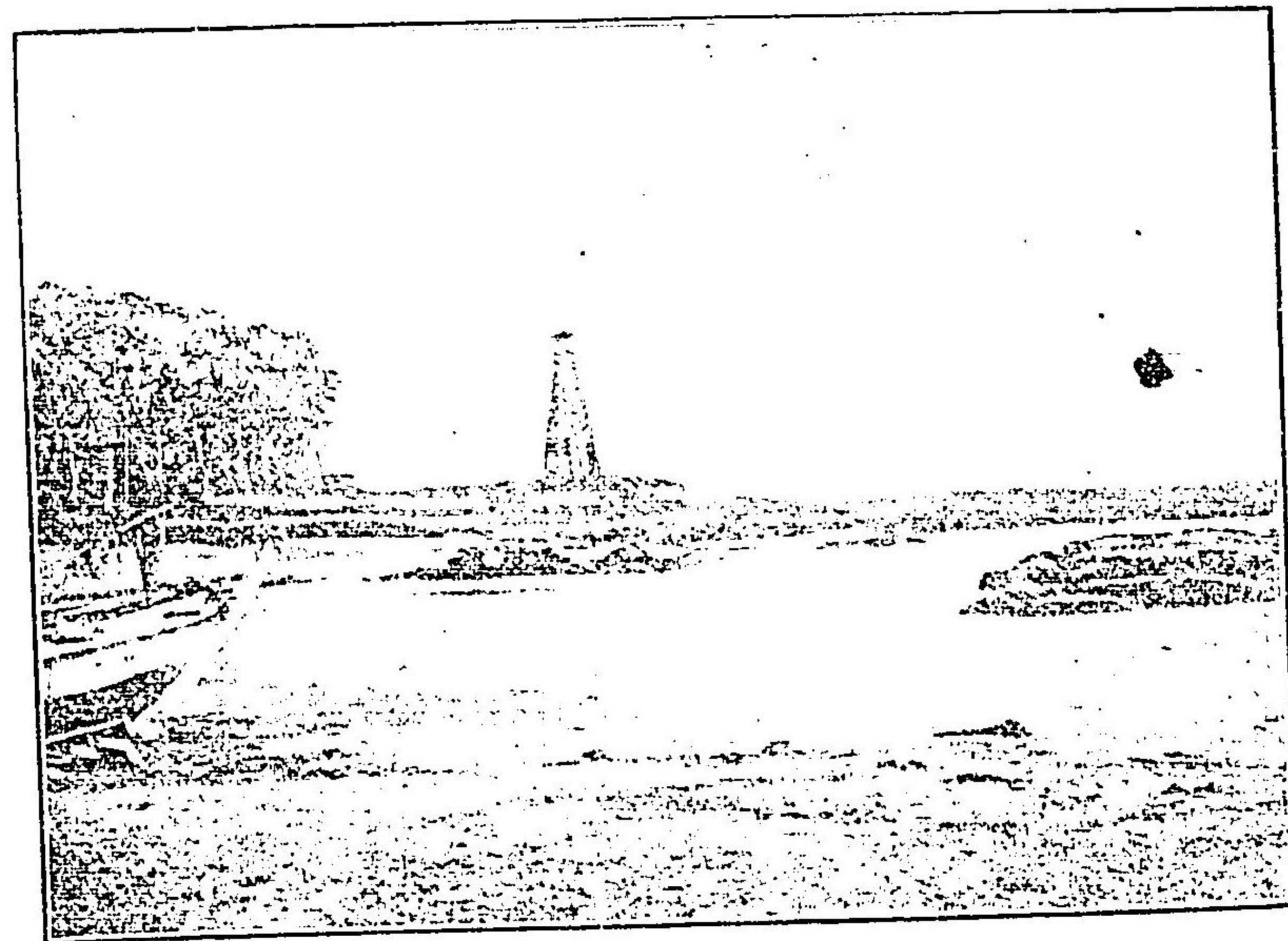
下野日光陽明門



下野日光神橋



常陸水戸常盤神社

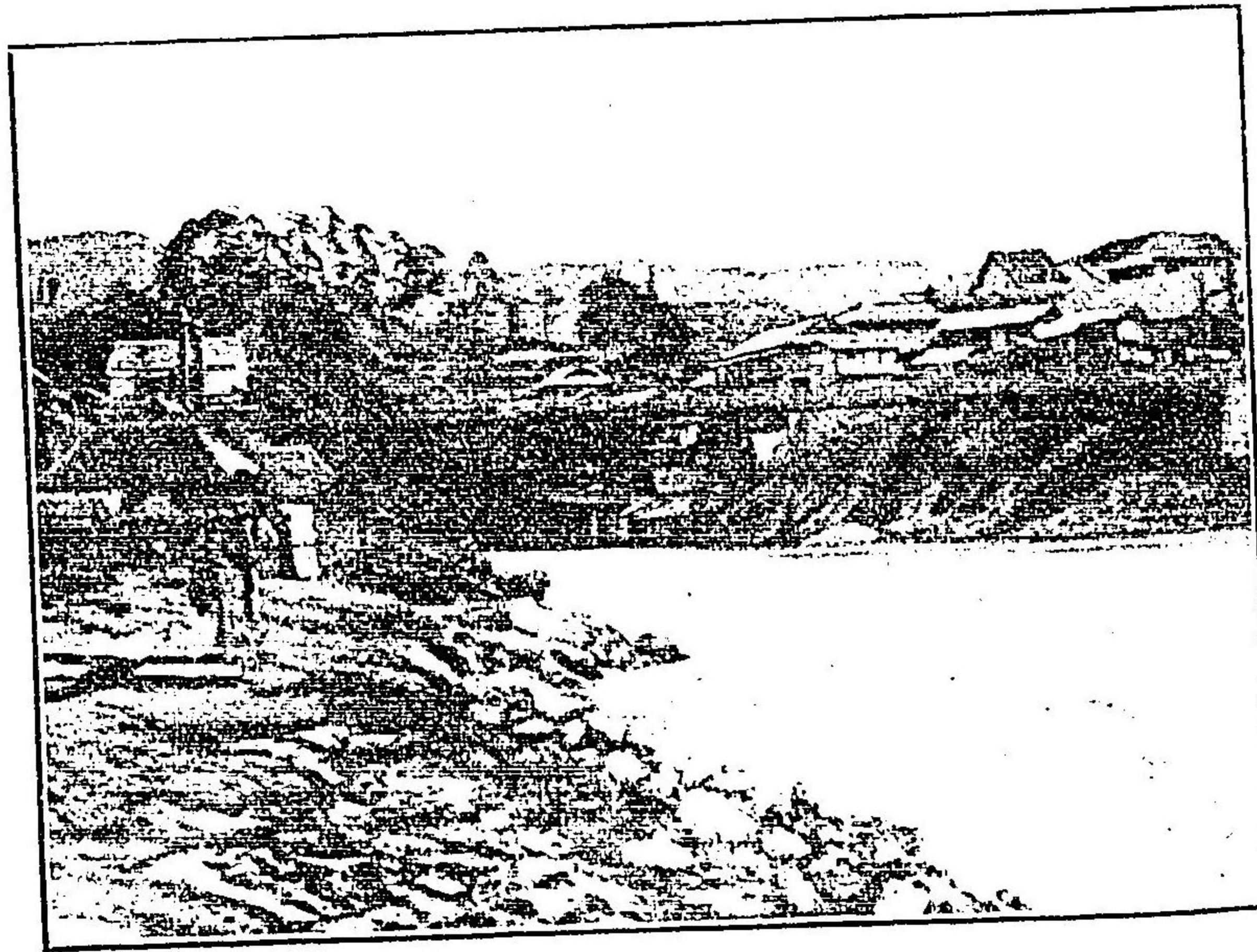


常州大洗岬

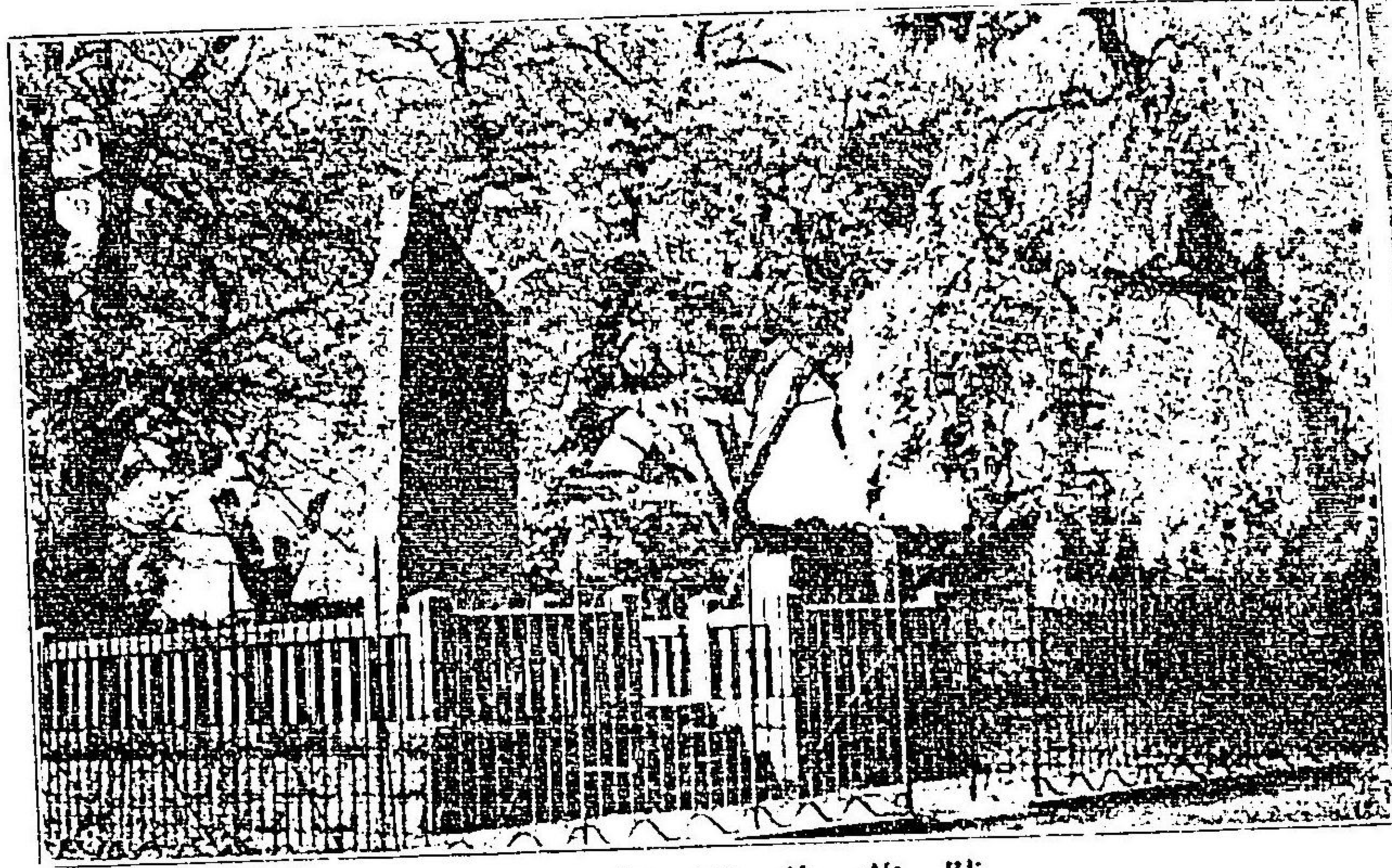




野州驪原野立石



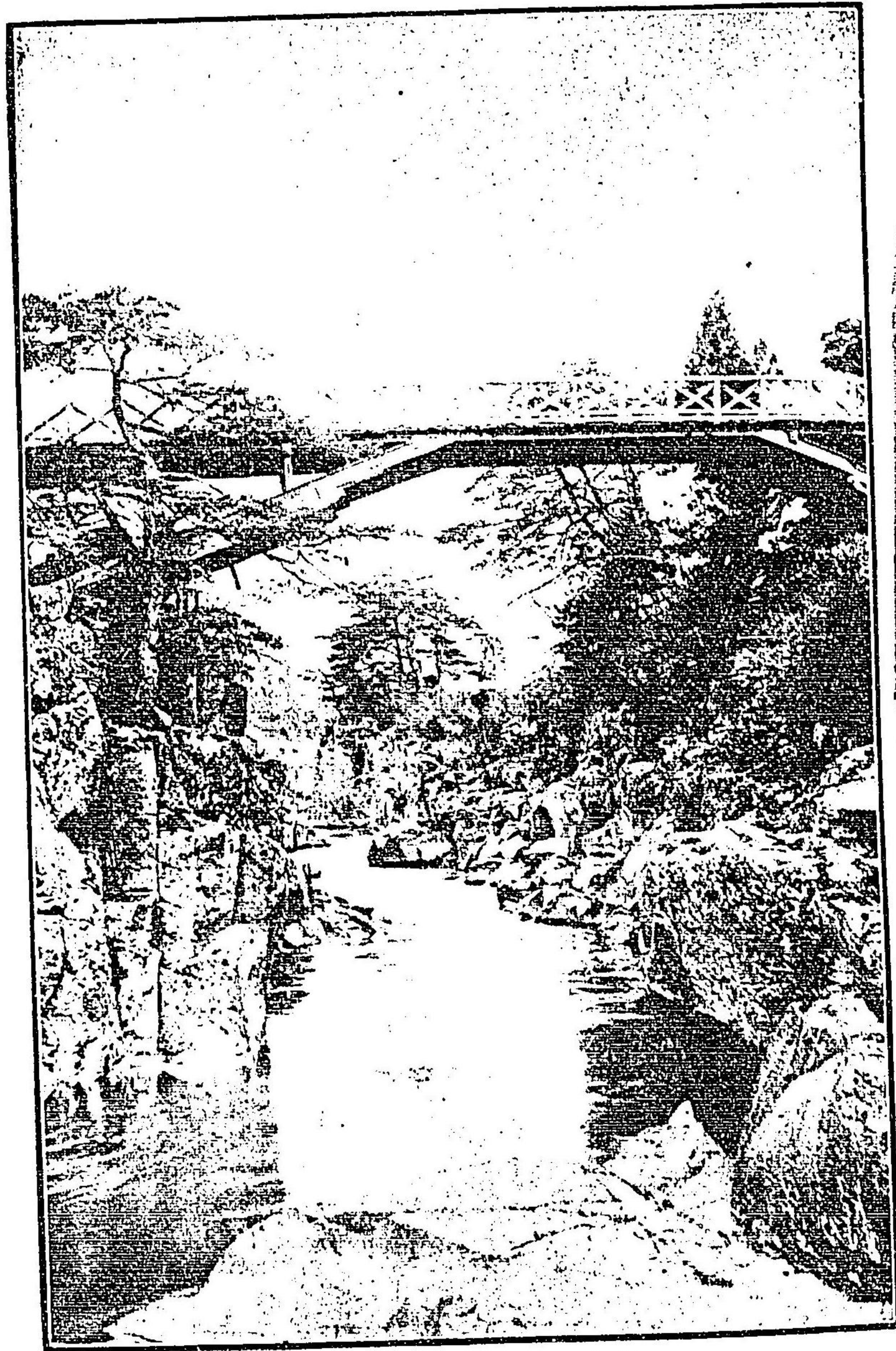
岩代飯阪温泉十綱橋



陸前仙臺榴ヶ岡



陸前松島五大大堂



陸中一の關在嚴美溪

# 大日本女學會 會員募集

●本會の目的は女子教育の普及を圖らんがため高等女學校課程の學科を網羅したる講義録を發行し小學卒業後入學すべき女學校の設けなき土地に住み又は父母のしむに在り●本會講義録は女學講義と稱し畏くも皇后陛下の勅覽を給ひ特に大御歌下賜の光榮を辱らす●本會總裁は小松宮妃殿下副總裁鍋島侯爵夫人贊成員は有栖川宮華頂宮兩妃殿下を始め九十一名●講義録は平易懇到を旨とし假名を付し傍訓を加へ毎月二十五日新判二百頁以上の大冊子を發行し總て講義の質問に答へ歌文習字の添削批評をも爲す●講義録掲載の學科は修身禮法國文漢文作歌作文法日本歴史萬國歴史日本地理萬國地理博物生理衛生家庭教育家事經濟家事衛生小兒衛生兒童心理烹裁縫習字音樂活花點茶にして且つ附録として史傳小説詞藻や伽譚雜錄雜報等の諸欄を添ふる其講義は三宅醫學博士石川理學博士を始め各專門大家の執筆口授に係る●本會は明治廿八年の創立にして已に第一回講義期を終り今中會務を擴張して第二回講義期を開き新に會員を募集す志ある淑女達と多く入會おれかし目下第七卷迄發行したれど何時にて第一巻より送本差支なし●東修三十錢會費一ヶ月三十錢●會則希望者は郵券二錢送附あれ

東京麹町區土手三番町二十八番地

# 大日本女學會

# 肺病喘息患者心得

## 王藥キミク

薬價

五日分	金四十五錢
十日分	金八十五錢
二十日分	金一圓五拾圓
六週分	金三圓

キングは亞米利加の輸入薬にて世界第一の高評を博したる奇薬にして現に重症患者と雖も一人としは**病喘息一代根切保證薬**と云ふ病理養生等の書物無代呈上す

●取次は全國各薬店に有萬一無之地は送料五日十日は二錢以上六錢

●全治せざることをなき

●廿日分以上は「薬用手引全書」と云ふ病理養生等の書物無代呈上す

●東京市神田區駿河臺西紅梅町 **金長商店**

●東京市神田區 **大木合名會社**

●東京市神田區 **帝國堂**

●東京市神田區 **大橋博愛堂**

●東京市神田區 **花房町**

### 夏季必 要良品



獨逸伯林キンドル製薬會社製造

●赤十字臭氣止は生石灰に勝る事七十五倍の効力あり

●赤十字臭氣止は一回散布する時は三日間の効力あり

●赤十字臭氣止は危險の患ひ更になき品なり

●赤十字臭氣止は細粉故撒くに手数な要せず

定價一ポンド入金十錢目方二百々小包料送れ

東京十軒店角 **大橋博愛堂**

有効確實ナ改賣良藥本舖所

## 岩浪藥房調劑發行

### 寶丹水



◎夏季必携備急最良の清涼劑◎各地へ郵送費は別に三錢を要す

この寶丹水は寶丹の元液にして功能は寶丹に等し然れ共水劑なるをもつてきう病のさきは寶丹にまさる事まん請合なり

◎夏季必携備急最良の清涼劑◎各地へ郵送費は別に三錢を要す

此寶丹水は有名なる守田寶丹翁の研究して寶丹に次ぎ發明し世上の好評喝采を博したる良藥也病症急劇の場合には或は原品寶丹に優る事ある要心藥とす◎第一「氣付け」「流行病」「傳染病等」にて「はきくだし」「むねはら」「さしこみ」「いたみ」「づつう」「めまい」「船車酒の二日酔等」を立所に治す芳香健胃劑也

●老きう病の藥

子宮 鎮痙 **女寶散**

三日分 十五錢  
七日分 三十錢  
二週分 五十錢

東京兩國村松町十三番地 **岩浪長藏**

●とげきらひになるくすり

特 有 効 登 録 商 標 許 證

# 酒不可飲

一週間分  
半週間分  
全

金七十錢  
郵金四十二錢  
稅

## 酒の飲量

五合以下 半週間分  
一升以下 一週間分  
服用スレバ酒嫌ニ成ル  
事保證ス又從來ノ酒毒  
ヲ拂ヒ益々身體健康ト  
成ナルヲ請合  
本人ニ知ラセズ飲ス事  
出來ルナリ



酒嫌ニ成ル理由及確實  
ナル効能ノ好評等効能  
書ニ委數アリ御望ノ方  
ハ二錢切手封入アレバ  
能書及ヒ禁酒論一部進  
呈ス

●取次賣捌所ハ全國到ル所ノ藥店ニアリ

## 本 舖

東京市牛込區新小  
川町一丁目六番地

## 森 田 商 店

## 漫遊案内序

余夙有烟霞之癖、有暇則曳杖於名山勝水之間、  
低徊流連、往往忘還、而奚囊中常藏漫遊案内一  
書焉、此書野崎左文君所著、凡本邦名勝、莫不博  
搜而曲叙、道程之修短、舟車之利便、亦皆詳記不  
漏、蓋一々成於親睹實歷之餘、非漫然成篇者、遊  
覽之士、苟依此書之所示、趁程庶幾不誤步趨矣、  
此書之出、遠邇爭購、先睹爲快、今也重版至第十  
五、書肆主人來徵余序、乃書所感與之、

丁酉孟夏

矧川 志賀重昂識

文 序

特 有 効 力 證 據 登 録 商 標

# 酒不可飲

●さげきらひになるくすり

酒の飲量  
 五合以下 半週間分  
 一升以下 週間分  
 服用スレバ 酒癖ニ成ル  
 事保シ益々 又從來ノ酒癖  
 成ルヲ知ラセ 飲ス事



酒癖ニ成ル理由及確實ナル効能ノ好評等効能ハ二錢切手封入アレバ能書及ヒ禁酒論一部進呈ス

一週間分 金七十錢  
 半週間分 金四十錢  
 全 郵 稅 二 錢

## 本 舖

●取次賣捌所ハ全國到ル所ノ藥店ニアリ  
 東京市牛込區新小川町一丁目六番地

## 森 田 商 店

### 漫遊案内序

余夙有烟霞之癖、有暇則曳杖於名山勝水之間、低徊流連、往往忘還、而奚囊中常藏漫遊案内一書焉、此書野崎左文君所著、凡本邦名勝、莫不博搜而曲叙、道程之修短、舟車之利便、亦皆詳記、不漏、蓋一々成於親睹實歷之餘、非漫然成篇者、遊覽之士、苟依此書之所示、趁程庶幾不誤步趨矣、此書之出、遠邇爭購、先睹爲快、今也重版至第十五、書肆主人來徵余序、乃書所感與之、

丁酉孟夏

矧川 志賀重昂識

文

序

漫遊案内初版序

時方夏。暑既至。滿都將化爲焦土。於是乎暑不可不避焉。避暑之計在先擇其地矣。擇而不精。則又與坐於焦土不異。乃避暑案内之撰曷可苟乎。抑鐵路闢而險夷變。昨之窳窳汪洋不可足到者。今則得侶其麋鹿與魚蝦以游息矣。乃避暑案内之書。亦曷

序

文



可無革新如此著者哉。友人野崎左文翁。頃者著漫遊案内而成。其所載皆翁曾遊之地。所謂擇而精者。余喜其能變焦土爲清涼之境。關秀靈爲逍遙之區。於是乎序。

明治廿五年初夏

經峰居士識

凡 例

一 此書は余が曾て實踐せし東海、東山、畿内、山陽四道に於ける名所古跡又は温泉、海水浴場等の景況を記して漫遊者の便覽に供へんとするものなり、世間ありふれの案内記には往々虚飾の文字を用ゐて其實を失ふもの多けれど此書は専ら其地の實情實況を寫すを旨とし毫も賣藥の効能書めきたる筆を弄せず是れ此書の特色なり、讀者は其文の拙きを責めずして記事の眞率なるを採れば可なり

一 此書初版は去る明治廿五年の初夏に發行し、爾後毎年増補訂正して印刷に附せしに、幸ひにも讀者の爲めに歡迎せられ、昨年終に十五版を賣盡すに至れり、故に今回更に新設の鐵道線路案内並に名所數ヶ所を増補し、且つ寫眞版を加へ、以て第十六版を發兌す。されど匆卒の際編纂せしものなれば一も誤りなきを保せず讀者若し誤謬を發見せられなば幸ひに垂

教を賜へ

一此書の大體を假りに東海、東山、畿内、山陽の四道に分つと雖も并は單に讀者の搜索に便ならしめんが爲め東京よりの方位に據りて區別せしに過ぎずして地理上の正しき國分に由れるには非ず譬へば水戸鐵道の各名所(常陸)は東海道に屬すべきものなれども其他は東京より東に方り且つ日本鐵道の東北線(重もに東北線の數ヶ國を横ぎるもの)に頼りて旅行するの序に遊覽すべき便利あれば故らに之を東山道の部に加へしが如き其例此書中に少からず、故に東海道の部に見えざる名所は之を他の部に覓むる等専ら目錄に就て搜索せらるべし

一神社佛閣の縁起、由來等には往々荒唐に趨り妖妄に陥るものなきに非ざれども是れ等は古へより傳へ來りたる儘を取りて妄りに改訂せず其の取捨信疑は敢て讀者に一任するのみ

一此書に記載せる里程は皆停車場を以て起點とせり譬へば横濱より金澤

まで何里とあるは横濱市中又は縣廳前よりの里程に非ずして横濱停車場よりの距離を示したるものなり又其の左右と記せるは東京を後にして其地に向へる時の左右を云ふなり

一此書載する所の人力車、駕籠賃等は概ね其の組合に於ける晴天の定價を示したるものなり、故に風雨若くは深夜等に及べば多少其價を増すものと知るべし、而して車代の一定せざる場所は其通り相場を掲げたれば讀者は之を以て賃金の標準と爲せば可なり

一此書を編むに當り考證として引用せし書籍尠からざれども煩を厭ひて一々其の書目を掲げず、唯だ其の統計的數字は最近の各府縣の統計書、府縣治一斑等に據れる事を明言し置くべし

一此書を編むに當り日本鐵道會社其他の私立鐵道會社等は材料蒐集の便利を與へられ且理學博士、醫學博士、工學博士、鐵道技師、地理専門家及び學士、新聞記者、漫遊家等の諸氏にして懇篤に余が所見の足らざる所

を教示せられしも多く是等の教示は此書に無量の光彩を添へたるや論なし、茲に其の厚意を謝す

明治三十一年五月

編者識

# 改正 漫遊案内目次

東海東山  
畿内山陽

緒言……………一

## 東海道之部

池上本門寺……………三三

川崎大師堂……………三三

金澤八景……………二四

鎌倉……………二七

鶴ヶ岡八幡宮◎鎌倉宮◎頼朝屋敷跡  
◎荏柄天神社◎壽福寺◎英勝寺◎淨  
妙寺◎建長寺◎長壽寺◎禪興寺◎圓  
覺寺◎妙本寺◎光明寺◎長谷觀音◎  
大佛◎海濱院

江ノ島……………三四

逗子海水浴……………三九

横須賀海水浴……………四〇

大津海水浴……………四一

松輪海水浴……………四二

鶴ヶ沼海水浴……………四三

大山(雨降神社)……………四四

大磯海水浴……………四六

國府津海水浴……………四九

酒匂海水浴……………五一

小田原海水浴……………五二

道了權現……………五三

箱根温泉……………五四

湯本◎塔之澤◎堂ヶ島◎宮ノ下◎底  
倉◎木賀◎蘆ノ湯◎小涌谷◎大涌谷  
◎早川◎蘆ノ湖◎元箱根◎箱根權現  
◎箱根驛◎湖尻◎乙女峠

熱海温泉……………七七

大湯◎噓氣館◎熱海八景◎伊豆山温

泉

伊東温泉……………八八

富士山……………九一  
白糸瀧◎胎内くゞり◎曾我兄弟の墓

佐野瀑園……………一〇〇

三島神社……………一〇二

修養寺温泉……………一〇三  
修善寺(寺院)◎正覺院◎旭瀧

湯ヶ島温泉……………一〇七

牛臥海水浴……………一〇八  
我入道海水浴◎桃郷の桃林

戸田海水浴……………一一〇

堂ヶ島洞窟……………一一二

大宮淺間神社……………一一五

清見潟海水浴……………一二六

久能山(久能神社)……………一二七

静岡市……………一二九

志太鑛泉……………一二〇

五和村潮鑛泉……………一二一

秋葉山(秋葉神社)……………一二三

井伊谷の宮……………一二四

奥山半僧坊……………一二六

伊良湖岬……………一二六

前芝海水浴……………一二八

鳳來寺山(鳳來寺)……………一二九

蒲郡海水浴……………一二一

大野海水浴……………一三一

熱田神宮……………一三四

名古屋市……………一三六

湯の山温泉……………一三八

辛洲海水浴……………一四〇

伊勢太廟……………一四一

朝熊山……………一四四

二見ヶ浦海水浴……………一四六

日和山……………一四八

長良川鶉飼……………一四九

虎溪山奇景……………一五三

養老の瀧……………一五六

竹生島……………一五九

彦根公園……………一六一

比叡山……………一六二

日吉神社……………一六三

石山寺……………一六四

小金井の櫻堤……………一六六

百草園……………一六八

多摩川鮎漁……………一六九

高雄山……………一七三

御嶽山(武州)……………一七五

御嶽山(甲州)……………一七六

差出の磯……………一七九

身延山(久遠寺)……………一八〇

稻毛海水浴……………一八三

成田山(新勝寺)……………一八五  
宗吾靈堂

鹿野山……………一八八

鋸山日本寺……………一八九

岩井海水浴……………一九一

北條海水浴……………一九二

畿内之部

平安神宮……………一九六

圓山公園……………一九八

嵐山(附保津山)……………一九九  
 春日神社……………二〇一  
 月ヶ瀬梅林……………二〇三  
 吉野山の櫻花……………二〇五  
 四天王寺……………二〇七  
 住吉神社……………二〇九  
 堺濱海水浴……………二一〇  
 箕面山(箕面瀑布)……………二二二  
 寶塚温泉……………二二三  
 有馬温泉……………二二四  
 鼓ヶ瀧◎落葉山◎温泉寺◎功地山◎  
 有馬富士……………二二四  
 布引瀑布(布引温泉)……………二二〇  
 諏訪山温泉……………二二三  
 和田岬和樂園……………二二三

山陽道之部

須磨の浦……………二二五  
 舞子公園……………二二七  
 明石海水浴……………二二八  
 石の寶殿……………二二九  
 書寫山(圓教寺)……………二三一  
 鷺の湯温泉……………二三四  
 西大寺……………二三六  
 後樂園……………二三七  
 豪谷奇景……………二四〇  
 吉備津神社……………二四一  
 瑜伽神社 瑜伽寺……………二四二  
 沙美海水浴……………二四三  
 福禪寺對潮樓……………二四四  
 千光寺……………二四五

廣島市……………二四七  
 廣島公園◎縮景園◎佛護寺◎國泰寺◎宇品港  
 嚴島(嚴島神社)……………二五〇  
 東山道之部  
 大宮公園(氷川神社)……………二五四  
 八本松◎潮田山◎九郎塚稻荷  
 日光……………二五七  
 東照宮◎二荒山神社◎大猷院殿◎霧降の瀧◎裏見の瀧◎華嚴の瀧◎中禪寺湖◎湯本温泉  
 庚申山……………二七四  
 川治温泉……………二七六  
 藤原温泉……………二七八  
 鹽原温泉……………二七九  
 那須温泉……………二八六

黒田原温泉……………二九〇  
 筑波山(筑波神社)……………二九一  
 常盤公園……………二九四  
 大洗海水浴……………二九六  
 湯本温泉(磐城國)……………二九七  
 太平山……………二九九  
 岩船山……………三〇一  
 唐澤山(唐澤山神社)……………三〇一  
 甲子温泉……………三〇三  
 湯本温泉……………三〇五  
 白河の關舊趾……………三〇六  
 南湖(附り搦山)……………三〇七  
 安達ヶ原古跡……………三〇八  
 飯坂温泉……………三〇九  
 信夫山公園……………三一四

湯野村温泉 ..... 三一五  
 高湯温泉 ..... 三一六  
 土湯温泉 ..... 三一八  
 鎌先温泉 ..... 三一九  
 青根温泉 ..... 三二一  
 峨々温泉 ..... 三二四  
 遠刈田温泉 ..... 三二五  
 小原温泉 ..... 三二六  
 仙臺市 ..... 三二七  
青葉城址◎經々崎靈廟◎櫻岡公園◎  
 榴ヶ岡◎青葉神社◎蒸澤蒙古の碑◎  
 多賀城址◎玉川古跡  
 鹽竈の浦(鹽竈神社) ..... 三三二  
 菖蒲田海水浴 ..... 三三四  
 松島(附り富山) ..... 三三六  
五大堂◎紀綱亭◎瑞殿寺◎雄島◎宮山

作並温泉 ..... 三四三  
 鳴子温泉(温泉村八湯) ..... 三四五  
 中尊寺 ..... 三四七  
 五串の瀧 ..... 三四八  
 鬼石奇景 ..... 三五〇  
 伊香保温泉 ..... 三五一  
物聞山◎船尾山◎御影の松◎箕輪の  
 城址◎ガラムキ温泉◎二ッ嶽◎蒸風呂  
 榛名山(榛名神社) ..... 三五九  
 澤渡温泉 ..... 三六五  
 四萬温泉 ..... 三六七  
 川原湯温泉 ..... 三六九  
 草津温泉 ..... 三七〇  
白根山◎常布の瀧◎園山  
 藪塚鑛泉 ..... 三七五

澁温泉 ..... 四〇七  
 赤倉温泉 ..... 四〇九

長岡鑛泉 ..... 三七六  
 高津戸急流 ..... 三七七  
 赤城山(赤城神社) ..... 三七八  
 磯部鑛泉 ..... 三七九  
佐々木盛綱城址◎佐々木盛綱の墓◎  
 大野九郎兵衛の墓◎仙石の碑◎横野  
 妙義山(妙義神社) ..... 三八五  
 霧積温泉 ..... 三八八  
 輕井澤(附り碓氷嶺) ..... 三九一  
 淺間山 ..... 三九三  
 淺間温泉 ..... 三九五  
 姨捨山 ..... 三九八  
 善光寺 ..... 四〇〇  
 戸隠山(戸隠神社) ..... 四〇三  
 湯田中温泉 ..... 四〇五

# 漫遊案内増補目次

## 其一 鐵道案内

### 其二 各名所及温泉海水浴

#### 東海道の一部

- 館山港(房州)……………四二九
- 鹽山温泉(甲州)……………四三〇
- 燒津海水浴(駿州)……………四三一
- 濱名湖(遠州)……………四三二
- 師崎海水浴(尾州)……………四三三
- 豊濱海水浴(尾州)……………四三四

#### 東山道の一部

- 粟津夕原(江州)……………四三五
  - 義仲寺(江州)……………四三五
  - 唐崎の松(江州)……………四三六
  - 堅田浮御堂(江州)……………四三六
  - 賤ヶ嶽(江州)……………四三七
- 幾内の部
- 豊國神社(山城)……………四三八
  - 山端(山城)……………四三九

- 糺川原(山城)……………四三九
- 觀月橋(山城)……………四四〇
- 宇治平等院(山城)……………四四〇
- 談山神社(大和)……………四四一
- 湊山鑛泉(攝津)……………四四二

#### 山陽道の一部

- 鹽田鑛泉(播州)……………四四三
- 錦帯橋(周防)……………四四四
- 湯田温泉(周防)……………四四四

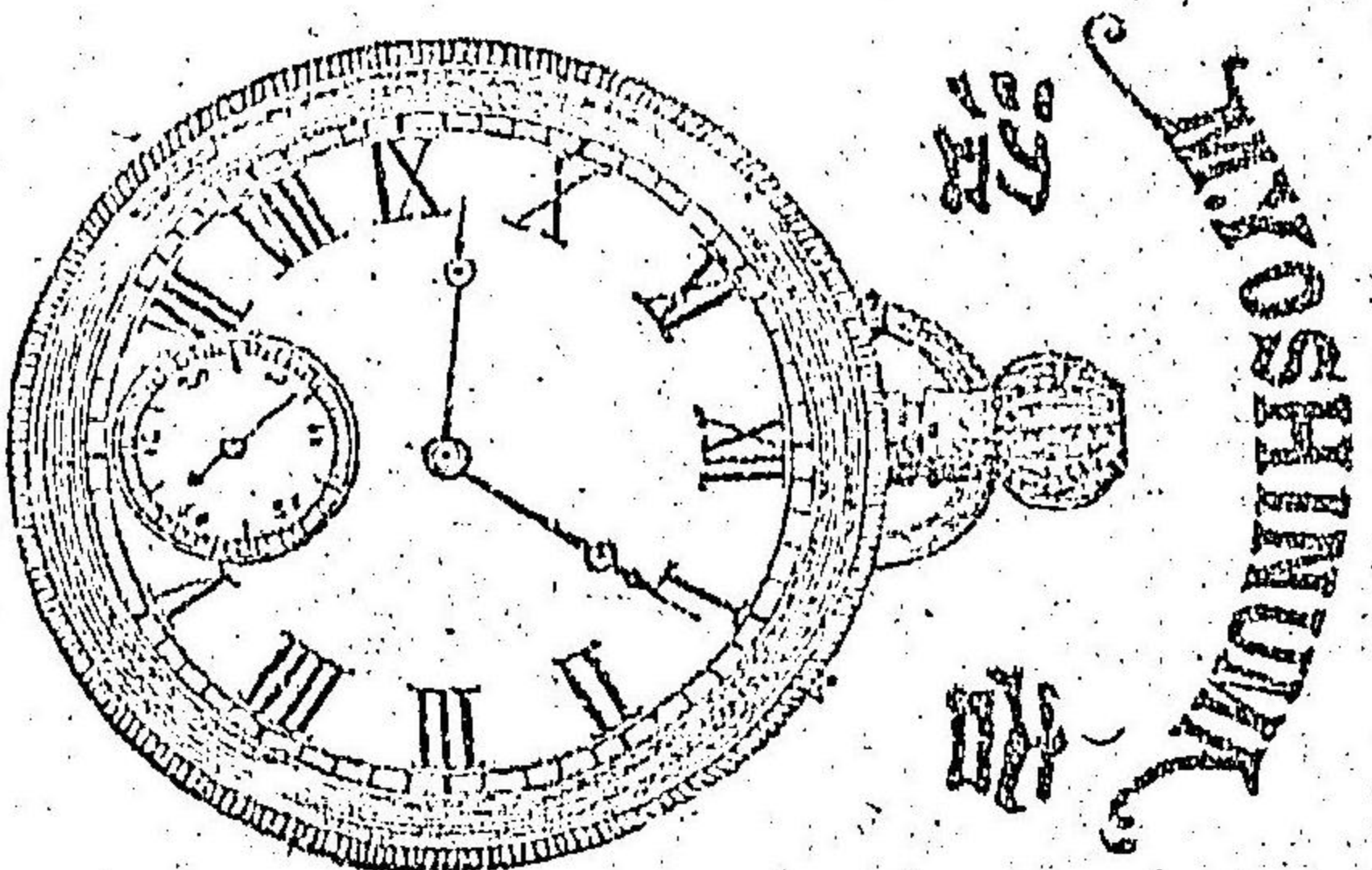
# 漫遊案内増補目次終

- ◎金銀時計類
- ◎掛置時計類
- ◎寶石入指環類
- ◎金銀縁眼鏡類
- ◎其他時計店に屬する一切の賣品

●端西國製龍頭卷懷中時計(無遷送料)

白銅側片硝子器械ニツクレインシリコンパール廿一形甲價五  
 圓二十錢乙價四圓七十錢丙價四圓十錢●鋼鍍側片硝子  
 器械ニツクレインシリコンパール五圓●銀側片硝子器械  
 ニツクレインシリコンパール甲價八圓乙價七圓四十錢丙價  
 價六圓五十錢●同石入シリコンパール甲價十圓乙價九圓丙價  
 八圓●同無双蓋甲價十四圓乙價十二圓丙價十一圓●銀  
 側片硝子器械ニツクレインシリコンパール中押石入二重卷上髻向爪  
 甲價十三圓五十錢乙價十二圓●無双側甲價二十圓乙  
 價十八圓●銀側片硝子器械本ニツクレインシリコンパール總押石入卷上髻  
 向爪シリコンパール甲價十五圓五十錢乙價十三圓五十錢丙價  
 十二圓●同兩蓋裏三枚蓋付甲價三十五圓乙價三十圓丙價三  
 價二十五圓●同七寶側甲價四十圓乙價三十五圓丙價三十  
 圓丁價二十圓

御用時計舖 吉沼又右衛門  
 同區小堀町四丁目 支店  
 東京日本橋區東町(電話浪花五百拾番)



附 險 保 年 ケ 卅

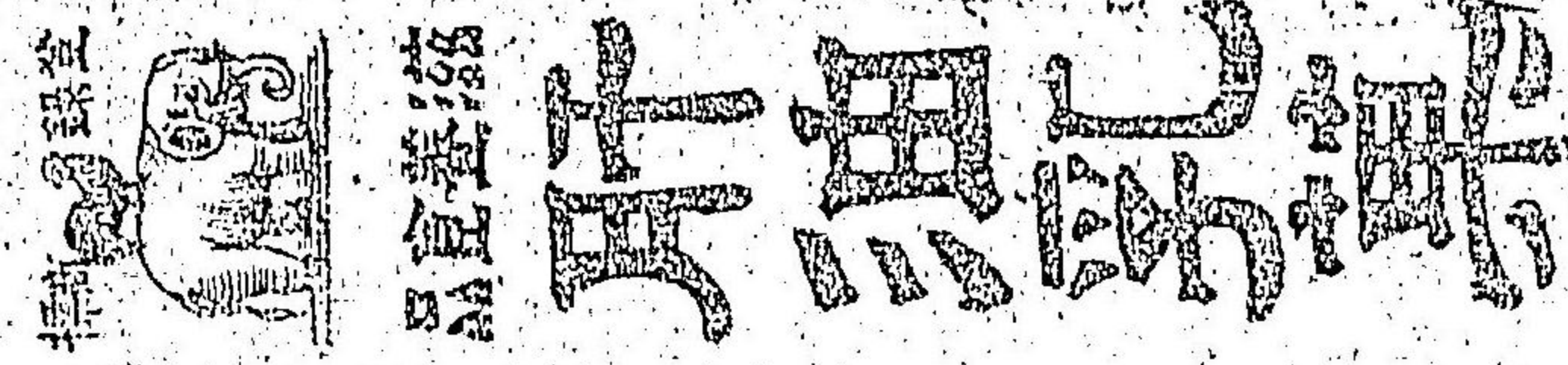


類の薬にあらざり  
 大王の作るの  
 養と作るの大王

名病院々長先生の  
 多数の實驗證明書  
 多辱せり

第二回五二會全國品評會

最優等賞受賞



●定價 大瓶 金一圓 小瓶 六十錢  
 肝油乳葉は身軀を無病健全ならしむ好滋養食  
 品にして牛乳に優ると數倍肺患虛弱貧血病後  
 の衰弱小兒の養育に用て補給の大効あり疑し  
 く思召諸君は大醫に御諮問の上御食用を乞ふ

●注意 鵜象の商標なきは偽物なり

大阪市道修町二丁目

製薬用次亞酸鹽合 製造 西村七  
 利別及コロ、ダイソ 本舖

全國到處藥店及洋酒店  
 あり

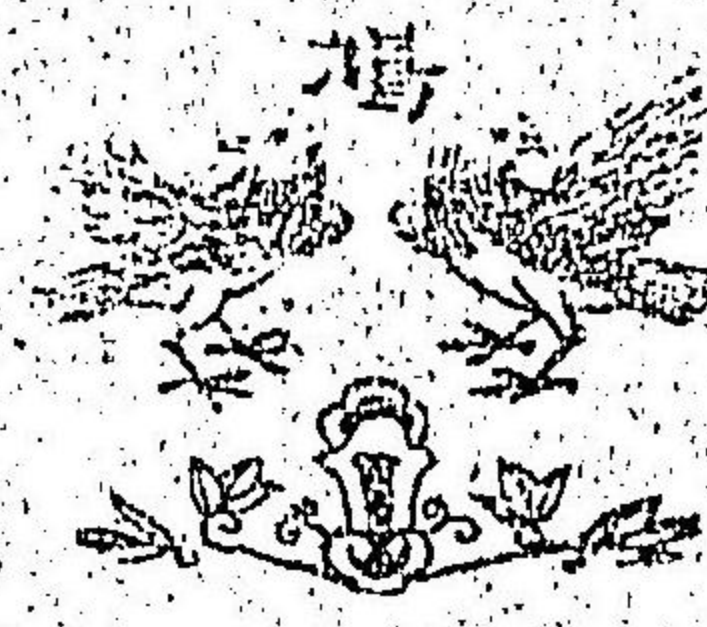
薰香線香筆墨文具類

登録

京都市寺町通姉小路角

熊谷鳩居堂本廬

(電話番號 百拾番)



商標

京橋區尾張町壹丁目壹番地

鳩居堂東京支廬

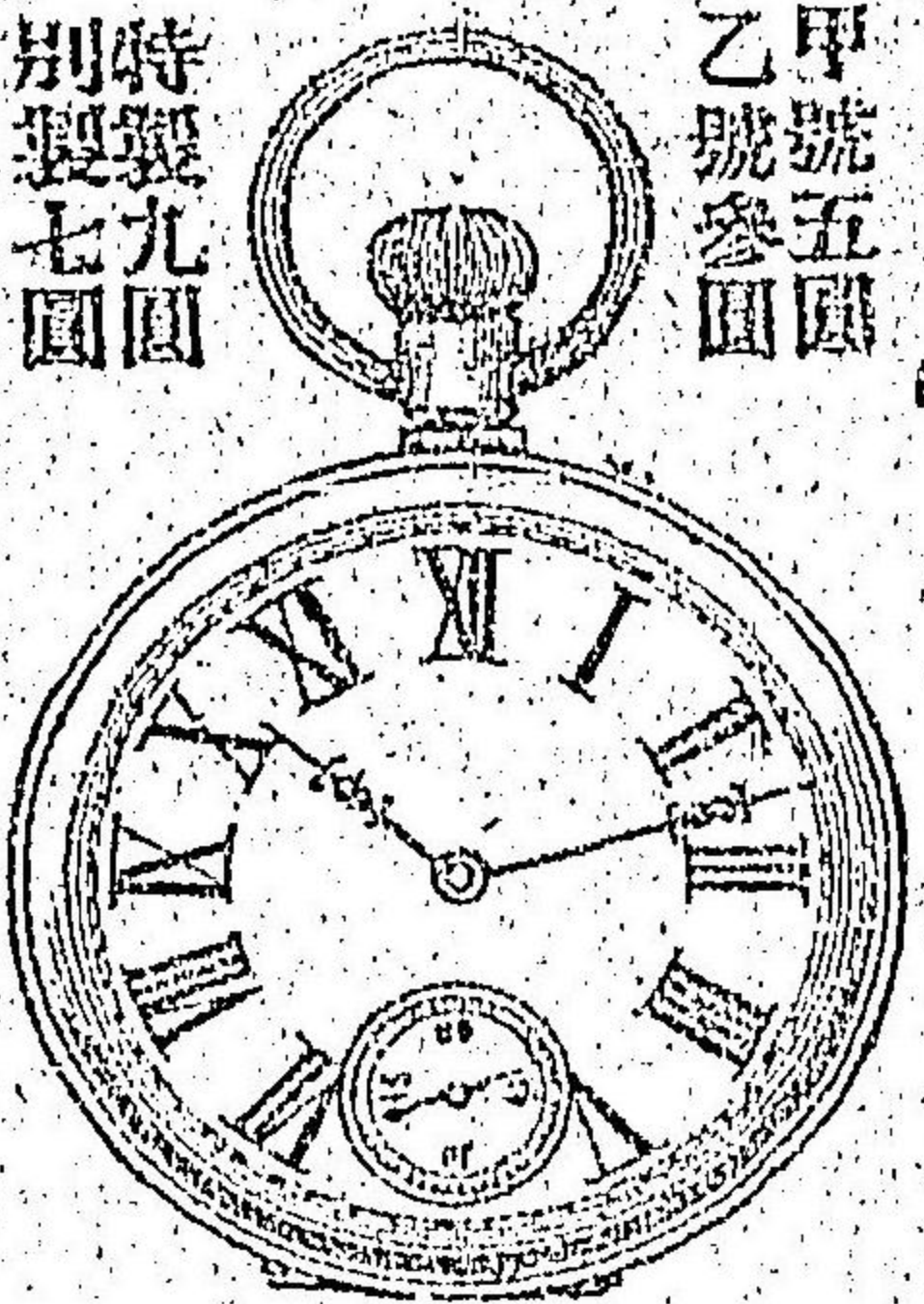
(電話本局千二百七拾九番)

弊舖の製品は總て高尚優美にして御  
 進物用には至極適當せり



形一廿八輪新最西瑞  
 險保年夕廿比無半壁  
**計時中用實**

甲號五圓  
 乙號參圓  
 特製九圓  
 別製七圓



日本一手  
 特約專賣  
 (大阪市東區德井町  
 二丁目三十番屋敷)

時計及貴金  
 屬美術品商

石原商店

今般端西... 適合と特約  
 し日本一手... 堅牢  
 休裁優美... 類に  
 なり尙此... 御注  
 の方へは... 特別  
 卸並各一... 申候  
 種とも... 増  
 爲換高麗... 品物  
 小包引換... 交換す  
 氣に入ら... 交換す

**男女樂み草紙**

前と肉体的と快樂の至微を極盡す實に經世の珍書なり

開花正月  
 洗滌落雁  
**京阪百美人**

本書表題には丹膏美人體書を繙くの嬌態を描き風神楚々  
 飛魂消魂の想あらしむ開卷劈頭には男女生殖器精巧の圖  
 を掲げ詳に説明を付す目錄數十字數三萬餘言悉きに精神  
 精巧なる寫眞銅版を以て大阪京都八花街六柳巷中才色兼  
 備の一粒玉百人を撰抜す苟も京阪兩地の粹を露らんとす  
 る者先づ本書を一見せよ

●正價一册廿八錢、郵税四錢●爲換高麗橋局宛

出版發賣所

大阪市東區骨屋町德井町東へ入北側

尚陽社出版部

大阪市東區今橋  
 四丁目六十番邸本店  
 博文館六雜誌  
 廣告特約取次  
**萬年社**  
 東京日本橋區  
 上橋町九番地支店

無病必治法  
 右無病思  
 大谷南堂製劑部  
 大坂天橋北角  
 三筋東入  
 內務省衛生局長後藤新平君題字  
 省衛生局長長谷川泰君題字

(318)

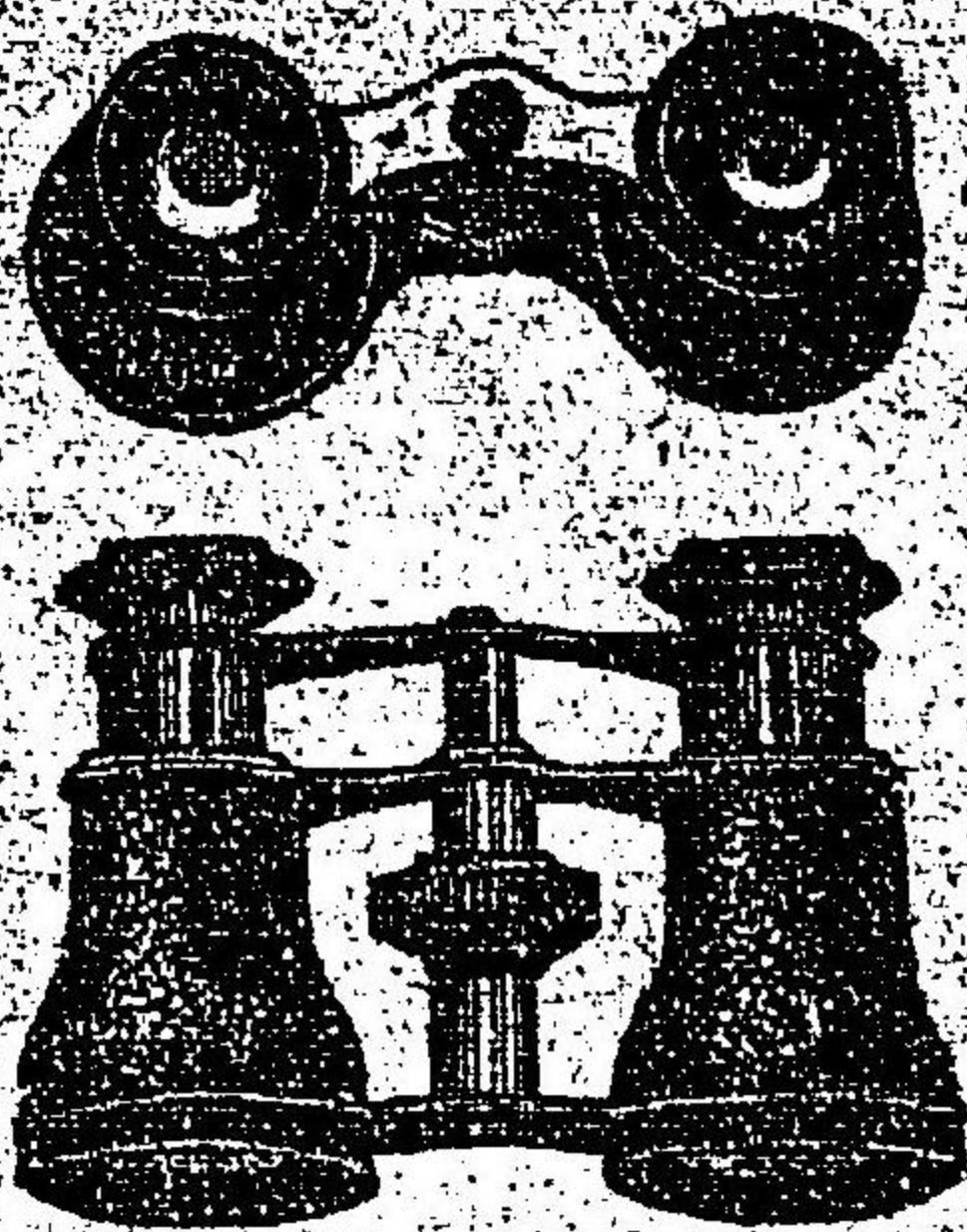
# 改正 東海東山漫遊案内

東京 野崎左文著



可愛い兒には旅をさせよとは唯だ世の中の辛酸を舐めさせんとばかりには非ずして山に登り海を渡りて屢々晴々しき風景を望まば自から雄大な氣象を養ひ城趾を訪ひ墳墓を捜るごとに當年英雄の行爲を追懐して知らず識らず忠愛の心を惹起さしむるをも有るべし、況や目のあたり人情風俗の異なるを見ては身を立て世を渡るの助けを得、汽車汽船の乗合話

## 雙眼鏡



等妙 賞技 牌一

東京市京橋區尾張町二丁目十八番地  
時計及寶玉類商(電話番號本局) 三百三十三  
資金屬美術品

## 天賞堂

東京市神田區小川町十九番地

天賞堂 出張所

天賞堂 出張所

天賞堂 出張所

天賞堂 出張所

天賞堂 出張所

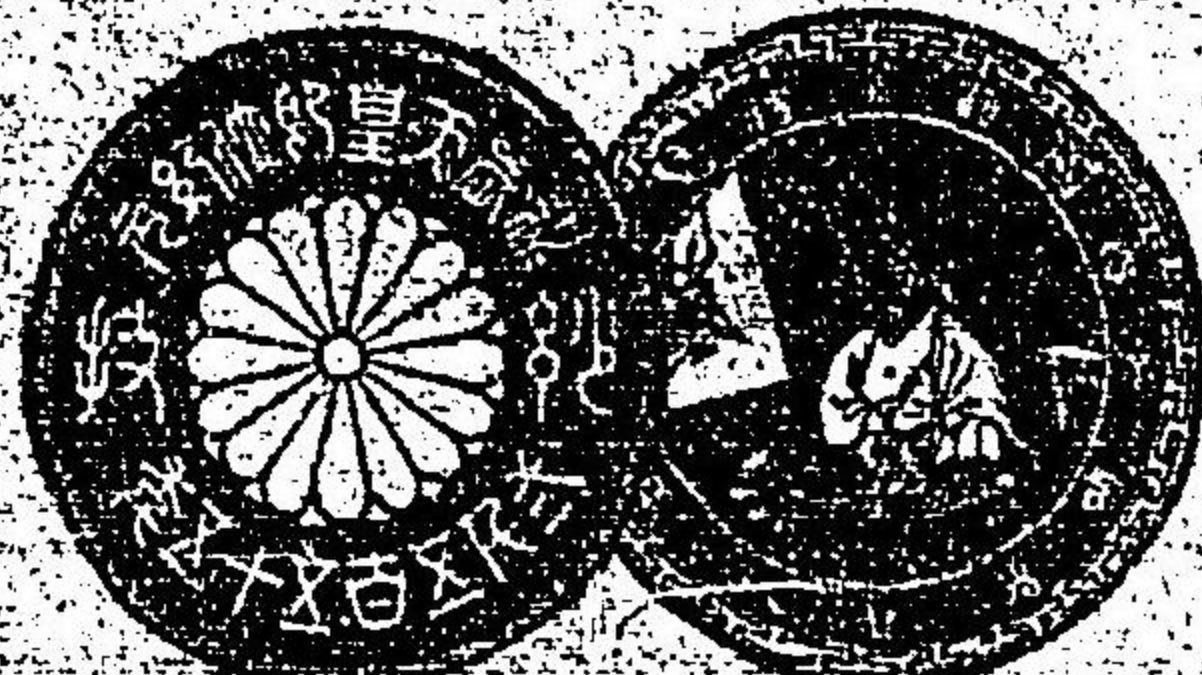
天賞堂 出張所

天賞堂 出張所

天賞堂 出張所

天賞堂 出張所

天賞堂 出張所

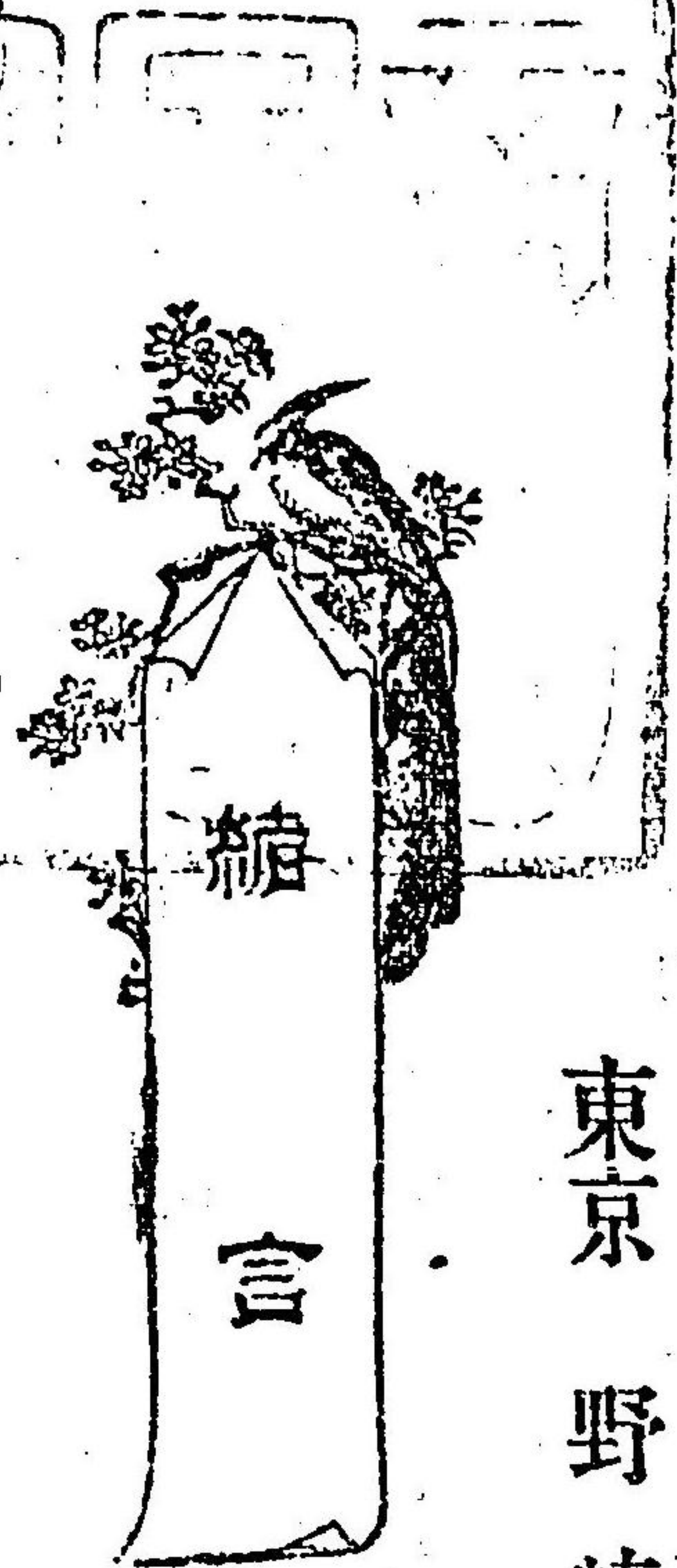


甲價三十三圓 ● 乙價二十八圓 ● 丙價拾五圓 ● 丁價拾圓 ● 戊價七圓 ● 己價五圓 ● 庚價四圓 ● 辛價三圓 ● 壬價二圓 ● 癸價一圓 ● 全日價付甲價百圓 ● 乙價五十圓 ● 丙價三十圓 ● 丁價二十圓 ● 戊價十圓 ● 己價五圓 ● 庚價三圓 ● 辛價二圓 ● 壬價一圓 ● 癸價五角 ● 拾圓 ● 市外送送料金貳拾錢 ● 右價諸求後萬一賣價二適セサルトキハ一週間以内ハ割引ヲ要セスシテ他品ト交換シ又ハ原價ノ返戻ヲ要セウ

(3/8)

改正 東海東山 畿内山陽 漫遊案内

東京 野崎左文著



可愛い兒には旅をさせよとは唯だ世の中の辛酸を舐めさせんとばかりに  
は非ずして山に登り海を渡りて屢々晴々しき風景を望まば自から雄大な  
る氣象を養ひ城趾を訪ひ墳墓を搜るごとに當年英雄の行爲を追懐して知  
らず識らず忠愛の心を惹起さしむるをも有るべし、況や目のあたり人情  
風俗の異なるを見ては身を立て世を渡るの助けを得、汽車汽船の乗合話

しには互に智識を交換して間接には一身一家を益するとも有るべき乎、  
 縦しやそれほどの利益はなくとも常に清涼なる空気を吸ひて精神を爽か  
 ならしめ運動亦た宜しきを得て身體益々健康なるべし、一々是等の効能  
 を擧ぐれば世に旅行はど樂しきものは無き筈なるに古へ交通の不便なり  
 し時には都をば霞と共に立出で、白河の關に秋風の吹くを歎ぜしなど物  
 事總てまだるしかりしかば假令山駕輿駝尻馬に助けらるゝとも一日の行  
 程僅かに十四五里の上には出でず、且當時各藩多くは其の國境を鎖して  
 他國人の自由に來往するを許さざるの掟を定めて故らに交通の道を塞ぎ  
 しに去らぬだに不便を感じし旅人等は一層旅の物變きを嘆ち詩に歌に  
 其の憂情を訴へしのみならず若し已むを得ず百里二百里の旅の空にさす  
 らへ出る事もあらば一家親類打集ひて水盃をかはさぬ計りに歎き悲しみ  
 送る人も行く人も共に涙ぐまぬは無かりき、是等因襲の久しき今猶ほ昔  
 し人の腦裡に染渡りて陸には汽車の馳るあり海には汽船の駛るありて百

里の遠きも一日のうち往復し得べき自由自在の世となりても飽くまで  
 旅を憂きもののみ思ひ誤り公用商用或ひは家事向の必要を除くの外所  
 謂漫遊的の旅行を爲す者割合に多からざるは我が日本の文明國としては  
 聊か愧づべき事ならずや  
 顧みて我邦の地理を按ずるに四方海を繞らして海岸屈曲多く陸地には峻  
 嶺連亘して而かも火山脈に富み山青く松緑りにして到る處一個の風色を  
 備へざるは無し、且海は渺茫として際涯なく潮流急なるが爲めに汚物滯  
 留せず又支那近海の如く泥土の之を濁すなし故に最も海水浴に適す、  
 其山は峭峯にして樹木鬱茂し一帶の火山脈に當れる處は幾多の天然温泉  
 を涌出す、此を以て外人は目して東洋の一大公園とし毎歲我邦に來遊す  
 る泰西人は實に萬を以て數ふるに至ると云ふ、而して躬ら斯かる天然の  
 樂園に棲息する者、而かも身に暇あり家に財ある中流以上の人々にして  
 此樂しき漫遊を試みず却て俗塵の紛々たる都會の地に居すくまり坐花醉

月の遊びにのみ耽りて自ら我が壽命を縮むるを悟らざるが如きは誠に笑ふべく悲むべき次第ならずや、是れ一は不知案内の他郷にさまよひ出んよりは寧ろ勝手知りたる土地に留まるの安全なるに如かずとの引込み思案に外ならざる可しと雖も交通至便の今日汽車汽船を利用して此樂しく面白き旅行を試み我が住む日本の地理人情を探り一は其身の健全なるを謀り一は活潑なる氣象を養ひ以て一身一家を利するの計ごとを立てずんば文明の利器てふ汽車も汽船も半ばは其効能を失ふに至らん、出でよ諸君旅は決して憂きものには非ざるが如し

或人の曰く、近年温泉海水浴に遊ぶ者著るしく増加し汽車汽船も亦是等旅客の爲めに満たさるゝ事あり故に著者が漫遊者の割合に少しと云へるは事實に反すと、夫れ或ひは然らむ然れども此種の浴客は僅かに夏一季の出遊に過ぎずして秋風颯々梧桐葉落る時に至れば其の人々は去つて温泉場に隻影だも止めず且其の目的は單に都下の炎熱を避け若くは宿禰を

醫せんとするに在りて著者が所謂踏查的、探勝的の旅行とは稍や其趣を異にする者なり、試みに春秋の候汽車の中等室に乗り同車の人々に向つて何用にて旅行せらるゝやを問ひ給へ、彼等の中には公務の爲めなりと答ふるもあらん商業上の用向なりと答ふるもあらん而して單に漫遊の爲めなりと答ふる者は甚だ罕なるに非ずや、彼の外人等が暇あれば直ちに山河の跋涉を試み結婚すれば立どころにホネームーンの旅行を企つるの足まめなるに比すれば日本人は頗る出不性なりと云はざる可からず、偶々名所見物と稱する者ありと雖も其人々の多數は一冊の案内記をだに携へず甚だしきに至ては我が行くべき土地の遠近方位をすら辨へざる者あり日本人の地理を究め勝區を搜らんとするの念も亦おしなべて冷淡なりと云はざる可からず、著者は大の旅行好きなり壯年血氣の昔しより鐵面白頭の今日まで年々暇ある毎に或は汽車汽船の便に據り或は徒歩杖にすがりて東西に遊び南北にさまよひて自ら旅行の見聞を廣くし且身體を

壯健ならしむるの益あることを實驗したれば世間の暇あり金ある人々をして悉く旅行好きたらしめんと欲し終に不肖の身を忘れて嗚呼かましくも自ら東道者に任じて此書を著す事とはなれり、是れ偏に諸君の物識となり金持となり且無病息災の人となるを願ふに外ならず豈に何ぞ汽車汽船の爲めに頼まれもせぬ辯護の勞を取るものならんや

既に旅の効能を説き了りたれば茲には日本地理の大要を掲げて旅行者の参考に供ふべき筈なれども單に地理をのみ論じたる書は世間に數多ければ讀者の選ぶにまかせて事々しく茲には記さず、唯だ鐵道の位置、汽船の航路等に至ては旅客の第一に暗んじ置くの必要あれば左に其の概略を掲げて便覽に供す但し汽車汽船の發着時間は時々改正ありて一定せざれば旅客は必ず最近の時間表を携ふるを肝要なるべし

●●●●●  
東海鐵道

東京市新橋より兵庫縣神戸市に至る三百七十六哩三十一鎖と幹線とし別に大船より横須賀に至る支線(十哩)大府より武豊に至る支線(十二哩五十四鎖)及び近江の米原より分岐し越前敦賀を経て福井市に至る北陸鐵道(六十八哩七十七鎖)

あり、神戸へ直行する列車は一日三回新橋を發車し其他大垣に至るもの濃松に至るもの靜岡に至るもの等數回の發車あり今ま東京神戸間及び支線(北陸線を除く)の停車場を擧ぐれば左の如し

新橋 品川 大森 川崎 鶴見 神奈川 横濱 程ヶ谷 戸塚 大船  
藤澤 平塚 大磯 國府津 松田 山北 小山 御殿場 佐野 沼津  
鈴川 岩淵 蒲原 興津 江尻 靜岡 焼津 藤枝 島田 金谷  
堀之内 掛川 袋井 中泉 濱松 舞阪 鷺津 二川 豊橋 御油  
蒲郡 岡崎 安城 荻谷 大府 大高 熱田 名古屋 清洲 一ノ宮  
木曾川 岐阜 大垣 垂井 關ヶ原 長岡 米原 彦根 河瀬 能登川  
八幡野 洲草 津馬場 大谷 山科 稻荷 京都 向日町 山崎  
高槻 茨木 吹田 大阪 神崎 西ノ宮 住吉 三ノ宮 神戸

(横須賀支線)

大船 鎌倉 倉逗子 横須賀

(武豊支線)

大府 龜崎 半田 武豊

●●●●●  
關西及參宮鐵道

關西鐵道は東海道線の名古屋より分れ近江の草津驛に至つて再び東海道線に接続するものにして此の延長七十二哩三十三鎖、東海鐵道の名古屋草津間より短く、四哩七十二鎖、別に龜山より分れ、津市に至る九哩六十



鐵の支線あり、參宮鐵道は津市より伊勢太廟の所在地なる山田町(目下は宮川まで)に至るものにして延長二十三哩五十三鎮とす、關西鐵道幹線は列車と乗換ふるの煩ひあれども美濃を迂回せずして關西地方に赴かんとする旅客には多少の便利あり、參宮鐵道は其名の如く伊勢太廟に賽する人の爲めに設けしものなれば伊勢の地に遊ぶ者は必ず此鐵道に據らざる可からず、停車場は

- 名古屋 愛知 蟹江 彌富 桑名 富田 四日市 河原田 高宮 龜山
- 關 加太 柘植 深川 三雲 石部 草津

(宮川線)

山 山下ノ庄 一身田 津 阿漕 高茶屋 六軒松 阪田 丸宮川 等にして右の内龜山より津までの四驛は關西鐵道會社に屬す

●●● 奈良鐵道

奈良鐵道は京都より宇治町を経て奈良に至る延長二十六哩の短線路なれども關東地方より大阪に迂回せずして直ちに奈良に到らんとするには頗る便利なるを以て旅客も亦甚だ多しと云ふ停車場は左の十一ヶ所に置く

- 京都 伏見 桃山 木幡 宇治 新田 長池 玉水 棚倉
- 木津 奈良

●●● 大阪鐵道

大阪鐵道は大阪市の南端湊町より發し王寺驛(大和國葛下郡)にて左右に分岐し一は奈良に着し一は櫻井に達す、櫻井線の途中高田驛より分岐するものと南和鐵道と稱し新庄、御所、掖上、葛、北宇智の五驛を経て五條町に達す、別に櫻田

線ありて官設の大阪停車場より大阪城を迂回して天王寺に連絡す其の延長は合計(南和鐵道を除き)四十哩六十九鎮なり左に其の停車場の名を列記す

- 湊町 天王寺 平野 八尾 柏原 王寺 法隆寺 耶山 奈良
- 王寺 下田 高田 畝傍 櫻井

(五條町線) 南和鐵道

- 高田 新庄 御所 掖上 葛 北宇智 五條

●●● 山陽鐵道

山陽鐵道は官設東海道線なる神戸停車場を起點とし姫路、岡山、尾道等の各都會を経て廣島に着するものにして延長百八十九哩六十二鎮、其の途中姫路より分岐して生野に達する播但鐵道あり、九州地方へ旅行せんとする者は此の鐵道に據りて廣島に直行し同處より汽船に一圓を貸すれば凡そ十四時間にして門司港に着し得るの便あり、其他播州の名所巡りを爲す者、嚴島神社に賽する者等は必ず此の鐵道に乗らざる可からず、左に全線路の停車場を列記す

- 神戸 兵庫 須磨 鹽屋 舞子 舞子公園 明石 大久保 土山 加古川
- 同網陀 姫路 網干 龍野 那波 有年 上郡 三石 吉永 和氣
- 瀬戸 長岡 岡山 庭瀬 倉敷 玉島 鴨方 笠岡 福山 松永
- 尾道 糸崎 三原 本郷 河内 白市 西條 八本松 瀬野 海田市

●●● 日本鐵道

此會社の幹線は東京市上野を起點とし大宮、宇都宮、福島、仙臺、盛岡の

各市街を経て陸奥青森港に達するものにして其の距離四百五十四哩六十六鎮、本書にては便宜上假に之を東北線と名く其の途中大宮よりは上野の前橋市に至る中山道線あり前橋市よりは東と指して東北線の小山に連続する兩毛線(舊と兩毛鐵道會社に屬せしもの)あり其他支線には小山より東して常陸の水戸市に達する水戸線、上野の次驛なる田端より右折し土浦を経て水戸線の支部停車場に連接する土浦線、宇都宮より分る、日光線、岩切より分る、鹽竈線、尻内より分る、八戸線水戸より平に至る常磐線及び官設東海道線の品川より分岐し東京市の東方を繞りて赤羽驛に連なる山の手線等ありて私設鐵道會社中最長の線路と有するものは實に此會社なりとす、而して青森町よりは弘前市を経て兩羽の山野を貫ける奥羽鐵道(官設)なるもの今や其の工事中にて且下既に青森より碓ヶ關まで三十五哩間の運輸を開始せり、幹線は三陸兩羽及び北海道に渡らんとする旅客に取りて至大の便あると勿論にして其他の線路も亦常に乗客多し、就中前橋線は高崎より分岐し碓氷峠を経て越後の直江津に至る官設の線路と接続し則ち日本の中部に於て其の脊髓を横斷し北海道と東京海との聯絡と通ずるものなれば運輸交通上の利益も亦決して少からざるべし左に全線路の停車場と擧ぐ

(中仙道線及び兩毛線)

- 上野 田端 王子 赤羽 川口 蕨 浦和 大宮 上尾 桶川
- 鴻ノ巣 吹上 熊谷 深谷 本庄 新町 倉賀野 高崎 前橋 駒形
- 伊勢崎 國定 大間々 桐生 小俣 山前 足利 富田 佐野 岩船

(東北線)

- 富山 栃木 小山
- 上野 大宮 蕨 田久喜 栗橋 古河 間々田 小山 小金井 石橋
- 雀宮 宇都宮 岡本 氏家 片岡 矢板 野崎 西那須野 黒磯 黒田原
- 豊原 白河 泉崎 矢吹 須賀川 郡山 日和田 本宮 二本松 松川
- 福島 長岡 桑折 越前 白石 大河原 槻木 岩沼 増田 長町
- 仙臺 岩切 (鹽竈) 利府 松島 鹿島臺 小牛田 瀬峰 新田 石越
- 花泉 一ノ関 前澤 水澤 黒澤尻 花巻 石鳥谷 日詰 盛岡 好摩
- 沼宮内 中山 小島谷 一ノ戸 福岡 三ノ戸 劍吉 尻内 (八ノ戸) (湊)
- 下田 古間木 沼崎 乙供 野邊地 狩場澤 小湊 淺虫 野内 浦町
- 青森

(日光線)

- 宇都宮 砥上 鹿沼 文挾 今市 日光

(水戸線)

- 小山 結城 川島 下館 新治 岩瀬 福原 笠間 穴戸 友部
- 内原 赤塚 水戸

(土浦線及常磐線)

- 田畑 (隅田川) 南千住 北千住 松戸 柏 我孫子 藤代 牛久 荒川沖

土浦 神立 高濱 石岡 羽鳥 岩間 友部 内原 赤塚 水戸  
 佐和 大壺 下孫 助川 川尻 高萩 磯原 關本 勿來 植田  
 泉 湯本 線 平

(山ノ手線)

品川 目黒 澁谷 新宿 目白 板橋 赤羽

●●●●●●●●●●  
 甲武、川越、青梅鐵道

武甲鐵道は東京市麹町區飯田町より起り舊城の外壕に就て迂回し赤阪より青山を経て日本鐵道山の手線なる新宿

停車場に接續し之を市街線と名く、新宿よりは殆ど直線となして八王子町に達するものにして飯田町より延長二十六哩七十六鎖とす、其の途中國分寺より右折するものを川越鐵道とし立川驛より分るゝものや青梅鐵道とす、以上三鐵道の停車場は左の如し

(甲武鐵道)

飯田町 牛込 市ヶ谷 四ッ谷 信濃町 新宿 大久保 中野 萩窪 境

國分寺 立川 日野 八王子

(川越鐵道)

國分寺 小川 東村山 所澤 入曾 入間川 川越

(青梅鐵道)

立川 拜島 福生 羽村 小作 青梅

●●●●●●●●●●  
 總武鐵道

總武鐵道は同下く本所區錦絲堀より起り概ね千葉街道に沿ひて千葉町に達

し更に延いて佐倉に至るものにして總距離三十一哩四十四鎖、千葉より分れて大網に至るものと房總鐵道と云ひ佐倉より延長して成田に達せんとするものと成田鐵道と云ふ左に其の停車場を掲ぐ

(總武及び成田鐵道)

本所 市川 中山 船橋 津田沼 幕張 千葉 四街道 佐倉 酒々井

成田

(房總鐵道)

千葉 寒川 蘇我 野田 大網

此外關西地方には坂堺鐵道、浪速鐵道、攝津鐵道等あり之に工事中のものを加ふれば其數頗る多けれど茲には其の概略を掲ぐるのみにして止みぬ、又各鐵道の乗車賃金は一哩に付下等一錢の割合と見れば大差なければ日本鐵道線の如きは下等百哩までは一哩に付一錢二厘、百哩以上二百二十哩までは同く一錢、二百二十哩以上は凡そ八厘の割合なり、官設鐵道に在りては中等賃金は下等の二倍、上等は下等の三倍なれども日本鐵道、山陽鐵道其他の私設鐵道會社に在りては中等は下等

の一倍半、上等は下等の二倍半と定めたるもあり是等は各停車場に張出しある賃金表に就て見るべし

● 瀛船航路 日本郵船會社の定期航海船には横濱より神戸、馬關、長崎を経て清國上海に航するもの、横濱より荻ノ濱、函館を経て小樽に往復するもの、神戸より西方を巡り尾ノ道、馬關、境、敦賀、伏木、直江津、新潟、函館等に寄港して同く小樽に赴くもの、小笠原島に至るもの、高知に通ふもの、半田、四日市に渡るもの其他九州沿海に、臺灣に、琉球に、朝鮮に航するもの等枚擧げ違わらず又大阪商船會社の瀛船は重に瀬戸内を航行し行く四國九州に渡るものあり、尾張の熱田より四日市、津及び紀伊の南海を経て大阪に往復するものあり、東海瀛船會社の定期船には東京靈岸島を發して浦賀、金谷、保田、勝山、北條、館山に通ふものあり、其他相模の横須賀、三崎に航するもの伊豆の下田に渡るもの皆東京灣より解纜す、其の發着時間及び賃金等は名所案内の部に於て特

に必要なるもののみを掲ぐる事として茲には悉く省略せり

● 旅行心得

假令瀛車瀛船の便ありとは雖も初めて旅路に足を踏出す者は諸事物馴ざるが爲めに或は道を誤り時間を費し随つて豫算の路銀をも徒費して後悔する事も多からん是等初旅の人々に向つて聊か轉ばぬ先の杖どもなれかしと茲に旅行心得數ヶ條をものして一覽に供ふ多くは著者の實験上より得來りしものなれば讀者に益する所なきにしも非ざるべし、是れ本書前版十餘萬部を賣盡せし御禮を兼ねたる版元と編者とのお景物と見そなはせ給へかし

◎ 旅先へ携へ行く手荷物に成丈け少なきが上にも少なからんと心掛くべし彼れも無くては不自由ならん此れも携へざれば不便利なりさて多く携帶する時には兎角持ち運びに不便利と來すのみならず土産物を買ひ名物を購ひなごして數日旅行する間には荷物は意外に嵩ばりて困難する事あり出立の時革鞆の内に餘裕ある位にて歸りには丁度一ぱいになるものなり ◎ 懐中常に小錢と切らさざるやうに貯ふべし例へば宿屋の拂ひ等は成丈け大札にて勘定し其釣錢は銅貨、白銅貨にて取るやうにし之を懐中し居らざれば人力車賃の拂ひ、茶店の茶代等に困りて餘計の錢と抛つとあり、旅行經濟の秘訣はかゝる瑣細なる處にもあるなり

◎旅行は朝早く起きて泊りを早くするやうに心掛くべし、何事も怠りたがふもの多きが中に旅行ほど豫定の時間通りに行はれぬものは無しナニ今晚八時までに某驛まで着けばよいなどの覺悟はいつも當てに成らずして途中種々の道草を食ひ十時になり十二時になりて漸く宿屋に辿り着くも多し、而して其旅店の善き座敷は既に先着の人に奪はれ同宿料を拂ひながら不平と便所臭き小室に洩らすのみならず湯に入り飯を食ふ等に時間をも費して眠る間の少くなるものなり、あの宿屋は座敷が汚なし取扱ひが悪しなどあさにて悪口を言ふ者はエテ箇様な旅客に多しとぞ

◎旅店の客室には必ず錠前のわりる錠箱類と備へ置くべしと布達せられし事もあれど都遠き地方の旅屋には此の規則を守る者少なく加ふるに夏向きは障子襖なく多く開け放して寝る事なれば旅屋ほど無用心なるは無し、而して時計を取られたる紙入を盗まれたと騒ぐ者は鮮魚とながし元に投出し置きて猫に奪はれしを悔るゝ一般にて皆旅客の不注意より起るものなり、故に大切の品は必ず旅屋の帳場に預けるか又は締め堅き處に入れ置き決して便所に行き湯に這入る間と雖も之を投出し置く可からず假令一分時間と雖も盗む者の爲めには好機會なればなり

◎大金と携へて瀛車瀛船にて旅行する者には間ま其金と一ト纏めにして手提革箱へ入れ置くもあれど剪賊の第一に目と着けるは革箱にて小刀にて切取り易きも革箱なり編者は剪賊と懸意なるには非されども年々新橋上野等へ旅客より届出、盗難品には手提革箱第一に多く次は時計類にして紙入の如きは至て少なしと聞く、是れ革箱の盗み易く切取り易き所以なる可し、如何に敏腕なる剪賊にても肌へに密着せる紙入 胴の類は容易に盗み去り難き道理なれば大金は成丈け肌に着けるやうにするが好し、若し嵩張るほどの大金なれば却て粗末なる箱に入れ荒縄にてからげ行かつた剪賊の目と欺くの一段なるべし、此一條剪賊仲間へは内々にて御傳授申す

◎旅行中日記なき書く人は宿屋に着きたらば何事と措きても眞ッ先に之を認むるやうにすべし、先づ湯に這入つて草臥をぬいた上で書くべし杯と思ふとも浴後は酒となり飯となり之と濟ませばよろしく睡たくなり終に一日の課業と果さずに仕舞ふ事多ければなり、日記と二日三日づゝ溜めて書くやうになりては之れ日記と中絶するの緒なり

◎瀛車にて旅行する人は必ず最近の瀛車發着時間表と携へ且つ所持の袂時計は停車場の時計と合せ置きて時間の狂はぬやうにすべし、Time is Money と云ふ金言とあるに何程先を急がぬ旅なればとて停車場に來りて徒らに二時間、三時間の長待ちをするも一生取返しの附かぬ大損と云ふべし、偶々汽車が十分二十分延着する事あれば小言と云ふ癖として自分か無駄に時間を費すは何とも思はざる乎、世に人間はと云ふ儘なるは無し

◎鐵道旅行者の爲め特に二三の御注意を促し置くべき事あり、先づ列車の既に徐々として進行を始めし時に客車へ飛乗る者又は列車の未だ全く停止せざる前に乗車場へ飛下る者は鐵道規則に依りて處分せらるゝのみならず若し一步誤れば汽車に輾かれて命を落すか左なくとも顛倒して顔手足をすりむく位の怪我はあるべし、我身を傷つけ人に譏られ其上に尙ほ罰金の處分を受けては是ほど馬鹿氣たる事はなし、若し命と大切と思はばゆめく此の飛乗り

飛下りの煙葉と演す可からず

◎客車の内にて煙草を吸ふ者其の吸殻と煙の戸袋の間にはたき落す事間々あれども此の戸袋には紙片、塵埃の類積もり居りて客車とばら／＼に取外して修繕する時の外塵ほこりは其儘に存在し居るものなれば若し其の吸殻の紙片塵埃に燃え移りて火を出す事さもなれば乗客數千人の危険は云ふばかりも無く其の會社に損害と與ふるも亦莫大なるべし且列車の進行中には風なき處にも風を起し愈々其の火勢を熾んならしむる虞れあれば巻煙草の吸ひ残り及び吸殻等は必ず車中に備へある唾壺の中に入る、か又は戸外に投げ棄つべし

◎五十哩以上の乗車切符と購へる人は其の途中左記の各驛にて下車し再び他の列車に乗り繼ぐと得るなり又其の切符の通用期限は百哩までは二日間、二百哩までは三日間、三百哩までは四日間、三百哩以上は五日間なり

途中下車し得べき驛名

- (東海鐵道線) 川崎 横濱 大船 藤澤 大磯 國府津 御殿場 沼津 興津 静岡 濱松 豊橋 岡崎 大府 熱田 名古屋 岐阜 大垣 米原 彦根 草津 馬場 大谷 稻荷 京都 山崎 大坂 西ノ宮 神戸 (日本鐵道線) 熊谷 高崎 大宮 小山 宇都宮 西須野 白河 郡山 福島 仙臺 松島 一ノ關 盛岡 尻内
- (山陽鐵道線) 姫路 岡山 尾ノ道
- ◎鐵道旅客の手荷物は上等客一人一付 斤まで、中等客六十斤まで、下等客三十斤まで無貨

にて運送す、旅客は先づ出札場にて切符を買ひ手荷物と其掛員に頼むと同時に切符とも示すべし又手荷物へは必ず本人の宿所姓名并に送り先を記し置き之と小荷物掛へ托したる時は引換の符合(チエッキ)を受取り置くべし

◎旅行の服装は男子ならば四季ともに洋服を便利なるべけれ若し新たに旅行用の洋服を製せんとならば其の仕立方は少し寛やかなる方に誂へるが好し、又ポケットも成べく大きくして之には必ず履を附け尙ほ鈕、コハセの類にて其履を止めるやうにすべし、是は冷氣の時雖も徒歩二里三里の長きに及べば自らか体温を増し外套上衣の類を脱して肩に掛けつ、歩む事などもあるべし其際ポケットの履を鈕にて止め置かざれば手帳、錢入の類すべり落ちて遺失する事もあるべし

◎旅行には絲のなき軟かなる帽子(俗に烏打帽子といふの類)最も妙ならん縁のある高帽、兜形の帽子などは車上居眠りとして落し又は風の爲めに吹飛ばさるゝ事あり、夏の日光を避くるには白金巾の覆を附けたる饅頭笠に限るなり(体裁のよしあしは論ぜず)是は編者の新發明のみには非ずして我邦に來遊せし某外國人も大に之を賞せし事あり

◎足に履くものは草履、草鞋、日和下駄の類人の好き／＼に任すべきも靴は編み上げといふもの最も旅行に適す、然れども是はよく足に合せて少しく寛やかなる加減に誂へしものに限るなり、出來合の靴は假令最初の内は心地よきも二里三里を歩む間には忽ち足痛を起す事あればなり、其靴の雨水に濡れたる時は必ず陰干にし爽して日光に晒す可からず又乾き上りたるを待ちて之に獸脂を塗るもよし

◎假令靴はよく足に合ひたりとも靴足袋の粗製なるものを穿つは亦足痛を起すの一原因なり故に靴足袋は上等のものを擇び夏までも猶ほ毛糸製を用ふるが好し、若し長く歩みて足痛を起す事あれば一たび靴を脱して右の足に穿ちし足袋を左へ、左の足なるを右へ履き換ふれば足痛癒ゆるも妙なりと、是れ矧川漁長の實驗談なり

◎むし暑き地より海濱山嶽等の清涼なる處に移り俄かに冷氣に逢へば忽ち感冒などに罹るとありて是は肌膚の軟かなる人に多し是等の人々は夏にてもフランネルのシャツを纏ふを好しとす、金巾のシャツの汗に濡れたる時空氣の冷寒なるに逢ふは感冒とさうふの媒介となるものなり

◎山に登る時は必ず最初より急ぐ可からず初めは緩歩し 成るべく一時に疲れの出でぬやうにすべし、空氣の稀薄なる高山に登りて頭痛などを催す時は少量のブランドーを飲むも好し

◎旅行漫遊者は必ず此の「漫遊案内」を携帶すべし一冊の價ひ僅かに數十錢、行くく名所と探るには活きたる案内者と伴ふに異ならずして旅客に取りては錢に換へ難き利益ありとぞ(此一節何人の書き加へしものによ編者の與り知る所にあらず)

著者は斯く一方に向つて旅行漫遊を勸むると共に亦一方に向つては大に旅舎の戒心を請ひたきものあり开を如何にといふに近來商賣競争の結果として各地の旅店殊に夏季のみを書入れの好時機とする温泉宿、海水浴舎の内には唯だ一時の利にのみ迷ひて往々客を欺くの悪計を運らす者あり

り例へば豫て車夫と内約を結び置き客一人を誘ひ來れば若干の禮金を與ふるが如き是れなり而して其の禮金は果して旅舎の自辨なるかと問ふに其實は皆客の會計中に附掛を爲すものなれば結局客の懷中より出すに異ならず、此の如くにして其家長く繁昌すべき乎惡評立どころに世間に傳はり終に自滅を招くの緒となるべし、一家の不評判は延いて其地の衰微を來すの基なれば旅舎を營むものは唯だ誠實の二字を以て客に接する事こそ望まほしけれ



茲に東海道の部と記せしは悉く東海道十五國を包含するの意にはあらずして所謂東海鐵道の通ずる所及び關西鐵道の横ざる國々に於て沿道の名所を詳記するものなり且其の順序は山崎より始まりて漸次遠きに及ばんとす故に此一欄は東海道線、關西鐵道線、參宮鐵道線及び熱田瀨船航路の沿道に於る名所の案内を爲すものと見て可なり

●池上本門寺

路を東海鐵道線に取り先づ新橋停車場を發すれば十九分間にして大森に達す(下等氣車賃七錢)大森停車場の西隣にある一丘陵を八景園と稱し園内に櫻樹梅樹を栽う其の門前を左折し西南に行くを廿七八町にして長榮山本門寺に至るべし、當山は日蓮上人弘法の一道場にして又上人終焉の地なり、寺門より一條の石階を通じ二王門を入れれば正面に本堂、左方に

釋迦堂、右の方杉林の中に五層塔あり又左方の阪路を下りたる處に日蓮上人の廟及び眞骨堂あり堂は六角形にして蓮華の狀をなせる礎石の上にて之を建つ蓋し近年の築造に係るものなり、現在の本堂は日洞上人の再建にして堂内には祖師の本像を安置す、毎年十月十二、十三、十四日は俗にお會式と稱し信徒等の何々講と記せる旗、萬燈等を押立て太鼓を鳴らし題目を唱へつゝ參詣する者幾萬人なるを知らず實に驚くべき賑ひなり、寺門の前には二三の旅人宿あり又丘陵の東麓には光明館、松風館等の旅店兼割烹店あり、其地より涌いづる鹽類冷泉を槽に貯へ沸して客の入俗に併ふ夏季は都人士の來り遊ぶもの多し

●川崎大師堂

大森の次驛を川崎と云ふ此停車場より東して川崎町の市街に出で六郷川の堤に沿ひて東に下ること凡そ二十町にして大師堂あり、金剛山平間寺



と號し方十間餘の巨堂巍然として聳に内に弘法大師の像を安置す、傳へて云ふ昔し大治年間此地に平間某と云ふ者あり偶々海中より大師の像を得之を小堂に安置せしが其弘徳著るしとて年々信徒を増し終に今日の大伽藍を見るに至れりとぞ、今は本堂の左に新大日堂あり其の南隅を拓きて遊園地と爲し花木を栽に泉池を穿ちて大に其の風致を補へり、毎年一月、五月、九月の廿一日には護摩供を修し三月廿八日には御影供を行ふ、之を縁日と稱し東京、横濱其他近郷より參詣する者雲の如く山の如く其の雜沓云はん方なく鐵道局にても亦年々臨時瀛車を發するを例とす

● 金澤八景

前記の大森より鶴見、神奈川の二驛を経て汽車は横濱に着すべし、横濱は日本五港の第一に位し又神奈川縣廳の所在地なり、戸數は三萬に近く陸には巨屋櫛比し海には船舶輻輳し外國居留地の立派なる、海外貿易の

盛んなる皆な田舎漢の目を驚かすに足るべきも此地より遊覽すべき名所に至ては唯だ金澤八景あるのみ、金澤は横濱を距る西南四里餘武藏國久良岐郡の南端に在り、東南に海を擁して夏島、烏帽子島は灣の入口に點在し彼には連峯を遶らして山水の眺め兩つながら備はり全体の風景杭の西湖に似たりとて大明の心越禪師曾て八勝を選びて詩賦を残し吉田の兼好法師も亦此地に住ひて大に景色好きを賞したるの地なれば遠く望めば宛がら箱庭の如く絶景云はん方なし、所謂八景とは洲先の清嵐、瀬戸の秋月、小泉の夜雨、乙艦の歸帆、稱名寺の晚鐘、平瀨の落鴈、内川の暮雪、野島の夕照にして此の八勝を一時の中に收むるの地は能見堂を以て第一とす、能見堂は稱名寺より西北に當る山上に在りて禪宗の草庵なり、此地より眺むれば名にし負ふ八景は雙眸の中に集まり寸人豆馬は云ふも更なり沖ゆく舟は木の葉を泛べたるが如く夏島は蓑龜の脊を干すに似て絶景筆の及ぶ所にあらず、山を下れば即ち稱名寺にして此寺昔しは

龜山帝の勅願所、金澤顯時の建つる所と云ひ境内阿彌陀院の脊後に顯時及び其子貞顯の墓あり、茲より町屋村を過ぎて洲先に至り行くを百歩ばかりにして瀬戸の斷橋あり、橋畔にある割煮店を東屋、千代本と云ひ兩家とも庭は入江に臨みて見晴しよく魚肉は殊に鮮けきを誇り客ある毎に生洲の魚を捕へ活ながら之を料理するを常とす、瀬戸明神は東屋より西の方凡そ一町餘、瀬戸辨天は同じく社前の道を隔て、南の入海に斗出せる小島に在り、同所より西南に向ひ更に六七町を進めば小山の中腹に金龍院といふ寺あり世俗飛石山とも呼び福宗にして鎌倉の建長寺に屬せり、其の境内に九覽亭なるものありて同所よりの眺望も亦敢て能見堂に譲らず、八景の外に能見堂をも併せ覽るの意にて亭を九覽とは名けしものどろ、又其西泥龜新田には多く牡丹を培養し晩春の頃節を曳く者絶えず、楮此地に赴くには根岸、杉田(杉田は名高き梅の名所なり)富岡等を經て洲先に出るが順序なれども旅客の都合に依りては漁車にて鎌倉に到

り同所より朝比奈の切通しを經て此地に出る方便利ならん、鎌倉より金澤までの里程二里十町其の途中切通しの峠十八町ばかりの間を徒歩すれば其他は自由に車を走らせ得べし、鎌倉より此地に至る人力車賃一人乗廿五六錢、横濱は車賃の不廉なる處なれば同所より金澤まで車を僦へば其賃金七八十錢を費さるを得ず、又野島より横須賀まで水夫二人乗の舟賃は四十錢

◎ 鎌倉

鎌倉とは廣袤東西二里南北一里餘、雪ノ下、大町、小町、扇ヶ谷等十三ヶ村に亘れる一郷の總稱にして町村制實施の後は東鎌倉、西鎌倉の二村に分る、其東は巒峯秀で、武藏相摸の兩國を界し南は相摸の海に臨みて遙かに伊豆の大島と相對す鎌倉は中古源氏の覇を起し次で北條氏の占據せし古への大都會にして名祠靈刹固より多し故に遊客は消夏の序に名所

を採り古跡を尋ね以て考古の材料となすも亦面白かるべし今其の重なる勝地を擧れば

鶴ヶ岡八幡宮 は國幣中社にして應神天皇、神功皇后、大仲媛の神を祭る

東京より此地に遊ばんとするには新橋より瀛車に乗り大船にて更に横須賀行の列車に乗換ふれば第一着の停車場は即ち鎌倉にして同停車場は八幡宮二三鳥居の間に在るを以て徒歩三四町にして八幡宮本社に到るを得

べし(新橋より鎌倉まで瀛車賃下等三十三錢)相傳ふ八幡宮は康平六年伊豫守頼義の建立する所にして永保元年陸奥守義家之を修葺す其後治承四年源の頼朝小林郷に之を再建し建久二年更に今の地に遷宮して大に寶殿を造營せしと云ふ、停車場より二の鳥居、一の鳥居を潛り赤橋を渡りて境内に入れば正面に神樂殿、右には仁徳天皇を祀れる若宮、頼朝公を祭れる白旗の宮あり昔し義經の妾靜が頼朝の命に依り想夫戀の唱歌を詠ひて一曲の舞を奏せしは此の若宮の社殿なりとぞ、又石階の西側に柳の

大樹あり承久元年常宮の別當公曉が實朝を斬殺したるは即ち此處なりと言傳ふ、石階を登れば直ちに本社ほんせんの拜殿はいでんに達す本殿は堅九間、横三間にして拜殿は四間に二間なり、本社に寶物ほうぶつあまたあり頼朝の木像を始めとして武器數百點を陳列す拜覽料を納むれば誰にても縦覽し得べし、近來境内の周圍に競馬境を設け大に風致を損したるは惜むべし

鎌倉宮 は官幣中社にして大塔宮護良親王を祭る、本社は八幡宮より東北凡そ六町二階堂ヶ谷の山麓に鎮し明治二年の創建に係り素朴にして高潔、賽人をして自ら其襟を正さしむ、社背に會て親王の籠らせ給ひし土牢あり二段の石窟にして窟の廣き疊八疊を敷くべく今は其の正面に板圍いたがきひを設けて漫りに人の入るを許さず一たび此社に賽して建武の昔しを追想せば誰が暗涙を催さざる者あらんや噫

頼朝屋敷跡 は八幡宮の東金澤道の傍らに在り治承四年頼朝公大庭景義をして邸を大藏の卿に新築せしめ同年十二月上總介廣常が宅より新築の

邸に移り玉ふとあるは此地の事なり今は一の法華堂を殘すのみにて其地は茫々たる田圃と化し去りて榮枯盛衰の理り目のあたりにより一見自から懐古の情に堪へず

荏柄天神社 は頼朝屋敷の東北に在りて鶴ヶ岡八幡宮の一ノ鳥居を距る

と凡そ七町、本社に菅丞相東帯の像を安置す本社創建并に木像の作者

共に詳らかならず、一説に和田胤長の邸地は即ち此社境内の西南隅今の

茂林中にありしならんと云ふ者あり猶ほ考ふべし

壽福寺 は山號を龜谷山と云ひ八幡宮の東龜ヶ谷に在りて鎌倉五山の第

三なり開山塔、書窟、政子塔、實朝塔、望夫石等は皆此の寺内にあり

英勝寺 は福壽寺の北隣にありて東光山と號す太田氏英勝院禪尼自から

菩提の爲めに念佛道場を創立し水戸中納言頼房卿の息女をして薙髮せし

め以て此寺の開山住持と爲せしと云ふ、此地は太田道灌が舊宅なり

淨妙寺 は稻荷山と號し五山の第五なり、開山塔を光明院と云ひ開山の

像、源の直義の像あり又光明院殿本覺大姉と書したる位牌あり足利義氏を法樂寺殿正義と號し其女を光明院と號す光明院は權大納言隆親の室にして隆顯の母なり

建長寺 は巨福山と號し鎌倉五山の第一にして建長元年相模守北條時頼

の創建に係り宋僧道隆(大覺禪師)を以て開祖とす總門の額は寧一山の書

する所にして其の巨の字に一畫を加へて書きたるを以て世人之を百貫點

といふ、山門は其の構造を宋の寺門に摸擬せしものにして結構の宏大な

なる鎌倉數十の靈刹中敢て其比を見ず又佛殿には丈六の地藏菩薩を中尊

とし其他同像千體を安置す

長壽寺 は寶龜山と號す源の基氏其父尊氏の爲めに建立する所と云ふ尊

氏を長壽寺殿妙義仁山大居士と號し延文三年四月薨す尊氏の塔今猶ほ客

殿の後なる山際にあり昔しは此邊に尊氏の屋敷有りしとも云へり

禪興寺 は福源山と號す淨智寺の筋向ひに在りて本殿には釋迦佛を祭り

別に蜀の大帝、韋駄天、北條時宗、同時貞、上杉重房の像各々一軀あり又祖師堂には大覺禪師、北條時頼の像を安置す其の東隣にある寺を明月院と云ふ亦觀るべきの靈刹なり

圓覺寺 は瑞鹿山を號す鎌倉五山の第二にして建長寺の西北二三町宇山

ノ内にあり弘安五年相模守北條時宗の創建にして宋僧祖元(佛光禪師)を開祖とす總門は建長寺の如く宋の寺門に摸擬したるものにして其額は後

光嚴帝の宸筆なり、佛殿の額も亦後光嚴帝の宸筆にして祖師堂には達摩、

百丈、臨濟、開山の像を安置し土地堂には伽藍神及び代々將軍の位牌を

藏す其地岩窟觀音、開山塔、佛日庵、坐禪窟、虎頭岩等皆な寺内に在り

其の寺域は凡そ五千二百坪なりとす

妙本寺 は長興山と號す停車場の東南僅かに數町大町比企ヶ谷に在り、

文永十一年日蓮の俗弟子比企大學三郎の創建する所にして寺内に比企氏

一門の墓あり、本堂には陳和卿が作りし釋迦の立像を安し御影堂には祖

師の像を安す又佛舍利一粒、水晶塔の中にあり高さ一尺五寸許にして平

ノ重時が所持せしものと傳ふ

光明寺 は天照山と號す僧良忠(記主禪師)の開山にして仁治元年北條經

時佐介ヶ谷に創建し後ち寛元元年今の亂橋材木座に移す始めは蓮華寺と

號せしが後ち光明寺と改め方丈を蓮華院と名く三門天照山三字の額は後

花園帝の宸筆にして二尊堂には辨財天の像及び善導の像を安置す

長谷觀音 は海光山と號す鶴ヶ岡八幡宮一ノ鳥居より西凡十八町の處に

在りて阪東巡禮第四の札所なり本堂には十一面觀音の像安置せり

大佛 は長谷觀音の北、御輿嶽の麓にあり、像は唐銅の盧遮那佛にして

長さ三丈五尺、膝の廣き五間半、袖口より指先まで二尺七寸餘、掌中に

二三人を立たしむること易し奈良の大佛と共に日本の二大銅像となす、

傳へて言ふ昔し寛元年間茲に一字の精舎を營み高さ八丈餘の阿彌陀の佛

像を安置せしものなりと然れども此像は何時の頃にか滅亡し現存のもの

は建長四年に鑄造せしものなりと、此外神社佛閣、名所舊跡の類枚擧するに違わらず故に多くは省略せり

●海濱院 鎌倉海水温浴場の名にして停車場の南凡そ十町餘、由井ヶ濱の松林中にあり元と横濱の豪商某々等相謀りて新築せしものにして機械を以て海水を館内に引き常に之を温ためて浴を取らしむるの仕掛なり又夏は海水の塵埃なき處を擇びて冷浴せしむ此地南面は海濱に接して江ノ島富嶽と相對し近傍に貴顯紳士の別荘多く眺望快豁にして頗る風色に富めり、館は純然たる外國ホテルの仕組にして飲食臥具の類皆備はり且重に外國人を客とし其宿料は一日二圓五十錢の定めなり、普通の旅館には長谷の三橋樓(三橋與八)を第一とし之に次では雪の下に對鶴樓(角屋正左衛門)丸屋(岩澤作太郎)三橋支店(伊東右朔)等を善しとす

●江ノ島

江ノ島は鎌倉入幡前停車場より七里ヶ濱を経て西凡そ二里、鎌倉郡南端の海中に點在す、鎌倉より人力車に乗りて極樂寺切通しを過行けば左に稻村ヶ崎を望む稻村ヶ崎は前に由井ヶ濱、七里ヶ濱の海濱を擁し西南は江ノ島及び遠く富嶽と相對し後は松山を負ひて風景佳絶の地、元弘三年新田義貞黄金作りの太刀を海に投じて勝軍を龍神に祈りしは即ち此處なり、茲より腰越までの間を七里ヶ濱と云ふ其長さ關東道の七里(六町一里)なるが故に名く、七里ヶ濱を過ぐれば直に腰越村に到る往古源の義經平族を平げて鎌倉に入らんとせし時梶原景時の讒に依り兄頼朝の爲に拒まれ終に入ることを得ざりしかば其臣辨慶に命じて書を作らしめ以て其冤を訴へたるは即ち此地の事にして滿福寺は當時の旅館なりしと云ふ、滿福寺は龍護山と號し硯ノ池、辨慶腰掛石など云へるもの寺中にあり茲より江ノ島まで十距離なり

江ノ島は一に金龜山と號す此島は欽明天皇の御宇壬申の年四月十二日よ

り廿三日まで打續きたる大地震の時突然海上に噴起し終に一孤島を爲したるものにて又の名を鷗鷺來島とも云ふ、此地東は七里ヶ濱、由井ヶ濱等の鎌倉海濱に面し西に富嶽、箱根山より大磯、小田原の海を望み南は渺茫たる大平洋に連なり四顧皆な互相房總の風景を占めて眺望飽くを知らざるの地なり、片瀬の洲鼻より島の入口まで十四町四十間、島ノ入口より龍穴まで十四町餘、退潮の時には砂洲を歩みて島に渡るを常とす、江之島神社は多紀津姫命、市杵島姫命、多紀姫命三神を祭り本社は島の西南小高き處にあり去れど昔しより本宮と稱するは島の南端龍穴中にあるものにして今の本社は其の御旅所なりとぞ、本宮は窟の内院にありて弘法大師の作れる辨天の神像を安す窟辨天即ち是なり窟の口は南に向ひ常に海水を湛へて甚だ危し左傍に設けたる棧道を歩みて窟中に入れぼ行くに随つて四面愈々暗く夏日と雖も冷氣猶ほ肌を襲ふ、行くを數歩にして洞窟左右に岐れ一を胎藏界一を金剛界といふ其奥に兩部の大日如

來を安す又東の窟に無熱池あり西の窟に日蓮上人の座跣石あり傳へて云ふ日蓮此窟の中に籠り石上に坐して冥感を祈り自ら法華經を寫して窟の院内に藏むと、此外島中に上ノ宮下ノ宮あり上ノ宮は文徳帝の仁壽三年慈覺大師の創造する所にして辨財天女の像を祭る下ノ宮は建永元年良眞上人の開基にして源實朝之を創建す本尊辨財天女の像は弘法大師の作にして其他慈悲上人(良眞)慶仁禪師源ノ實朝等の像を安置す、偕此二社を過ぎて前記の龍穴に下らんとする島の南端に兒ヶ淵といふ處あり昔し相承院の白菊と呼べる兒自休藏主といふ庵主に戀慕せられ其心の切なるに絆されけん終に身を此淵に投じて死しぬ自休後に之を聞き續いて投身して死しければ其處を兒ヶ淵とは呼ぶとぞ今は夏日に至れば此邊に蜚の子等打つとひ旅客に銅貨を投させ先を争ひつゝ水中に潜り入り之を拾いて我が所得とす、江ノ島にて名ある旅店は惠比壽屋茂八、金龜樓昌廷、岩本樓亮泰、讚岐屋八右衛門、北村屋忠右衛門、江戸屋忠五郎、堺屋平

重郎等にして皆賽路の兩側に其軒を連ね、楮前には鎌倉よりの道順を記せしが若し東京より直ちに江ノ島に來らんとするには藤澤停車場（新橋より下等瀟車賃三十二錢）にて下車し人力車にて同處より片瀬まで一里餘の間を走らすれば僅かに四十分間にして達す、藤澤驛には有名なる遊行寺あり藤澤山清淨光寺と號す、時宗の本山にして開山を吞海上人と云ひ正中二年の創建なり、住職は代々遊行上人と號し寺をも俗に遊行寺と呼ぶに至れり、昔しは本堂、樓門共に宏壯なりしも一朝祝融に罹り今の堂宇は假建てなり、其の後山なる富士見亭は山海の眺望佳絶の地にして曾て今上天皇西幸の途次鳳輦を駐めさせ給ひし處なり

龍口寺 は藤澤驛より江ノ島に近づく途中、川口村大字片瀬の龍ノ口といふ處に在り、文永八年九月十二日日蓮上人將に此處にて斬首せられんとせしも法華經の功德に依りて種々の奇瑞を顯はし終に其難を免れたる舊地にして世に龍ノ口の御難と云ふは即ち是れなり、弘安年中日蓮の弟

子日法等其の舊趾に寺を營み日法自ら祖師の像を刻みて堂内に安置す此像今尚ほ本堂に在りと云ふ、其の内陳に敷草石あり日蓮難に遭ふ時此石の上に坐せしとき一名を首の座石とも云ふ、毎年九月十二日に會式を修行し近郷より參詣する信徒は蟻の甘さに簇がるが如し

◎ 逗子海水浴

鎌倉より瀟車に乗りて西行するに先だち看客に案内すべき二三の海水浴場は猶ほ横須賀支線近傍に在り逗子海水浴場も又其一なり、逗子は横須賀支線に於る鎌倉より第二の停車場にして新橋より下等瀟車賃三十五錢停車場より西に向ひ行くこと數町にして其海濱に出れば前面に近く江ノ島を望み伊豆の陸地は大島と連なりて一大灣形を爲し其の風色をさく江ノ島鎌倉に劣らず、海水浴旅店は養神亭（丸富次郎）日影ノ茶屋（角田正右衛門）等にして孰れも海岸眺望の宜しき地を擇びて建築し傍ら割烹



を業として客を待つ養神亭一日の宿料は二十五錢以上五十錢までにして之を他の海水浴場に比すれば其價ひも亦稍や廉なり此外近傍に貴顯の別業多く又停車場を距る南の方一里餘字長者ヶ崎と云ふ處に長者園（小澤仙太郎）あり前に白砂を擁し後に翠松を遶らし風景は逗子と伯仲の間にあれども幽雅の點に至りては優るあるが如し、逗子停車場より人力車賃十二錢夏季に至れば孰れも浴客充滿して其の繁昌云ふばかりなし

◎横須賀海水浴

逗子より瀛車に乗りて横須賀に到れば同地の海岸に海水浴場三富館（三富利右衛門）あり此地は逗子とは全く反對の海岸にあるを以て其の眺望も亦大に異なりて頗る目新しき心地す、三富館は横須賀町若松海岸内の東京灣に突出せる閑地に在りて後には米溪山松岸寺の勝地を扣へ前には鋸山、鹿野山、筑波山と近くは富津第一第二砲臺及び猿島夏島の砲臺

を望み涼氣脈々人の骨に沁し清風颯々人の袂を拂ふなど亦一個の好避暑地なり、停車場より三富館まで人力車賃八錢、同館宿料は上等六十錢、中等四十五錢にして館内別に潮風呂、眞水風呂の設けあり  
 ●横須賀は東京灣の西岸に位する軍港にして市街は後に丘陵を遶らし戸數二千九百餘を有し地に鎮守府、海軍造船所、汽關學校等あり、造船所は規模頗る宏大にして船渠の如きは大小三ヶ所を有し今は巨船大艦と雖も容易に製造し得るに至れりと云ふ以て我邦工業進歩の一斑を窺ふに足るべし旅店には三富屋（前記三富館の本店）三浦屋安榮、松阪屋藤造其他數軒あり、東京より汽車を通ずるの外東京灣汽船會社の小蒸氣船日々此地に往復す東京よりの下等賃金は二十錢なり

◎大津海水浴

横須賀より南一里餘（人力車賃十八錢）三浦郡浦賀町宇大津の海濱には海

水浴旅館大津館あり其の風致は稍や前記の三富館に優るもの、如し同館の構造は建坪四百餘坪の總二階建にして其の眺望は三富館に加ふるに右に觀音崎の砲臺左に本牧富岡の諸灣隻眸の中にあり同館宿泊料は一週間上等三圓五十錢より特別五圓迄、中等三圓五十錢より三圓まで、並二圓、又横須賀より海上此地に到る仕立船賃は三十錢より五十錢までにして一艘十名以内の客を容るゝと云ふ

● 松輪海水浴

少しく其道は隔たれども相州三浦郡の南端に新設の海水浴場あり筆の序に御紹介をすべし、横須賀停車場より浦賀町まで陸路一里三十町、同所より凡そ四里にして三浦郡南下浦村に至る、同村字松輪に海水浴旅店松輪館あり、此地は東京灣の咽喉に位し前面は安房の鋸山と相對し右手にて劍崎の燈臺を望み其の濱邊は砂石海水共に最も清潔にして海水浴

浴に適す、館は數十の客室を備へ自由に百名の客を泊さしむべく其の宿料は上等一日四十錢、中等三十錢を以て定めとす、陸路横須賀より車を驅れば賃金六七十錢を費すべさも若し東京靈岸島より三崎通ひの汽船に投ずれば五時間にして此地に着し其の船賃も僅かに十錢に過ぎざるべし(以下再び東海鐵道の順路に戻る)

● 鵠ヶ沼海水浴

鵠ヶ沼は藤澤停車場を距る南二十餘町、江ノ島を距る西北凡そ十二町の處にあり此地は一の瀨形を爲し前面には江ノ島に近きと手に取るが如くに望み東は片瀬、腰越を隔て、相房の遠山を眺め南は大島及び伊豆の小島等を水天鬚の間に認め西南は伊豆の陸地と相對し西には富嶽、後には大山連きの巒峰を遶らして其の眺望をさく、江ノ島に劣らざれど此地は近年に開けたる處なれば世間未だ其名を知る人多からず、地は一面の

砂濱にして處々に松樹雜茂し其の水浴場に充つる處は海面十餘町の遠淺にして浪高からず潮水も亦清潔なれば老人婦女と雖も決して危険の恐れなし、料理屋にして宿屋を兼ねるもの四戸曰く鵠沼館、曰く待潮館、曰く東樓、曰く三升樓、皆新築に係るものにして物價は他の浴場に較べて稍や低廉なれば轉地療養等には頗る適當の地なるべし其他蜂須賀侯爵、藤浪侍従、高崎五六、田中平八、諸氏の別荘あり、藤澤停車場より此地への人力車賃は晴天十錢を以て定めとす

◎ 大山(雨降神社)

鵠ヶ沼より西北を望めば甲武の連山南に延びて漸く低くなりし處に隣蒼として那波翁帽形の山天表に聳ゆるを見るべし是れを相模に名高き大山とす、新橋より平塚停車場まで嵐車賃下等四十錢茲より人力車に乗換へ中原、豊田等を経て上粕屋村に至る此の里程三里、人力車賃二十八錢、同

同處子易明神前より二十餘町の間は峻阪にして車を通せず(駕籠賃二十錢)此阪を登り詰れば即ち大山町にして人家凡そ三百軒ばかりを有し道の兩側には商家櫛比し就中舊御師の家、宿屋、茶店及び名物の挽物細工を鬻ぐ家多く行々道の右傍に良辨の瀧と呼ぶ小瀑布を望むべく其他山上に新瀧、大瀧等の瀑布多し、町の盡處より阪路二つに分れ右を男阪と云ひ左を女阪と云ふ登ると八町にして奥の不動堂に至り茲より猶ほ登ると十八町にして雨降神社の本殿に達す祭る所大山神命にして神體は巖石なり故に石尊大權現とも云へり傳へて云ふ日本武尊東夷征伐の時此の岩上に腰を掛けて憩ひ給ひしなりと又親鸞上人七ヶ年間相州を經歷の時茲に登山して石面に歸命盡十方無碍光如來の十字を鐫刻し後ち本願寺第八代蓮如上人を拜して其主旨を書せりと、毎歲舊曆六月廿七日より七月十七日までの間本社に於て祭事を執行し此日限中は東京其他近郷より白衣を纏ひて參詣する者頗る多く之を山參りとは云ふなり、大山町の旅館は

翠浪閣を以て最とし一日の宿料は廿五錢を以て定めとす其他伊豆屋（小川忠兵衛）駒屋（原菊次郎）玉木（武喜代馬）の旅店ありて夏日此地に來りて暑を避くる者多し去れど大山町は大山、櫻山兩山の間に挟まれ眼界廣からずして眺望に乏しければ景色を愛する人は雨降神社に登るか又は櫻山に攀るを善しとす櫻山は町の右方にある峻嶺にして僅かに一二町を登れば眼界忽ち開け一碧の相模灘寸眸に入り來りて蒼嵐翠雲亦脚下より起る誠に一世の奇觀なりとす

◎ 大磯海水浴

大磯海水浴場は大磯停車場を距る南の方僅かに四五町の海濱に在り地は南に面して渺茫たる太平洋を望み右に伊豆の眞鶴ヶ崎、左に相模の長鶴ヶ崎を擁して長汀之に連なり西に富嶽あり東に江ノ島あり、鐵道線路を隔て、北には高麗山、千疊敷山、泡多羅山など稱する高丘連亘す、海

濱は即ち古歌に小ゆるぎの磯と讀みたる名所にして奇岩汀に起伏し磯吹く風は青松を鳴らし岸打つ波は白砂を洗ひて蕭々また颯々たり、海水浴旅館は禰龍館、松林館、招仙閣、愛林園、太田樓等にして別に角屋、宮代屋、石井、青柳等の普通旅館あり旅館は皆潮水を館内に導き一大温泉場を設けて客を浴せしめ又海濱には各々休息所を設け下帯、湯巻、麥藁帽子等を貸與し婦女兒童には附添人を出して水浴せしむ、禰龍館は去る明治九年元の軍醫總監松本順翁が潮水の清良なるを見て此地群礁の間に水浴場を開きしと同時に有志と謀りて新築し浴客の宿泊に便ならしめたる高樓にして館内に客室數十を備へ別に數棟の離れ座敷を有し洋食和食共に客の好みに應じて調理す其の席料は室に依りて高下あり宿泊料は日本賄ひにて一日五十五錢（晝食共）但し毎歲十月一日より六月三十日迄の間は席料等に特別割引を爲すと云ふ、松林館は長者林の中にあり庭前松林の中を運動場となし二階あり離れ座敷ありて頗る廣濶、且つ

幾百本の磯馴松は館を圍繞して一碧海と連なり冬寒からず夏暑からずして眺望亦絶佳なり同館定めて宿料は上等一日五十錢、並四十錢なり抑も大磯町は東海道五十三次の一にして古へより繁華を極めしが海水浴の設けありしより以來年を逐ふて一層繁昌に赴き今は戸數一千戸に餘り貴顯紳士の別荘のみにて猶ほ三四十軒の多きに及べり、驛内に郡役所、警察署、區裁判所出張所、郵便電信局を始めしとし料理店、呉服店、小間物屋、書肆、新聞雜誌店、玉突、大弓店等ありて一も不自由を感せず且つ東京への交通汽車片道の旅行僅かに二時間の上に出でざれば夏季には都人士先を争ふて此地に遊び爲めに頗る雜沓を極む、驛の東端延壽寺には虎子石なるもの有り長さ二尺餘の楕圓形にして色蒼黒、石面、鏃の痕を存す、口碑に依れば昔し曾我十郎屢々大磯の妓虎御前の許に通ふ、其仇工藤祐經竊かに間者を虎の家遣はし弓箭を以て祐成を射せしむ其箭石に中りて恙なきを得たり故に十郎身代り石とも云ふと、驛を開放れて

國道を東すれば兩側松並木のある處に道の小高き場所あり之を古へ名高かりし化粧阪の名残とす(鎌倉にも化粧阪の跡なりと稱する處あり)更に東に進めば一流れの小川あり架するに西洋風ペンキ塗の木橋を以てす是れ古への花水橋なり、化粧阪と花水橋の中ほどより國道を北に曲れば高麗山に登るべく山嶺には高麗神社あり、山の半腹稍や平坦なる處に小園を開き梅樹數十株植う、傍らに茶亭あり其の庭園より望めは大磯驛の人家は脚下に俯視すべく左右は相模、伊豆の峯巒と相對し眺觀頗る佳なり、又驛の西端國道の左傍に鳴立澤の舊趾あり、西行法師が心なき身にもあはれと詠みたる地にして丘上に西行堂、虎子堂あり其傍らなる休憩所鳴立庵にては客の望みに應じて西行の筆跡、芦の杖其他の古物を一覽せしむ

◎ 國府津海水浴

國府津は大磯より第二の停車場所在地にして東海道の國道に方り南は海に接し北は山を負ひ眺望もまた鶴ヶ沼、酒勾等に劣らず（新橋より下等瀧車賃四十九錢）古しへは漁家のみ軒を並べし一寒村に過ぎりしも停車場設置以來箱根、熱海若くは小田原に赴く旅客は必ず此地にて下車する事となりしを以て俄かに土地の繁昌を増し大に其の舊觀を改むるに至れり、此地に唐津と稱する小高き丘陵あり古へ親鸞上人唐土より一切經を携へ歸り船より上陸して暫く足を止めたる舊地なりと言傳へ茲に登臨すれば馳望快濶、眞に活畫に對するの思あるべし此地の海水浴旅店は葛屋別莊及び國府津館等にして皆近年の新築に係り其の海岸を以て直ちに冷水浴場に充て館内別に内風呂の備へあり葛屋方一日の宿泊料は一日三十五錢以上、五十錢迄にして又其座敷は一週間乃至一ヶ月の約束を以て浴客に貸渡す事もあり故に家族を携へて永く逗留せんとする者は第二の法に據るを善しとす、背後の山には近年多くの密柑を培養し終に此地の名

産となれり又村の西北一里を隔て、曾我村あり曾我兄弟の木像、其他縁故ある古物を存すと云ふ、此地より箱根湯本に通ふ馬車鐵道あり瀧車の着後十分間を隔て、發車し其の賃金は下等十三錢、中等三十錢、上等五十錢、一輛借切は小の中等四圓、大の中等五圓五十錢、小田原まで下等七錢、上中等は總て湯本行の半額なり

酒勾海水浴

國府津より小田原に至る途中に酒勾村あり（國府津より人力車賃五錢）其國道より左へ入込たる處にある旅館を松濤園と云ふ青松とて此處に生茂れる濱地七千餘坪を圍ひ込みて茲に十四五軒の別莊を建て價を定めて夏日逗留の客に貸渡す、其家は室數多きあり少きありて大小異なりと雖も一軒毎に臺所、湯殿、廝等の設けあれば一家を擧げて出養生に赴むく人には適當の別莊なり又母屋には一大浴槽をしつらへ晝夜海水を沸して入

浴に便し又料理の業をも兼ね客の好みに應じて調進す、別荘の賃賃は其室の大小等に依りて異なれども小なるものは一ヶ月七八圓、大なるものは同じく三十圓乃至五十圓なりと云ふ其の海岸の風景に至りては小田原、國府津等と敢て大差なきを以て故らに茲に贅せず

◎ 小田原海水浴

馭者一鞭を加へて鐵道馬車を國府津より奔らすれば旅客は僅かに半時間にして坐ながら小田原驛に達す此地は大久保氏の舊城市にして戸數二千一百戸驛内に郡役所、警察署、郵便電信局等あり又舊城内には二宮尊徳翁を祭れる報徳神社、舊城主大久保氏の靈を祭れる大久保神社、其北には小峰梅林あり、驛の西端に松原神社あり、海濱なる伊藤伯の別荘滄浪閣に隣れる海水浴旅館を鷗盟館と稱し今は箱根塔ノ澤環翠樓の支店となり、地は後に森林を負ひ前に大海を見晴し樓は頗る廣寛にして數十

組の客を容るゝに足る同館の宿料は一日三十五錢以上七十五錢以下の定めなれども客の好みに依りては座敷のみを賃して自賄ひを爲さしむると云ふ、此地の名物は虎屋の外郎、漬物、鹽辛等にして又通常の旅籠屋は中松屋専助、小伊勢屋作兵衛、片岡永左兵衛門など最も名高し

◎ 道了權現

相模國足柄上郡關本の最乗寺境内に在り世に小田原の道了と稱し毎年一月、五月、九月の廿八廿九兩日の縁日には近縣より參詣人群集し沿道各驛どもに頗る殷賑を極む、汽車の便に據らんとする者は松田停車場にて下車（松田より關本まで二里八町の間人力車を通ず）するも善けれど小田原より參詣せんとする者は途を北に取り井細田、府川、塚原諸村落を経て關本より三里の間人力車を驅り同所にて車を乗棄て立登り廿八町の阪路を攀づれば最乗寺の寺門に達す、當寺は曹洞宗にして應永元年の草

創まに係り本堂、開山堂等は其の結構頗る壯麗なり、其の左方觀音堂の結  
 果門を入り右手の石階を躋りし處に道了薩埵殿あり佛體は古木の立像に  
 して別に大天狗、小天狗を祭る、傳へて言ふ最乗寺開山了庵禪師の徒弟  
 に道了なる者あり無雙の大力にして且神通あり最乗寺草創の時自ら大木  
 巨石を運びて其工事を助け應永十八年三月廿七日了庵の歿する日に當り  
 忽ち身を天狗に變じ永く山門を鎮護すべきことを誓ひ雲中に飛び去れり  
 ど、境内には千餘年を経たりと覺しき老杉亭々として枝を重ね風致深遠  
 にして頗る避暑に適す又山麓關本より明星ヶ嶽を踰り宮城野を経て箱根  
 の宮ノ下温泉に出る徑路あれども險しくして腕車を通ぜず

● 箱根温泉

前に記載せし如く旅客は國府津より鐵道馬車に乗り小田原を経て板橋、  
 風祭、入生田諸村落の左を過ぎ行けば國府津より一時間にして湯本に達

し朝日橋の左方に早くも温泉宿福住の西洋館を望むを得べし、箱根は古  
 へ七湯の名ありしも今は涌口四五ヶ所を増して其數十餘湯となり又近傍  
 に靈地勝區多し今麓の方より順を追ふて其案内を爲せば  
 湯本温泉 は箱根群山の東麓早川の西岸に在り小田原よりの官道は茲よ  
 り左に岐れ三枚橋を経て箱根驛に達し温泉路は早川の左岸に沿ひ右の方  
 に登り行くものなり温泉は湯坂山の麓岩石の間より湧出し其色透明にし  
 て水晶の如く唯だ少しく鹹味を帶るのみ温泉宿福住九藏、小川萬右衛門  
 の兩家にては内湯の設けあれども他の宿屋にては小川の家の後うしろに在る總  
 湯を用ふ其質は少量の鹽分を含むのみにして化學上の成分甚だ少なく殆  
 ど通常の眞水に異ならねば病を養ふには効驗多からねど温泉は浴槽を溢  
 れて清潔なるを云はん方なく且之に伴ふに山明水媚の眺めあり、凡そ箱  
 根七湯の内蘆の湯を除くの外は孰れも單純泉なれども山を登り行くに隨  
 ひて其の含有物多きを加へ底倉に至れば純然たる鹽類泉とはなれり福住



は名ある舊家にして家の構造も西洋風に模擬し小川は純然にる日本造りにして昔しの旅籠屋風を失はず、概して言へば福住は貴族的にして小川は平民的なり今ま兩家の宿料を較ぶれば福住は之を紫紅雪月花の五等に分ち一等（紫）は一日三食及び夜具雜費とも一人一圓、二等八十五錢、三等六十五錢、最下等と雖も一日卅五錢の外に猶は相當の座敷料を要すれども小川は一日五十錢を以て上等の賄ひとなすと聞けり個は重に其食類の如何に依りて等級あるを勿論なれども兩家品格の上より又幾分か此差を生ずる事もあるべし借此地にては先年湯本電燈會社なるものを設立し早川の水力を利用して機械を運轉し以て電燈を點する事とし箱根山中に一小不夜城を現出せり、湯本より總湯の傍らを過ぎ少しく阪道に登りたる湯阪山の麓に瀧ありて名を玉垂と云ふ岩角に觸れて水は幾重にも折れ段々に落ち來るさま最と面白し彼の七湯志に故正兄翁が潭々の名を負はしたるは此瀧の事にや又湯本臺に正眼寺といふ寺ありて曾我兄弟の位

牌を安置すと言傳ふ、之を道中雙六に比すれば湯本は振出しの地に當るをもて今ま各地への里程並に人力車賃等を掲げて讀者の便覽に供ふ

塔之澤迄	五丁	人力車 一人挽	金 五 錢
堂ヶ島迄	一里半	同	金二十五錢
宮ノ下迄	一里半	同	金二十五錢
底倉迄	一里廿二丁	同	金二十八錢
木賀迄	一里廿二丁	同	金三十三錢
小浦谷迄	二里	駕籠賃	金六十錢
蘆ノ湯迄(新道)	三里二十丁	同	金八十五錢
箱根驛迄(國道)	二里廿八丁	同	金七十錢
姥子迄	四里廿二丁	同	金……………
大浦谷迄	三里卅二丁	同	金……………
乙女峠迄	四里二十丁	同	金……………
小田原迄	一里廿二丁	人力車一人挽	金十五錢
國府津迄	三里	同	金三十錢

塔の澤温泉 湯本より早川に沿ひて登ると僅かに五丁にして此地に出づ

塔ノ澤は元と東之澤と呼びしものにや七湯志には東ノ澤今は塔ノ澤と書すと見ゆたり早川は地の中央を貫きて玉ノ緒橋は其上に横たはり四面には岩山聳いて宛然巖の屏風を立て廻したるが如し塔ノ峯の麓萬緑叢中に一點の白壁あるは耶蘇教會堂にして玉の緒橋の傍らに在る小丘に即ち勝驪山なり個は其の景色唐の驪山に勝れりといふ者のありければ舜水やがて筆を採りて勝驪山三字の額を書したる事ありと言傳ふ温泉は孰れも湯阪山の麓又は勝驪山の傍らより湧出し其泉質は少量の鹽分を含むと猶ほ湯本の湯の如し、温泉宿は玉泉樓（堀貞藏）玉ノ湯（福原遠藏）環翠樓（鈴木善左衛門）一ノ湯（小川鎌太郎）藤屋（安藤徳治）福住樓（長谷川まつ）の六軒にして各々内湯の設けあり玉ノ湯は半ば西洋風の建築にして重に外國人を客とす、一の湯は其名の如く此地の舊家にして玉の緒橋を渡りて右に在り其左にあるものは鈴木にて伊藤春畝翁去る明治廿三年此家に宿りし時環翠樓の三字を書して主人に與へしより終に樓號とはな

せしとす其他藤屋、福住樓は皆な七湯路の右側に在り此地近來浴客多く常に繁昌を極むるは温泉宿孰れも業を競ひて旅客の費用を低廉にするが故にして湯本に泊らんとする者も多くは茲に來り宮ノ下に赴く者も亦態々下りて茲に宿りを求むるを聞けり去れど并は只だ費用の一點にのみ拘はる事にして若し景色の上より云へば塔ノ澤は堂ヶ島と伯仲の間にありて遠望の景は残念ながら乏しきものなり今また塔ノ澤温泉の由來を聞くに一説には慶長年間阿彌陀寺開山禪誓師秋山道伯なるものと謀りて茲に温泉浴場を開きしと云ひ又寛永七年今の一ノ湯の元祖小川宗益熊野權現の靈夢に感じて始めて温泉場を設けしとも言傳ふ後の説は貞享元年金湯山端巖和尚小川宗泉の需めにまかせ自ら筆を染めたりと聞えし塔ノ澤温泉の記と云ふ巻物の文に依りしものにて宗益は元と北條家に仕へて弓箭を携ふる身なりしが聊かの事より浪々の身となり年久しく湯本の里に住ひぬ寛永の庚午十月八日一思議に靈夢を感じ來つて此處を見るに

老樹蒼鬱として猪猿の類處得顔に遊び一朝にして村を爲し難さを知り歸りて石川丁江に謀り木を伐り石を運びて地を拓き一の茅宇を造りて居る程に温泉其後ろに湧出でたり即ち最初なる故に一の湯と名づく十三日を經て了江亦も來りて此處に住む云々此の卷物は今猶ほ一の湯小川鎌太郎の家に秘藏すと云ふ昔は兎もあれ今は家數三十軒（塔ノ澤全村戸數は六十餘戸）ばかりも建ち連なり大弓店あり揚弓店あり鰻屋あり鮓屋ありて皆な温泉浴客の爲めに賑へるは靈泉の効驗土地の人にも亦空しからずと謂ふべし、鈴木方の宿泊料定價一等一週間七圓、二等五圓廿五錢、三等三圓五十錢、四等二圓八十錢、五等二圓五十錢にして同家は外國人を除くの外は一切席料を申受ざる定めなりとか他の温泉宿も玉ノ湯の西洋賄ひを除けば其の宿料は略ぼ鈴木と同様なり

●●●●●

堂ヶ島温泉 湯本塔ノ澤より宮ノ下に至る新道は始終早川の左岸に沿ひ山を回り谷を越へ屈曲幾百遍なるを知らず行くに隨つて谷愈々深く山愈

々近し塔ノ澤より登ると二三町にして右に松露ノ瀧を望み又數町にして姥の水と云へる茶屋の傍りに至れば道二筋に岐れ右を新道とし左を舊道とす舊道の方峻しけれども近し湯元より凡そ一里にして少しく平なる處に出つ是を大平臺と呼び家居二十軒ばかりも並び其盡處に至れば茶屋ありて西に宮ノ下を望み風景殊に好し又行くと半里ばかりにして宮ノ下に達す其の二三町手前なる「しのぶ塚」の碑ある處を右に折れ（人力車は茲より下へは通はず）狭くして勾配急なる阪道を下ればやがて堂ヶ島に達す、堂ヶ島は四面山を以て圍まれ其の三方には早川の溪流を遶らし宛然島の形ちを爲す、故に堂ヶ島とは名けしもの乎、地形低く凹にして楯盆の底の如く北には明神ヶ嶽峭立して白絲の瀧は其麓に懸かり見晴しの眺には乏しけれど綠樹枝と交へて日光を遮り溪水は暑さを洗ひ流して夏日は殊に夾涼を覺ゆ、相傳ふ昔し京都天龍の開山夢窓國師老年此處に遁世して行ひ澄まし温泉も亦國師自から發見する所なりと故に湧口の一

ツを夢窓湯と名け土地の小高き處に堂を設け茲に國師の碑を建つ又道の傍らに國師の坐禪石あり温泉宿大和屋には猶ほ國師の眞筆を秘藏せり、當地温泉宿は大和屋爲太郎(小蓬萊館)近江屋半之丞、江戸屋茂與次郎の三軒にして大和屋定めの宿料は一週間一等三圓、二等二圓五十錢、三等一圓七十五錢、四等一圓五十錢、他の二軒も凡そ是と同様なれば一體に費用の低廉ある推して知るべし、其西に離れて新築の温泉宿あり安藤り(龍雲館)と云ふ、其地は堂ヶ島と宮の下との中央に位し家屋は平地より崖の半腹に連なりて一層は一層より高く自から五階の高樓を爲し結構洒落を極め頗る幽雅の趣あり、庭園は舊平松某氏の別莊地を圍ひ込みしものにして園内に瀧あり高さ十五丈幅六尺、形ち數條の絃を懸たるが如く水聲も亦自から琴の音と相似たり、其の上層に木の葉隠れの瀧あり下流は調の瀧と共に早川に入る

宮ノ下温泉 或人戯れて宮ノ下は箱根の中央政府なりと言ひさ是は郵便

電信局、村役場、巡查派出所等皆な此地に在るのみならず風色も亦七湯中の第一に位し此地繁昌すれば他の温泉場も亦随つて潤ひ其影響は往々他の六湯に及ぶとあるが故なるべし宮ノ下は海面より高さこと千百二十尺、早川の水より高さを尙ほ三百尺明神ヶ嶽、明星ヶ嶽の山脈は早川を隔て、北に聳え早雲山、冠ヶ嶽は遙かに西に屹立し小地嶽山、鷹巢山の餘脈西南より來り東に走りて城山、湯殿山に連なり東の方嶺岳の盡る處より遠く相模の海を雲烟の間に認む南北西の三方は斯く山の爲めに取圍まれたれど其の距離遠きともて眼界狭からず且地形稍や平かなれば遠望の眺めに富みたるを七湯中に冠たり、戸數は百戸あまり温泉宿は二軒にして一を富士屋(山口仙之助)といひ一を奈良屋(安藤兵治)といふ兩家とも巨大なる西洋館を築き一軒にして殆ど他の四五軒に敵す就中富士屋は西洋風の高樓を新築して専ら外國人の宿泊に供へ又各室に電氣燈を點じて室内を照せり、奈良屋は本道の右手に在りて日本客室と西洋館とを